

2017年度 事業報告書

1 法人の概要

2 事業の概要

3 財務の概要



学校法人常翔学園
Josho Gakuen



目 次

本法人が作成している資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は、学校法人会計基準の一部改正する省令（平成 25 年 4 月 22 日文部省令第 15 号）にしたがって作成しているもので、同基準による様式は補助金交付の観点からの表示区分になっています。

本法人の事業報告書は、法人の概要（1～37 頁）、事業の概要（38～70 頁）、財務の概要（71～94 頁）を合わせたものです。

I 法人の概要

1. 建学の精神	1
2. 教育の理念	2
3. 教育の方針	3～4
4. 創立 100 周年 長期ビジョンおよび長期目標	5～6
5. 学校法人の沿革	7～12
法人	8
大阪工業大学	9
摂南大学	10
広島国際大学	11
常翔学園中学校・高等学校	12
常翔啓光学園中学校・高等学校	12
6. 設置する学校・学部・学科等(2018 年 4 月現在)	13～14
7. 当該学校・学部・学科等の入学・編入学・収容定員	15～18
8. 学生・生徒数(2017 年 5 月 1 日現在)	19
9. 当該学校・学部等の学費	20～21
10. 役員・教職員等の概要(2017 年 5 月 1 日現在)	22
11. キャンパスの概要(2018 年 3 月 31 日現在)	23～27
12. 組織(2018 年 4 月現在)	28
13. 教育研究の概要	29
14. 入学志願者数・合格者数	30～31
15. 卒業・修了者数(2017 年度)	32
16. 卒業・修了者数(2018 年 3 月 31 日現在)	33
17. 就職状況（進学状況）	34～37

II 事業の概要

1. 理事長指針・学校長方針	38～43
2. 事業計画実績報告	44～57
3. 各学校の組織の改編	58～61
4. 各部門の事業報告	62～70

III 財務の概要

1. はじめに	71～75
2. 2017 年度資金収支計算書の概要	76～81
3. 2017 年度活動区分資金収支計算書の概要	82
4. 2017 年度事業活動収支計算書の概要	83
5. 貸借対照表の概要	84
6. 財産目録の概要	85
7. 財務状況の 5 カ年推移	86～91
8. 財務比率の 5 カ年推移	92～94

《法人の概要》

1. 建学の精神

世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。

本法人が創設された1922（大正11）年、当時大阪は商都から全国屈指の商工業都市へと変貌しようとしていました。しかし、都市計画を実現させるための工学技術者が圧倒的に不足していました。時代と地域は、まさに「理論に裏付けられた現場で即戦力となる専門職業人」を求めていたのです。

こうした時代背景のもと、後の設立者・校主となる本庄京三郎や初代校長の片岡安などの関係者は、「工業化する大阪の現場に即戦力として活躍できる人材、時代が求める中堅専門技術家を養成すること」を目指し、関西工学専修学校の創設へ向かいました。

—現場で活躍するために—

「現場で活躍している教員が、現場の最先端の理論・技術をまるで現場にいるかのように教授する」本法人が今も誇りとしている精神です。創立当初の学科は、建築と土木。「御堂筋」をはじめとする大阪の都市改造に本法人の卒業生がかかわり、時代と地域のために貢献していました。

このように、時代と地域のニーズに対応して、即戦力たるフィールド・スペシャリストを現場に供給することで、徹底した時代・地域貢献型の教育機関としての実績は、本法人の「建学の精神」を体現し続けた成果です。

その後本法人は、社会・地域・時代の要請に応えるべく発展し、現在では、大阪工業大学・同大学院、摂南大学・同大学院、広島国際大学・同大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する法人へと成長を遂げ、多くの卒業生が社会の各分野で活躍しています。

私たちは、今後もこの「建学の精神」に基づく教育・研究を展開し、進化し続けることで、時代と地域が必要とする「現場に強い専門職業人」の育成を行い、社会の発展に貢献していきたいと考えています。

2. 教育の理念



社会・時代の要請に応え、専門学術の基礎と実践的応用力を身に付けるとともに、広い視野と豊かな人間性を涵養し、新しい知的・技術的創造を目指す開拓者精神にあふれた、心身ともにたくましい専門職業人を育成する。



建学の精神に則り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する。



本学における教育は、命の尊厳と豊かな人間性を基本理念とする。この理念に基づき、新しい時代が求める専門的な知識と技術の修得を進めるとともに、健康、医療、福祉の分野において活躍しうる職業人を育成する。



「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養い、目的意識を持った進学の実現により、将来、実社会で活躍できる人材を育成する。



世のため、人のため、地域のために活躍できる人材の育成。

ユニバーサル社会を創造する人間の自覚と能力を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

3. 教育の方針

大阪工業大学

1. 広い視野を持った確かな人間力の涵養
2. 個性・自主自律性の發揮と協調性の修得
3. 準備教育・導入基礎教育などの実施
4. 論理的思考能力と情報表現・伝達能力の養成
5. チームワークの重視とリーダーシップの発揮
6. 学生と教員との協働による授業の改善・改質
7. 国際交流の重視と国際性の涵養
8. 進路指導(キャリアデザイン支援)体制の充実
9. 課外活動やボランティア活動の奨励
10. 教育・研究・社会交流(貢献)の有機的連携

摂南大学

1. 入学から卒業まで一貫した少人数ゼミ教育を行い、対人能力等、人とのかかわりを重視したきめ細かい指導を行う。
2. 入学時からキャリアデザインを意識させ、就業意欲と実務能力の向上を図る。
3. 社会のニーズにあわせ、各学部等の個性を活かしつつ、実践を重視した教育を行う。
4. 教養教育においては、学ぶことや、より充実した人生を確立するための主体的な態度を身に付け、何事にも真摯に取り組む意欲を育てると同時に、しっかりととした倫理観と豊かな人間性を培う。
5. 専門教育においては、学術の深化や発展に柔軟に対応できるよう、その根底をなす専門基礎知識の教授を特に重視する。
6. 各学部等がそれぞれの特色を活かし、学部横断型の授業科目提供など、文理が相互にバランスのとれた教育を行う。
7. 学生が課外活動に参加することを奨励し、他学部学生等との交流により幅広い知識・人脈・考え方を持つ人材を育成する。

広島国際大学

広島国際大学では、次の3つのこころを指針として教育・研究にあたる。

慈愛のこころ

医療者として、教育機関の職員として、社会の一員として他者を慈しむ。

探求のこころ

健康・医療・福祉を学ぶひと、究めるひと、支えるひと、それぞれが新しいものを創造し、常によりよい方向を目指す。

調和のこころ

地域の人々、職場の人々と互いの異なるところを認め合い、それを踏まえて共に力を合わせてまとめ上げていく。

常翔学園高等学校

常翔学園中学校

1. 正しい判断力を持ち、自ら行動できる人を育てる。
2. 生徒と教員の信頼関係を築くことで、個々の可能性を引き出し、その能力を最大限に發揮させる。
3. 生徒にとって、わかる授業・楽しい授業・ためになる授業を追求する。
4. 基礎学力の定着をはかり、進学先の専門教育に対応できる能力を育成する。
5. 就業体験、大学体験、授業などを通じて職業観を養成する。
6. 目的意識を持って進学先を主体的に選択する能力を育成する。
7. 学校行事、課外活動を通じて健全な心身と社会性を育てる。

常翔啓光学園高等学校

常翔啓光学園中学校

1. 探求心と自学自習の力を育てる学習指導／学力の向上
 - ・基礎学力の確立を図るとともに、応用力・実践力を養う。
 - ・個人個人の学習進度に応じた指導体制で学ぶ意欲を持たせる。
 - ・難関大学への進学をめざした授業を提供する。
2. 思いやりとたくましさを備える心の教育／人間力の基礎
 - ・「挨拶・身だしなみ・マナー」を常に意識させる。
 - ・自己管理（健康・時間・持ち物）を徹底させる。
 - ・学校行事を通して「共学・共生」の精神を身につけさせる。

4. 創立100周年 長期ビジョンおよび長期目標

「建学の精神・教育の理念」を通じて学園創立100周年の長期目標を達成するためには次のように定めている。

学校法人常翔学園

J-Vision22 — 常翔学園 創立100周年に向けて

学園は創立100周年(2022年)に向けた基本構想「J-Vision」のもと、
「連携」「戦略」をキーワードにより透明性の高い経営を推し進め、
「質」「量」とともにバランスのとれた魅力ある教育の実現に取り組んでまいります。



●「連携」「戦略」をキーワードにした部署間（法人本部と設置各学校間、各学部と各事務室間等）の緊密な連絡・調整、一致協力の下、透明性のある合意形成を目指す組織体制
▲「質」「量」とともにバランスのとれた一定規模・レベルを有する設置各学校の「強みと特色（オンライン、ナンバーワン）」を生かした教育改革の実践

2022年 長期目標

学校法人 常翔学園	工 大	◆ 1. 時代の要請に呼応した学部・学科の再構築および教育・研究環境の整備 ◆ 2. 課外活動、学生プロジェクト活動などを通じての即戦力となる人材の育成 ◆ 3. 海外研究支援プログラム等によるグローバルに活躍できる人材の育成
	県 大	◆ 1. 多様な側面から課題解決に取り組む 総合大学への進化 ◆ 2. 持続可能な人類社会実現に資する研究の強化 ◆ 3. グローバル社会を見据えた学びの展開 ◆ 4. 社会との強固な連携の構築 ◆ 5. 大学組織・運営体制の強化 ◆ 6. 「安全」「安心」「快適」に修学できる キャンパス環境の整備
	広国大	◆ 1. 広国教育スタンダードの確立 ◆ 2. 地域との連携による教育の充実および地域社会の 活性化 ◆ 3. 教育改革および教育・生活環境整備の推進による 学生満足度の向上 ◆ 4. 内部改革の推進による財政の健全化 ◆ 5. 大学の魅力の発信力強化によるブランド力の向上 ◆ 6. 外部資金獲得による教育研究の充実
	常翔学園 中高	◆ 1. 高い志を持った生徒を輩出するための教育の実践 ◆ 2. キャリア学習を通じた「真の学ぶ力」を持った生徒の 育成 ◆ 3. 高大接続改革に向けた取り組みとICT教育の推進 ◆ 4. 中高体育館の建替えを含む教育施設・設備の刷新
	常翔啓光 学園中高	◆ 1. 自らの進路を積極的に探求する自学自習の姿勢を確立させ、伝統に基づく熱い進学指導により国公立大学への 合格率を継続的に高める。 ◆ 2. 幅広い分野の学部・学科を有する学園内3大学との連携強化をより一層図ることで、キャリア教育の醸成に有効 活用して進路実績に繋げる。

5. 学校法人の沿革

● 建学

1922（大正 11）年 9 月 7 日に大阪府知事から設置認可を受けた関西工学専修学校

● 建学に至った情熱

世のため、人のため、地域のため、**理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。**

● 建学の経緯

本学園は、設立者・校主 本庄京三郎が 1922（大正 11）年 9 月 7 日、時の大阪府知事 池松時和氏より設置認可を受け、校長・工学博士 片岡 安をはじめ大阪府建築課長 池田 實氏を中心に、大阪府土木課長 島 重治氏、大阪府営繕課長 中村琢治郎氏、大阪市都市計画部長 直木倫太郎氏、大阪市水道部長 澤井準一氏、大阪市電鉄部技師長 清水 駿氏、大阪府土木主事 奥村泰助氏、大阪府技師 田上憲一氏、日本電力株式会社土木部長 境田賢吉氏、大正信託株式会社常務取締役 小野捨次郎氏、薬種商 大橋導雄氏、関西石材株式会社監査役 岡崎忠三郎氏等の協力を得て創設した、関西工学専修学校がそもそもの始まりです。

当時、わが国の工業教育に対する認識は浅く、特に商業中心の大阪での工業教育機関は微々たるものに過ぎませんでした。このような時代に、将来、工業技術者の必要な時代が必ず到来することを察知し、私立学校の経営では最も難しいといわれる工業教育に、あえて踏み切った関係者のパイオニア精神は注目に値します。

その後、幾多の困難を乗り越えて、現在では、大阪工業大学・同大学院をはじめ、摂南大学・同大学院、広島国際大学・同大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する学園へと成長を遂げ、約 28 万 3 千人の卒業生が社会の各分野で活躍しています。

沿革 法人

● 法人の設立

1926（大正 15）年 4月 6 日 財団法人関西工学

● 法人の変遷

1947（昭和 22）年	法人名を財団法人摂南学園と改称
1949（昭和 24）年	法人名を財団法人大阪工業大学と改称
1951（昭和 26）年	法人を学校法人大阪工業大学に改組
1987（昭和 62）年	法人名を学校法人大阪工大摂南大学と改称
2008（平成 20）年	法人名を学校法人常翔学園と改称

● 学校の設置

1922（大正 11）年	関西工学専修学校を創設
1927（昭和 2）年	関西高等工学校を開設
1933（昭和 8）年	関西工業学校を開設《後に現在の常翔学園高等学校に発展》
1940（昭和 15）年	関西高等工業学校を開設《後に現在の大阪工業大学に発展》
1942（昭和 17）年	関西高等工業学校を摂南高等工業学校と改称
	摂南重機工業学校を開設
1944（昭和 19）年	摂南高等工業学校を摂南工業専門学校と改称《1951（昭和 26）年廃止》
	摂南重機工業学校を摂南工業学校と改称《1951（昭和 26）年廃止》
1948（昭和 23）年	関西工業学校と摂南工業学校を統合し、摂南学園高等学校を開設 機械科、電気科、建築科、土木科を設置
	摂南学園中学校を開設《後に大阪工業大学中学校。1979（昭和 54）年廃止》
1949（昭和 24）年	関西高等工学校を摂南工科専門学院と改称 摂南工業専門学校を新制大学として昇格し、摂南工業大学を開設 工学部第 I 部、第 II 部に土木工学科、建築学科、電気工学科を設置
1950（昭和 25）年	摂南工業大学を大阪工業大学と改称 大阪工業大学短期大学部を開設 摂南学園高等学校を大阪工業大学高等学校と改称
1962（昭和 37）年	摂南工科専門学院を大阪工業大学専門学院と改称《1979（昭和 54）年廃止》 大阪工業高等専門学校を開設《1979（昭和 54）年廃止》
1975（昭和 50）年	摂南大学を開設。工学部（土木工学科、建築学科、電気工学科、機械工学科、経営工学科）を設置
1998（平成 10）年	広島国際大学を開設。医療福祉学部（医療福祉学科、医療経営学科）、保健医療学部（看護学科、診療放射線学科、臨床工学科）を設置
2006（平成 18）年	大阪工業大学短期大学部を廃止（9月 30 日）
2007（平成 19）年	学校法人啓光学園（12月 25 日学校法人常翔啓光学園と改称）と連携協定締結（11月 27 日）
2008（平成 20）年	大阪工業大学高等学校を常翔学園高等学校と改称
2011（平成 23）年	常翔学園中学校を開設
2013（平成 25）年	学校法人常翔啓光学園と法人合併

沿革 大阪工業大学

1922 (大正 11) 年	関西工学専修学校を創設
1940 (昭和 15) 年	関西高等工業学校を開設 《後に現在の大阪工業大学に発展》
1942 (昭和 17) 年	関西高等工業学校を摂南高等工業学校と改称
1944 (昭和 19) 年	摂南高等工業学校を摂南工業専門学校と改称 《1951 (昭和 26) 年廃止》
1949 (昭和 24) 年	摂南工業専門学校を新制大学として昇格し、摂南工業大学を開設。工学部第 I 部、第 II 部に土木工学科、建築学科、電気工学科を設置
1950 (昭和 25) 年	大阪工業大学工学部第 I 部、第 II 部に機械工学科を増設
1958 (昭和 33) 年	大阪工業大学工学部第 I 部に応用化学科を増設
1959 (昭和 34) 年	大阪工業大学工学部第 I 部に電子工学科を増設
1960 (昭和 35) 年	大阪工業大学工学部第 II 部に応用化学科を増設
1962 (昭和 37) 年	大阪工業大学工学部第 I 部、第 II 部に工業経営学科を、工学部第 II 部に電子工学科を増設 《工業経営学科は 1976 (昭和 51) 年に経営工学科と改称》
1965 (昭和 40) 年	大阪工業大学大学院を開設。工学研究科（土木工学専攻、建築学専攻、電気工学専攻、機械工学専攻、応用化学専攻）修士課程を設置 《電気工学専攻は 1997 (平成 9) 年に電気電子工学専攻と改称》
1967 (昭和 42) 年	大阪工業大学大学院に工学研究科（工業経営学専攻）修士課程、工学研究科（土木工学専攻、建築学専攻、電気工学専攻、機械工学専攻）博士課程を増設 《工業経営学専攻は 1976 (昭和 51) 年に経営工学専攻と、電気工学専攻は 1997 (平成 9) 年に電気電子工学専攻とそれぞれ改称》
1977 (昭和 52) 年	大阪工業大学大学院に工学研究科（応用化学専攻）博士課程を増設
1991 (平成 3) 年	大阪工業大学大学院に工学研究科（経営工学専攻）博士課程を増設
1996 (平成 8) 年	大阪工業大学に情報科学部（情報処理学科、情報システム学科）を増設
2000 (平成 12) 年	大阪工業大学工学部に昼夜開講制を導入
2002 (平成 14) 年	大阪工業大学大学院に情報科学研究科（情報科学専攻）修士課程を増設 大阪工業大学情報科学部に情報メディア学科を増設、情報処理学科を情報科学科と改称 工学部の土木工学科を都市デザイン工学科に、電気工学科を電気電子システム工学科に、電子工学科を電子情報通信工学科に名称変更
2003 (平成 15) 年	大学院に情報科学研究科（情報科学専攻）博士課程を増設、工学研究科の土木工学専攻を都市デザイン工学専攻と改称
2005 (平成 17) 年	大阪工業大学に知的財産学部（知的財産学科）を増設
2006 (平成 18) 年	大阪工業大学大学院に知的財産研究科（知的財産専攻）専門職学位課程を増設
2007 (平成 19) 年	大阪工業大学工学部を改組。昼夜開講制での募集を停止し、環境工学科、空間デザイン学科、生体医工学科を増設、経営工学科を技術マネジメント学科に名称変更
2010 (平成 22) 年	大阪工業大学大学院に工学研究科（環境工学専攻、生体医工学専攻）博士課程を増設。情報科学部を改組、情報ネットワーク学科を増設、情報科学科をコンピュータ科学科に名称変更 大阪工業大学工学部にロボット工学科、生命工学科を増設。大学院に工学研究科（空間デザイン学専攻）博士課程を増設
2017 (平成 29) 年	大阪工業大学にロボティクス＆デザイン工学部（ロボット工学科、システムデザイン工学科、空間デザイン学科）を増設。大学院に工学研究科（建築・都市デザイン工学専攻、電気電子・機械工学専攻、化学・環境・生命工学専攻）博士課程、ロボティクス＆デザイン工学研究科（ロボティクス＆デザイン工学専攻）博士課程を増設

沿革 摂南大学

1922（大正 11）年	関西工学専修学校を創設
1975（昭和 50）年	摂南大学を開設。工学部（土木工学科、建築学科、電気工学科、機械工学科、経営工学科）を設置
1982（昭和 57）年	摂南大学に国際言語文化学部（国際言語文化学科）、経営情報学部（経営情報学科）を増設
1983（昭和 58）年	摂南大学に薬学部（衛生薬学科、薬学科）を増設
1988（昭和 63）年	摂南大学に法学部（法律学科）を増設。大学院を開設し、薬学研究科（薬学専攻）修士課程を設置
1989（平成元）年	摂南大学大学院に工学研究科（社会開発工学専攻、機械・システム工学専攻）修士課程を増設
1990（平成 2）年	摂南大学大学院に工学研究科（電気電子工学専攻）修士課程、薬学研究科（薬学専攻）博士課程を増設
1993（平成 5）年	摂南大学経営情報学部に経営環境情報学科を増設
1995（平成 7）年	摂南大学大学院に経営情報学研究科（経営情報学専攻）修士課程を増設
1997（平成 9）年	摂南大学大学院に法学研究科（法律学専攻）修士課程を増設
1999（平成 11）年	摂南大学大学院に国際言語文化研究科（国際言語文化専攻）修士課程を増設
2002（平成 14）年	摂南大学工学部の土木工学科を都市環境システム工学科に、電気工学科を電気電子工学科に、経営工学科をマネジメントシステム工学科に名称変更
2005（平成 17）年	摂南大学国際言語文化学部（国際言語文化学科）を外国語学部（外国語学科）に名称変更
2006（平成 18）年	大学院に経営情報学研究科（経営情報学専攻）博士課程を増設
2008（平成 20）年	摂南大学経営情報学部に経営学科を増設
2010（平成 22）年	薬学部を 6 年制に移行し、2 学科編成（衛生薬学科、薬学科）を 1 学科編成（薬学科）に変更
2012（平成 24）年	摂南大学大学院に工学研究科（創生工学専攻）博士後期課程を増設
2014（平成 26）年	摂南大学留学生別科を設置
2016（平成 28）年	摂南大学に経済学部（経済学科）を増設、経営情報学部を経営学部に名称変更、工学部を理工学部に名称変更。生命科学科、住環境デザイン学科、都市環境工学科を増設
	摂南大学に看護学部（看護学科）を増設。大学院に薬学研究科（医療薬学専攻）修士課程を増設
	摂南大学大学院に経済経営学研究科（経済学専攻、経営学専攻）修士課程を増設、工学研究科を理工学研究科に名称変更、機械・システム工学専攻と電気電子工学専攻を生産開発工学専攻に改組、理工学研究科（生命科学専攻）修士課程を増設
	摂南大学大学院に理工学研究科（生命科学専攻）博士後期課程を増設、看護学研究科（看護学専攻）修士課程を増設

沿革 広島国際大学

1922（大正 11）年	関西工学専修学校を創設
1998（平成 10）年	広島国際大学を開設。医療福祉学部（医療福祉学科、医療経営学科）、保健医療学部（看護学科、診療放射線学科、臨床工学科）を設置
2001（平成 13）年	広島国際大学に人間環境学部（臨床心理学科、言語・コミュニケーション学科、感性情報学科）を増設
2002（平成 14）年	広島国際大学に社会環境科学部（建築創造学科、住環境デザイン学科、情報通信学科）を増設
2003（平成 15）年	広島国際大学保健医療学部（看護学科）を看護学部（看護学科）に改組。大学院を開設、看護学研究科（看護学専攻）修士課程、総合人間科学研究科（臨床心理学専攻）博士課程、総合人間科学研究科（医療経営学専攻、医療工学専攻）修士課程を設置
2004（平成 16）年	広島国際大学に薬学部（薬学科）を増設。大学院に総合人間科学研究科（医療福祉学専攻）修士課程を増設
2005（平成 17）年	広島国際大学大学院に総合人間科学研究科（医療工学専攻）博士課程を増設
2006（平成 18）年	広島国際大学保健医療学部（理学療法学科）を増設、人間環境学部を心理科学部に、言語・コミュニケーション学科をコミュニケーション学科に、感性情報学科を感性デザイン学科にそれぞれ名称変更 薬学部を 6 年制に移行
2007（平成 19）年	大学院に社会環境科学研究科（情報通信学専攻、建築・環境学専攻）修士課程を増設 広島国際大学社会環境科学部を工学部に改組。機械ロボティクス学科を増設 建築創造学科を建築学科に名称変更
2008（平成 20）年	大学院に総合人間科学研究科（実践臨床心理学専攻）専門職学位課程、総合人間科学研究科（コミュニケーション学専攻）修士課程を増設 広島国際大学大学院に総合人間科学研究科（感性デザイン学専攻）修士課程を増設
2009（平成 21）年	広島国際大学大学院総合人間科学研究科を心理科学研究科、医療・福祉科学研究科に改組、社会環境科学研究科を工学研究科に名称変更
2011（平成 23）年	広島国際大学医療福祉学部（医療経営学科）を医療経営学部（医療経営学科）に改組、保健医療学部に総合リハビリテーション学科、心理科学部にコミュニケーション心理学科を増設 助産学専攻科を設置
2012（平成 24）年	広島国際大学大学院看護学研究科（看護学専攻）を博士課程に改組、薬学研究科（医療薬学専攻）博士課程を増設
2013（平成 25）年	広島国際大学保健医療学部（総合リハビリテーション学科）を総合リハビリテーション学部に改組、リハビリテーション支援学科を増設、保健医療学部（臨床工学科）を医療技術学科に改組
2014（平成 26）年	広島国際大学に医療栄養学部（医療栄養学科）を増設
2015（平成 27）年	広島国際大学心理科学部（臨床心理学科、コミュニケーション心理学科）を心理学部（心理学科）に改組

沿革 常翔学園中学校・高等学校

1922（大正 11）年	関西工学専修学校を創設
1933（昭和 8）年	関西工業学校を開設《後に現在の常翔学園高等学校に発展》
1948（昭和 23）年	関西工業学校と摂南工業学校を統合し、摂南学園高等学校を開設 機械科、電気科、建築科、土木科を設置
1949（昭和 24）年	摂南学園高等学校に普通科を増設
1950（昭和 25）年	摂南学園高等学校を大阪工業大学高等学校と改称
1963（昭和 38）年	大阪工業大学高等学校に自動車科を増設
1972（昭和 47）年	大阪工業大学高等学校を男女共学制に移行
1984（昭和 59）年	大阪工業大学高等学校普通科にコース制（普通コース、英数コース）を導入
2001（平成 13）年	大阪工業大学高等学校普通科に情報コースなど増設、工業科を 2 科 5 コース制に改編、自動車科・電気科・土木科を募集停止
2003（平成 15）年	大阪工業大学高等学校普通科を 5 コース制に改編、工業科を募集停止《2005（平成 17）年 3 月廃止》
2008（平成 20）年	大阪工業大学高等学校を常翔学園高等学校と改称
2009（平成 21）年	常翔学園高等学校普通科を 4 コース制に改編
2011（平成 23）年	常翔学園中学校を開設

沿革 常翔啓光学園中学校・高等学校

1957（昭和 32）年	学校法人啓光学園を設立、啓光学園中学校を開設
1960（昭和 35）年	啓光学園高等学校を開設
2007（平成 19）年	学校法人常翔学園と連携協定締結、法人名を学校法人常翔啓光学園と改称
2008（平成 20）年	啓光学園中学校を常翔啓光学園中学校に、啓光学園高等学校を常翔啓光学園高等学校と改称
2013（平成 25）年	学校法人常翔学園と法人合併

6. 設置する学校・学部・学科等 2018年4月現在

大阪工業大学

[大学院]

工 学 研 究 科

建築・都市デザイン工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
電気電子・機械工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
化学・環境・生命工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
都市デザイン工学専攻（博士後期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
建築学専攻（博士前期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
機械工学専攻（博士後期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
生体医工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
電気電子工学専攻（博士後期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
応用化学専攻（博士後期課程）（2017年度以降の学生募集停止）
ロボティクス＆デザイン工学研究科
情報科学研究科
知的財産研究科

[学 部]

工 学 部

都市デザイン工学科
空間デザイン学科（2017年度以降の学生募集停止）
建築学科
機械工学科
ロボット工学科（2017年度以降の学生募集停止）
電気電子システム工学科
電子情報通信工学科
応用化学科
環境工学科
生命工学科
ロボット工学科
システムデザイン工学科
空間デザイン学科
コンピュータ科学科
情報システム学科
情報メディア学科
情報ネットワーク学科
知的財産学科

ロボティクス＆デザイン工学部

情 報 科 学 部

知 的 財 产 学 部

摂南大学

[大学院]

薬 学 研 究 科

理 工 学 研 究 科

医療薬学専攻（博士課程）
社会開発工学専攻（博士前期課程）
生産開発工学専攻（博士前期課程）
生命科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
創生工学専攻（博士後期課程）
経済学専攻（修士課程）
経営学専攻（修士課程）
法律学専攻（修士課程）
国際言語文化専攻（修士課程）
看護学専攻（修士課程）

経 済 経 営 学 研 究 科

法 学 研 究 科

国際言語文化研究科

看護学研究科

[学 部]

理 工 学 部

生命科学科
住環境デザイン学科
建築学科
機械工学科
電気電子工学科
都市環境工学科

外 国 語 学 部	外国語学科
経 営 学 部	経営学科
	経営情報学科
薬 学 部	薬学科
法 学 部	法律学科
経 済 学 部	経済学科
看 護 学 部	看護学科

広島国際大学

[大学院]

看護学研究科
医療・福祉科学研究科

心理科学研究科

薬学研究科
[学部]

保健医療学部

総合リハビリテーション学部

医療福祉学部
医療経営学部

心理学院
心理科学部

看護学部
薬学部
医療栄養学部

[専攻科]

助産学専攻科

看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
医療工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
医療福祉学専攻（修士課程）
医療経営学専攻（修士課程）
臨床心理学専攻（博士後期課程）
コミュニケーション学専攻（修士課程）
実践臨床心理学専攻（専門職学位課程）
医療薬学専攻（博士課程）

診療放射線学科
医療技術学科
臨床工学科（2013年度以降の学生募集停止）
総合リハビリテーション学科（2013年度以降の学生募集停止）

リハビリテーション学科
リハビリテーション支援学科
医療福祉学科
医療経営学科
心理学科
臨床心理学科（2015年度以降の学生募集停止）
コミュニケーション心理学科（2015年度以降の学生募集停止）
看護学科
薬学科
医療栄養学科

常翔学園高等学校

全 日 制 課 程

普通科

常翔学園中学校

常翔啓光学園高等学校

全 日 制 課 程

普通科

常翔啓光学園中学校

7. 当該学校・学部・学科等の入学・編入学・収容定員

2018年度(収容定員は完成年度時)						
		開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	編入学定員(人)	収容定員(人)
大阪工業大学	大学院 博士後期課程 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 電気電子・機械工学専攻 化学・環境・生命工学専攻 計 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 情報科学研究科 情報科学専攻 大学院 博士後期課程 計 大学院 博士前期課程 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 電気電子・機械工学専攻 化学・環境・生命工学専攻 計 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 情報科学研究科 情報科学専攻 大学院 博士前期課程 計 大学院 専門職学位課程 知的財産研究科 知的財産専攻 大学院 専門職学位課程 計 大学院 計	2017 2017 2017 2017 2017 2002 2017 2017 2017 2017 2017 2000 2005	3 3 3 — 3 3 2 2 2 2 2 2	2 2 2 6 2 5 13 30 50 30 110 30 40 180 30 30 223	6 6 6 18 6 15 39 60 100 60 220 60 80 360 60 60 459	
	学部 工学部 都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報通信工学科 応用化学科 環境工学科 生命工学科 計 ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科 計 情報科学部 コンピュータ科学科 情報システム学科 情報メディア学科 情報ネットワーク学科 計 知的財産学部 知的財産学科 学部 計	1949 1949 1950 1949 1959 1958 2006 2010	4 4 4 4 4 4 4 4	100 150 140 125 110 130 75 70 900 90 90 100 280 105 105 105 105 420 140 1,740	5 5 5 5 5 5 5 5 40 5 5 5 15 5 5 5 5 20 10 85	410 610 570 510 450 530 310 290 3,680 370 370 410 1,150 430 430 430 430 1,720 580 7,130
	大阪工業大学 計			1,963	85	7,589

2018年度(収容定員は完成年度時)						
		開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	編入学定員(人)	収容定員(人)
摂南大学	大学院 博士課程 薬学研究科 医療薬学専攻	2012	4	4		16
	大学院 博士後期課程 理工学研究科 創生工学専攻	2008	3	2		6
	生命科学専攻	2016	3	2		6
	計			4		12
	大学院 博士課程・博士後期課程 計			8		28
	大学院 博士前期課程 理工学研究科 社会開発工学専攻	1989	2	12		24
	生産開発工学専攻	2014	2	12		24
	生命科学専攻	2014	2	10		20
	計			34		68
	大学院 修士課程 経済経営学研究科 経済学専攻	2014	2	5		10
	経営学専攻	2014	2	5		10
	計			10		20
	法学研究科 法律学専攻	1997	2	5		10
	国際言語文化研究科 国際言語文化専攻	1999	2	5		10
	看護学研究科 看護学専攻	2016	2	6		12
	大学院 博士前期・修士課程 計			60		120
	大学院 計			68		148
	学部 理工学部 生命科学科	2010	4	90	5	370
	住環境デザイン学科	2010	4	70	5	290
	建築学科	1975	4	70	5	290
	機械工学科	1975	4	110	5	450
	電気電子工学科	1975	4	90	5	370
	都市環境工学科	2010	4	70	5	290
	計			500	30	2,060
	外国語学部 外国語学科	1982	4	220	5	890
	経営学部 経営学科	2006	4	170	4	688
	経営情報学科	1982	4	100	4	408
	計			270	8	1,096
	薬学部 薬学科	1983	6	220		1,320
	法学部 法律学科	1988	4	250	5	1,010
	経済学部 経済学科	2010	4	250	4	1,008
	看護学部 看護学科	2012	4	100		400
	学部 計			1,810	52	7,784
	摂南大学 計			1,878	52	7,932

2018年度(収容定員は完成年度時)						
		開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	編入学定員(人)	収容定員(人)
広島国際大学	大学院 博士課程 薬学研究科 医療薬学専攻	2012	4	2		8
	大学院 博士後期課程 医療・福祉科学研究科 医療工学専攻	2009	3	2		6
	心理科学研究科 臨床心理学専攻	2009	3	2		6
	看護学研究科 看護学専攻	2012	3	3		9
	大学院 博士課程・博士後期課程 計			9		29
	大学院 博士前期課程 医療・福祉科学研究科 医療工学専攻	2009	2	10		20
	看護学研究科 看護学専攻	2003	2	10		20
	大学院 修士課程 医療・福祉科学研究科 医療福祉学専攻	2009	2	5		10
	医療経営学専攻 計	2009	2	5		10
	心理科学研究科 コミュニケーション学専攻	2009	2	5		10
	大学院 博士前期・修士課程 計			35		70
	大学院 専門職学位課程 心理科学研究科 実践臨床心理学専攻	2009	2	20		40
	大学院 専門職学位課程 計			20		40
	大学院 計			64		139
学部						
	保健医療学部 診療放射線学科	1998	4	70		280
	医療技術学科 計	2013	4	130		520
				200		800
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	2013	4	130		520
	リハビリテーション支援学科 計	2013	4	30		120
				160		640
	医療福祉学部 医療福祉学科	1998	4	100	10	420
	医療経営学部 医療経営学科	2011	4	90		360
	心理学部 心理学科	2015	4	90	10	380
	看護学部 看護学科	2003	4	120	10	500
	薬学部 薬学科	2004	6	120		720
	医療栄養学部 医療栄養学科 学部 計	2014	4	60	940	240
	助産学専攻科 専攻科 計	2011	1	10	30	4,060
	広島国際大学 計			1,014	30	4,209

2018年度(収容定員は完成年度時)						
		開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	編入学定員(人)	収容定員(人)
※ 常翔学園 高等学校	全日制課程 普通科 計	1948	3	600 600		1,800 1,800
※ 常翔学園 中学校	計	2011	3	120 120		360 360
※ 常翔啓光学園 高等学校	全日制課程 普通科 計	1960	3	480 480		1,440 1,440
※ 常翔啓光学園 中学校	計	1957	3	120 120		360 360
合 計				6,175	167	23,690

※常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校の「入学定員・収容定員」欄は学則上の定員を記載しています。

2018年度募集人員は以下のとおりです。

常翔学園高等学校	:	475人
常翔学園中学校	:	105人
常翔啓光学園高等学校	:	320人
常翔啓光学園中学校	:	90人

8. 学生・生徒数

2017年5月1日現在

学校名・学部名等		年次	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
大阪工業大学	博士後期	工 学	1	3	7				11
		情 報 科 学	0	0	1				1
		ロボティクス&デザイン工学研究科	0						0
	博士前期	工 学	142	151					293
		情 報 科 学	14	23					37
		ロボティクス&デザイン工学研究科	29						29
	専門職学位	知 的 財 産	40	31					71
	工 学 部	952	1,028	1,054	1,175				4,209
	ロボティクス&デザイン工学部	291							291
	情 報 科 学 部	422	411	406	440				1,679
	知 的 財 产 学 部	156	152	151	126				585
	計	2,047	1,799	1,619	1,741				7,206
堀南大学	博士課程	薬 学	3	5	3	2			13
	博士後期	理 工 学	2	2	1				5
	博士前期	理 工 学	25	31					56
	修士課程	経 済 経 営 学	2	3					5
		法 学	2	1					3
		国際言語文化	1	2					3
		看 護 学	3	5					8
	理 工 学 部	516	500	506	565				2,087
	外 国 語 学 部	245	235	219	273				972
	経 営 学 部	303	274	289	334				1,200
	薬 学 部	250	210	206	209	206	264		1,345
	法 学 部	270	266	244	258				1,038
	経 济 学 部	276	267	239	256				1,038
	看 護 学 部	103	109	116	92				420
	計	2,001	1,910	1,823	1,989	206	264		8,193
広島国際大学	博士課程	薬 学	2	0	1	3			6
	博士後期	医療・福祉科学	6	2	3				11
		心 理 科 学	1	0	2				3
		看 護 学	0	0	2				2
	博士前期	医療・福祉科学	10	9					19
		看 護 学	2	4					6
	修士課程	工 学		1					1
		医療・福祉科学	3	4					7
		心 理 科 学	0	2					2
	専門職学位	心 理 科 学	16	15					31
	専 攻 科	助 産 学 専 攻	9						9
	保 健 医 療 学 部	206	200	248	244				898
	総 合 リハビリテーション学部	181	158	187	181				707
	医 療 福 祉 学 部	57	74	91	102				324
	医 療 経 営 学 部	74	76	89	100				339
	心 理 学 部	88	80	91	99				358
	工 学 部				1				1
	看 護 学 部	142	116	123	131				512
	薬 学 部	109	118	83	123	141	179		753
	医 療 栄 養 学 部	60	59	67	52				238
	計	966	918	987	1,036	141	179		4,227
常翔学園高等学校			659	617	626				1,902
常翔学園中学校			129	97	102				328
常翔啓光学園高等学校			437	468	472				1,377
常翔啓光学園中学校			41	54	50				145
合 计			6,280	5,863	5,679	4,766	347	443	23,378

9. 当該学校・学部等の学費

2018年度新入生適用

(単位:千円)

学校名	大学院・学部等	入学金 1年	授業料						教育充実費		合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年~	
大阪工業大学	大学院 博士後期課程										
	工学研究科	220	940	940	940						3,040
	ロボティクス&デザイン工学研究科	220	940	940	940						3,040
	情報科学研究科	220	940	940	940						3,040
	大学院 博士前期課程										
	工学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	ロボティクス&デザイン工学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	情報科学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	大学院 専門職学位課程										
	知的財産研究科	200	1,200	1,200					120	120	2,840
	学部 工学部	250	1,260	1,260	1,260	1,260			100	200	5,990
	ロボティクス&デザイン工学部	250	1,260	1,260	1,260	1,260			150	300	6,340
摺南大学	情報科学部	250	1,260	1,260	1,260	1,260			100	200	5,990
	知的財産学部	250	1,000	1,000	1,000	1,000			50	150	4,750
	大学院 博士課程										
	薬学研究科	220	780	780	780	780					3,340
	博士後期課程										
	理工学研究科	220	940	940	940						3,040
	大学院 博士前期・修士課程										
	理工学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	経済経営学研究科	150	700	700							1,550
	法学研究科	150	700	700							1,550
	国際言語文化研究科	150	720	720							1,590
	看護学研究科	150	750	750					120	120	1,890
広島国際大学	学部 理工学部	250	1,260	1,260	1,260	1,260			100	200	5,990
	外国語学部	250	960	960	960	960			50	150	4,590
	経営学部	250	900	900	900	900			50	150	4,350
	薬学部	450	1,720	1,720	1,720	1,720	1,720	1,720	100	200	11,870
	法学部	250	870	870	870	870			50	150	4,230
	経済学部	250	900	900	900	900			50	150	4,350
	看護学部	250	1,510	1,510	1,510	1,510			100	200	6,990
	大学院 博士課程										
	薬学研究科	220	1,200	1,200	1,200	1,200					5,020
	博士後期課程										
	医療・福祉科学研究科	220	1,000	1,000	1,000						3,220
	心理科学研究科	220	1,000	1,000	1,000						3,220
	看護学研究科	220	1,300	1,300	1,300						4,120
大学院 博士前期・修士課程	心理科学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	医療・福祉科学研究科	150	1,000	1,000							2,150
	看護学研究科	150	1,300	1,300							2,750
	大学院 専門職学位課程										
	心理科学研究科	200	1,130	1,130							2,460
	学部 保健医療学部	250	1,430	1,430	1,430	1,430			90	200	6,660
	総合リハビリテーション学部	250	1,430	1,430	1,430	1,430			90	200	6,660
	医療福祉学部	250	1,030	1,030	1,030	1,030			50	150	4,870
	医療経営学部	250	1,030	1,030	1,030	1,030			50	150	4,870
	心理学部	250	1,030	1,030	1,030	1,030			50	150	4,870
	看護学部	250	1,430	1,430	1,430	1,430			90	200	6,660
	薬学部	450	1,720	1,720	1,720	1,720	1,720	1,720	100	200	11,870
	医療栄養学部	250	1,160	1,160	1,160	1,160					4,890
	助産学専攻科	250	1,500								1,750

2018年度新入生適用

(単位：千円)

学校名	大学院・学部等	入学金 1年	授業料						教育充実費		合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年～	
常翔学園高等学校	普通科	220	580	580	580						1,960
常翔学園中学校		220	640	640	640						2,140
常翔啓光学園高等学校	普通科	220	590	590	590						1,990
常翔啓光学園中学校		220	640	640	640						2,140

10. 役員・教職員等の概要 2017年5月1日現在

役員数等

(単位：人)

		人数
役 員	理事長	1
	理事	16
	監事	4
評 議 員		43
名 誉 役 員	名 誉 理 事	1

教職員の概要

(単位：人)

種別 組織		本部	大阪工業大学	堺南大学	広島国際大学	常翔学園 高等学校	常翔学園 中学校	常翔啓光学園 高等学校	常翔啓光学園 中学校	計
教 育 職	専 任	—	218	232	204	58	15	42	8	777
	特 任	—	71	80	73	36	6	26	6	298
	嘱 託	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	客 員	—	67	10	24	0	0	0	0	101
	非常勤講師	—	236	324	67	35	8	28	4	702
	計	—	592	646	368	129	29	96	18	1,878
事務職・ その他	専 任	90	113	109	96	8	2	6	1	425
	特 任	0	8	6	0	0	0	0	0	14
	嘱 託	17	65	34	26	10	1	5	0	158
	TA 等	0	116	62	5	0	0	0	0	183
	計	107	302	211	127	18	3	11	1	780
合 計		107	894	857	495	147	32	107	19	2,658

TA : ティーチング・アシスタント

大宮

法人本部

大阪工業大学 工学部・知的財産学部

常翔学園高等学校

常翔学園中学校

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5 丁目 16 番 1 号

本部棟 〒535-0003 大阪市旭区中宮 5 丁目 16 番 29 号

土地	所有	67,876.25 m ²
	借用	46,160.29 m ²
	計	114,036.54 m ²
建物	所有	154,052.83 m ²

主な建物	1号館	15,464.88 m ²	地下 1 階、地上 10 隅建
	2号館	9,329.18 m ²	地下 1 階、地上 5 隅建
	4号館	8,082.78 m ²	6 隅建
	5号館	10,044.21 m ²	5 隅建
	6号館	13,921.71 m ²	16 隅建(登記は 18 隅建)
	7号館	10,481.25 m ²	地下 1 階、地上 11 隅建(登記は地下 1 階、地上 13 隅建)
	8号館	5,387.22 m ²	5 隅建
	9号館	5,092.92 m ²	7 隅建
	10号館	13,901.96 m ²	地下 1 階、地上 11 隅建
	総合体育館	5,540.39 m ²	3 隅建
	第2体育館	1,700.74 m ²	平家建
	第2部室センター	2,062.75 m ²	5 隅建
	東学舎1号館	6,216.96 m ²	5 隅建(登記は 6 隅建)
	東学舎2号館	2,647.92 m ²	4 隅建
	中学高校本館	6,096.24 m ²	5 隅建
	中学高校北館	18,575.15 m ²	12 隅建
	中学高校東館	5,553.00 m ²	5 隅建
	大宮西OITホール	1,077.91 m ²	2 隅建
	大宮西本部棟	4,482.76 m ²	7 隅建
	大宮西研修センター	2,859.29 m ²	5 隅建
	常翔歴史館	1,082.59 m ²	4 隅建

梅田

大阪工業大学 ロボティクス＆デザイン工学部

〒530-8568 大阪市北区茶屋町 1-45

土地	所有	4,648.29 m ²
建物	所有	31,289.88 m ²

寝屋川

摂南大学 理工学部・外国語学部・経営学部・法学部・経済学部

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17 番 8 号

摂南大学交流会館 〒572-0074 大阪府寝屋川市池田中町 13 番 14 号

摂南大学国際会館 〒572-0074 大阪府寝屋川市池田中町 14 番 15 号

土地	所有	135,018.48 m ²	
建物	所有	91,044.00 m ²	
主な建物	1号館	14,360.43 m ²	9階建
	3号館	1,569.35 m ²	4階建
	4号館	3,687.32 m ²	5階建
	5号館	6,518.55 m ²	5階建
	7号館	7,273.35 m ²	8階建
	8号館	6,644.18 m ²	4階建(登記は6階建)
	10号館	16,584.16 m ²	地下1階、地上7階建
	11号館	10,645.00 m ²	11階建(登記は12階建)
	12号館	7,496.16 m ²	7階建(登記は9階建)
	13号館	4,429.86 m ²	4階建
	総合体育館	6,020.55 m ²	3階建(登記は4階建)
	摂大国際会館	3,118.35 m ²	9階建
	部室棟	2,443.91 m ²	4階建

枚方第1

摂南大学 薬学部、看護学部

〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45 番 1 号

大阪工業大学 八幡工学実験場

〒614-8289 京都府八幡市美濃山一ノ谷 4 番地

土地	所有	221,404.11 m ²	
建物	所有	41,690.09 m ²	
主な建物	1号館	10,677.88 m ²	7階建(登記は9階建)
	2号館	4,248.46 m ²	2階建
	3号館	5,605.34 m ²	地下1階、地上4階建
	4号館	2,378.27 m ²	4階建
	5号館	3,198.95 m ²	5階建
	6号館	2,390.94 m ²	3階建
	7号館	6,383.52 m ²	3階建
	構造実験棟	2,392.64 m ²	地下1階、地上2階建
	耐火実験棟	995.03 m ²	平屋建
	研究・宿泊棟	775.27 m ²	2階建

枚方第2

大阪工業大学 情報科学部

〒573-0196 大阪府枚方市北山1丁目 79 番 1 号

土地	所有	170,106.00 m ²	
建物	所有	42,327.58 m ²	
主な建物	情報科学部1号館	34,489.26 m ²	6階建(登記は7階建)
	情報科学部2号館	4,113.37 m ²	6階建
	枚方体育館	2,136.06 m ²	地下1階、地上2階建

枚方第3

常翔啓光学園高等学校

常翔啓光学園中学校

〒573-1197 大阪府枚方市禁野本町1丁目13番21号

土地	所有	38,702.77 m ²
建物	所有	17,773.18 m ²
主な建物	1号館	11,935.58 m ² 地下1階、地上7階建
	2号館	2,239.32 m ² 2階建
	3号館	1,280.94 m ² 2階建
	体育館	1,959.58 m ² 地下1階、地上平屋建

東広島

広島国際大学 保健医療学部・総合リハビリテーション学部・医療福祉学部・心理科学部

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台 555 番 36 号

広島国際会館・春日野ハイツ 〒739-2613 広島県東広島市黒瀬町榎原 1676 番 1 号

土地	所有	332, 631. 09 m ²
	借用	5, 741. 89 m ²
	計	338, 372. 98 m ²
建物	所有	100, 175. 39 m ²
主な建物	1号館	25, 279. 22 m ²
	2号館	13, 045. 47 m ²
	3号館	19, 845. 73 m ²
	講堂	6, 356. 35 m ²
	体育館	1, 667. 07 m ²
	クラブハウス	2, 065. 77 m ²
	学生寮A棟	3, 682. 72 m ²
	学生寮B棟	3, 682. 72 m ²
	学生寮C棟	4, 104. 27 m ²
	学生寮D棟	3, 264. 87 m ²
	学生寮E棟	4, 985. 93 m ²
	学生寮F棟	6, 023. 24 m ²
	広島国際会館1号館	1, 522. 81 m ²
	広島国際会館2号館	1, 516. 24 m ²
	春日野ハイツ	2, 739. 85 m ²

呉

広島国際大学 工学部・看護学部・薬学部・医療栄養学部

〒737-0112 広島県呉市広古新開 5 丁目 1 番 1 号

呉南、研修棟 〒737-0112 広島県呉市広古新開 1 丁目 2 番 34 号

呉東 〒737-0112 広島県呉市広古新開 6 丁目 5 番 21 号

土地	所有	84, 419. 25 m ²
建物	所有	80, 340. 43 m ²
主な建物	1号館	13, 749. 89 m ²
	2号館	13, 443. 10 m ²
	5号館	4, 233. 62 m ²
	6号館	13, 774. 08 m ²
	体育館	3, 883. 45 m ²
	クラブハウス	1, 289. 44 m ²
	学生研修棟A	10, 497. 72 m ²
	学生研修棟B	10, 409. 14 m ²
	学生研修棟C	5, 784. 24 m ²
	呉東職員宿舎	1, 761. 63 m ²

広島

広島国際大学 医療経営学部

〒730-0016 広島市中区幟町 1 番 5 号

土地	所有	2, 192. 80 m ²
建物	所有	14, 055. 43 m ²

地下 1 階、地上 15 階建

セミナーハウスその他

セミナーハウス白馬山の家

〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村大字北城向原 2939 番 2 号

土地	所有	6, 591. 00 m ²
建物	所有	1, 450. 99 m ²

セミナーハウス白浜海の家

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 1300 番

土地	所有	8, 970. 17 m ²
建物	所有	3, 353. 22 m ²

国際会館

〒536-0005 大阪市城東区中央 2 丁目 2 番 26 号

土地	所有	1, 135. 19 m ²
建物	所有	3, 050. 61 m ² 12 階建

合計

土地	所有	1, 073, 695. 40 m ²
	借用	51, 902. 18 m ²
	計	1, 125, 597. 58 m ²
建物	所有	580, 603. 63 m ²

(備考)

大阪工業大学 研究支援推進センター 東大阪分室

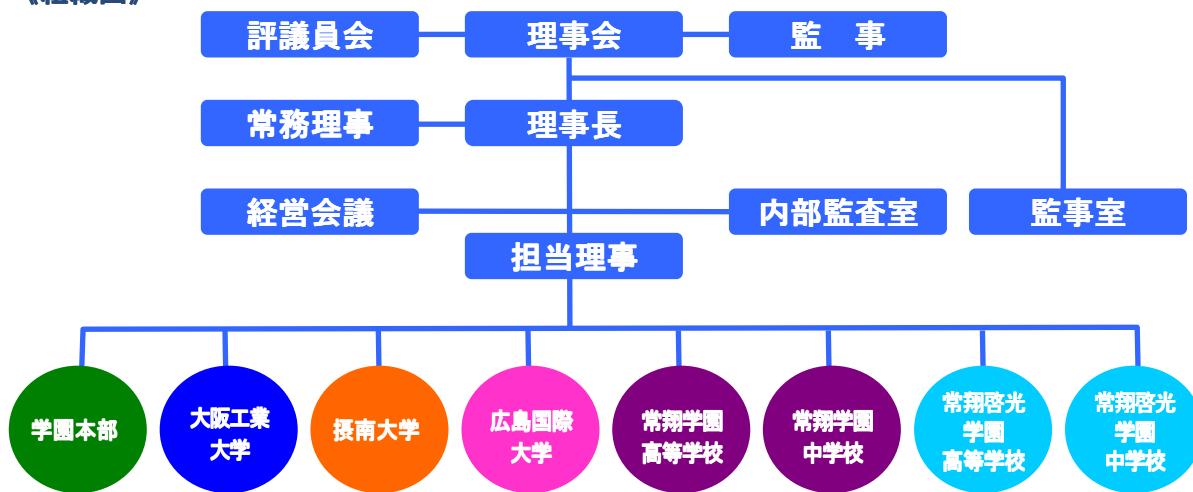
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1 丁目 4 番 1 号クリエイション・コア東大阪南館 2 階 2201 号

摂南大学 地域連携センター 駅前活動ルーム

〒572-0042 大阪府寝屋川市東大利町 2 番 14 号寝屋川市立産業振興センターにぎわい創造館 4 階

12. 組織 2018年4月現在

《組織図》



本部等

監事室、内部監査室、法人室、経営企画室、危機管理室（危機管理課、涉外課）、広報室、総務部（総務課、人事課、職員研修課）、財務部、施設部（施設課、用度課）、社会連携機構、連携教育推進機構、ICT連携機構、常翔歴史館、ロボティクス&デザインセンター、常翔ホール

大阪工業大学

- 大学院／工学研究科、ロボティクス&デザイン工学研究科、情報科学研究科、知的財産研究科
- 学部／工学部、ロボティクス&デザイン工学部、情報科学部、知的財産学部
学長室（企画課、会計課）、教務部（教務課、教育センター、ランゲージラーニングセンター）、学生部（学生課、スポーツ振興課、保健室）、入試部、就職部、図書館、情報センター、八幡工学実験場、研究支援・社会連携センター、国際交流センター、ものづくりセンター

握南大学

- 大学院／薬学研究科、理工学研究科、経済経営学研究科、法学研究科、国際言語文化研究科、看護学研究科
- 学部／理工学部、外国語学部、経営学部、薬学部、法学部、経済学部、看護学部
学長室（企画課、庶務課、会計課）、校方事務室、教務部（教務課、教育イノベーションセンター、教職支援センター、学習支援センター）、学生部（学生課、スポーツ振興センター、保健室）、入試部、就職部、図書館、情報メディアセンター、研究支援・社会連携センター、地域医療研究センター、地域総合研究所、国際交流センター、国際会館

広島国際大学

- 大学院／看護学研究科、医療・福祉科学研究科、心理科学研究科、薬学研究科
- 学部／保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療経営学部、心理科学部、心理学部、看護学部、薬学部、医療栄養学部
- 助産学専攻科
学長室（企画課、庶務課、会計課、營繕課）、教務部（教務課、総合教育センター）、学生部（学生課、保健室）、入試センター、キャリアセンター、図書館、情報センター、心理臨床センター、国際交流センター、研究支援・社会連携センター

常翔学園高等学校

- 普通科
事務室、教務部、生徒指導部、進路指導部、入試部、保健室、図書室

常翔学園中学校

- 事務室、教務部、生徒指導部、進路指導部、入試部、保健室、図書室

常翔啓光学園高等学校

- 普通科
事務室、教務部、生徒指導部、進路指導部、入試部、保健室、図書室

常翔啓光学園中学校

- 事務室、教務部、生徒指導部、進路指導部、入試部、保健室、図書室

13. 教育研究の概要

教育研究の概要については、下記アドレスをご覧ください。

<主な項目>

- 教育研究上の目的
- キャンパスまでの交通手段
- 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- 授業科目、授業の方法・内容、年間の授業計画、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識・能力に関する情報（シラバス）
- 学修の成果に係る評価および卒業または修了の認定に当たっての基準（学則）
- 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- 主要科目の特長等

■大阪工業大学

<http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html>

■摂南大学

<http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/openinfo/>

■広島国際大学

<http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/index.html>

14. 入学志願者数・合格者数

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

大阪工業大学

大阪工業大学は、優れた人間性と高い見識をそなえ、かつ工学、情報科学および知的財産学の各分野において、社会に貢献できる確かな専門的実力を身につけた人材を養成します。

すなわち、社会・産業界が求める実践的能力をそなえるとともに、新しい知と技の開拓に挑戦する、心身ともにたくましいプロフェッショナルを養成する場を提供します。

それにふさわしい人として、身につけた知識・技術を活かして将来社会で活躍したいと願う夢を持ち、それを実現する意欲と情熱を燃やし続けることができる若人の入学を求めていきます。

摂南大学

本学のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①志望学部・学科での就学に必要な科目（国語、数学、英語、社会、理科）に関する知識を身につけている。

■思考・判断

②問い合わせに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

③課外活動において課題を見つけ、その解決のための行動ができる。

■関心・意欲・態度

④専門分野に対する修学意欲が高く、将来は知的専門職業人として活躍することを目指している。

⑤学修活動、課外活動、ボランティア活動などにおいて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有している。

■技能・表現

⑥他者の意見を聴き、自分の意思を口頭または文章によって論理的に表現して相手に伝えることができる。

⑦資格取得に主体的に取り組み、優れた実績がある。

広島国際大学

我々は、ひとと共にあゆみ、こころに届く医療を実践する専門職業人を育成することを使命としています。思いやりのこころや勉学意欲・探究心を持って、ひとや社会の役に立ちたいと思うひとを歓迎します。

常翔学園中学校・高等学校

私たちは、自ら考え行動する力と幅広い「職業観」を養うことで、将来、実社会で活躍できる人を育成したいと考えています。そのため、「将来の夢」を持ち、夢に向かって努力する生徒の入学を求めていきます。

2018年度入試(2017年度実施)、編入学・再入学・転入学は除く。

学校名	大学院・学部等		入学志願者数	合格者数	入学者数
大阪工業大学	大学院博士後期課程	工学研究科	7	6	6
		ロボティクス&デザイン工学研究科	0	0	0
		情報科学研究科	0	0	0
	大学院博士前期課程	工学研究科	131	125	115
		ロボティクス&デザイン工学研究科	33	33	31
		情報科学研究科	33	33	31
	大学院専門職学位課程	知的財産研究科	34	34	31
	学部	工学部	11,904	2,869	839
		ロボティクス&デザイン工学部	4,199	739	276
		情報科学部	4,384	1,020	387
		知的財産学部	1,513	253	135
大阪工業大学 計			22,238	5,112	1,851
摂南大学	大学院博士・博士後期課程	薬学研究科	3	3	3
		理工学研究科	0	0	0
	大学院博士前期・修士課程	理工学研究科	38	38	32
		経済経営学研究科	0	0	0
		法学研究科	0	0	0
		国際言語文化研究科	1	1	1
		看護学研究科	3	2	2
	学部	理工学部	13,014	2,921	539
		外国語学部	4,520	1,169	238
		経営学部	8,363	1,516	334
		薬学部	5,684	1,271	232
		法学部	4,807	1,237	273
		経済学部	6,638	1,309	259
		看護学部	3,275	530	99
摂南大学 計			46,346	9,997	2,012
広島国際大学	大学院博士・博士後期課程	看護学研究科	0	0	0
		医療・福祉科学研究科	3	3	3
		心理科学研究科	0	0	0
		薬学研究科	3	3	3
	大学院博士前期・修士課程	看護学研究科	0	0	0
		医療・福祉科学研究科	11	11	10
		心理科学研究科	0	0	0
	大学院専門職学位課程	心理科学研究科	33	13	7
	学部	保健医療学部	1,664	631	215
		総合リハビリテーション学部	1,351	458	179
		医療福祉学部	251	194	66
		医療経営学部	341	267	96
		心理学部	391	288	97
		看護学部	879	354	133
		薬学部	552	321	105
	医療栄養学部		253	188	52
	助産学専攻科		18	13	6
広島国際大学 計			5,750	2,744	972
常翔学園高等学校		普通科	1,312	1,268	601
常翔学園中学校			560	406	137
常翔啓光学園高等学校		普通科	1,628	1,594	445
常翔啓光学園中学校			147	106	57
合計			77,981	21,227	6,075

15. 卒業・修了者数 2017年度

学校名・学部等		卒業月	9月	3月	合計
大阪工業大学	博士後期	工 学	1	2	3
		情 報 科 学	0	1	1
	博士前期	工 学	3	145	148
		情 報 科 学	0	20	20
	専門職学位	知 的 財 産	1	25	26
		工 学 部	13	943	956
		情 報 科 学 部	10	333	343
		知 的 財 産 学 部	5	117	122
		計	33	1,586	1,619
摶南大学	博士課程	薬 学	0	2	2
	博士後期	理 工 学	0	1	1
	博士前期	理 工 学	0	28	28
	修士課程	経 済 経 営 学	0	3	3
		法 学	0	1	1
		国 際 言 語 文 化	1	1	2
		看 護 学	0	4	4
		理 工 学 部	7	453	460
		外 国 語 学 部	1	207	208
		経 営 学 部	4	288	292
		薬 学 部	0	197	197
		法 学 部	1	214	215
		経 済 学 部	5	211	216
		看 護 学 部	0	91	91
		計	19	1,701	1,720
広島国際大学	博士課程	薬 学	0	2	2
	博士後期	医 療 ・ 福 祉 科 学	0	2	2
		心 理 科 学	0	0	0
		看 護 学	0	1	1
	博士前期	医 療 ・ 福 祉 科 学	0	8	8
		看 護 学	1	1	2
		医 療 ・ 福 祉 科 学	0	2	2
	修士課程	心 理 科 学	0	2	2
		工 学	0	1	1
		専 門 職	0	15	15
		専 攻 科	0	9	9
		保 健 医 療 学 部	1	188	189
		総 合 リハビリテーション学部	0	159	159
		医 療 福 祉 学 部	0	98	98
		医 療 経 営 学 部	0	83	83
		心 理 科 学 部	2	79	81
		工 学 部	0	1	1
		看 護 学 部	0	115	115
		薬 学 部	39	77	116
		医 療 栄 養 学 部	0	52	52
		計	43	895	938
常翔学園高等学校				625	625
常翔学園中学校				103	103
常翔啓光学園高等学校				471	471
常翔啓光学園中学校				50	50
合 计			95	5,431	5,526

16. 卒業・修了者数 2018年3月31日現在

学校名	大学院・学部等	累計	2015年度	2016年度	2017年度	合計	
大阪工業大学	専攻科	17	0	0	0	17	
	大学院						
	工学研究科	博士後期課程	64	1	0	3	68
		博士前期・修士課程	3,394	112	146	148	3,800
	情報科学研究科	博士後期課程	12	1	0	1	14
		博士前期・修士課程	361	10	24	20	415
	知的財産研究科	専門職課程	321	18	25	26	390
	学部						
	工学部	90,071	1,051	1,053	956	93,131	
	情報科学部	5,522	383	387	343	6,635	
	知的財産学部	1,273	143	162	122	1,700	
	計	101,035	1,719	1,797	1,619	106,170	
摂南大学	大学院						
	薬学研究科	博士後期・博士課程	24	5	4	2	35
		博士前期・修士課程	402	0	0	0	402
	経済経営学研究科(経営情報学研究科)	博士後期課程	7	0	0	0	7
		博士前期・修士課程	220	1	1	3	225
	理工学研究科(工学研究科)	博士後期課程	8	0	1	1	10
		博士前期・修士課程	513	30	26	28	597
	法学研究科	修士課程	103	3	0	1	107
	国際言語文化研究科	修士課程	46	0	1	2	49
	看護学研究科	修士課程	—	—	—	4	4
	学部						
	理工学部(工学部)	19,186	430	453	460	20,529	
	外国語学部(国際言語文化学部)	6,758	237	216	208	7,419	
	経営学部(経営情報学部)	9,135	278	260	292	9,965	
	薬学部	5,582	243	191	197	6,213	
	法学部	5,230	252	227	215	5,924	
	経済学部	410	189	235	216	1,050	
	看護学部	—	85	106	91	282	
	計	47,624	1,753	1,721	1,720	52,818	
広島国際大学	大学院						
	薬学研究科	博士課程	—	0	3	2	5
	総合人間科学研究科	博士後期課程	13	0	0	0	13
		博士前期・修士課程	161	0	0	0	161
		専門職課程	34	0	0	0	34
	看護学研究科	博士後期課程	0	0	0	1	1
		博士前期・修士課程	44	3	1	2	50
	工学研究科(社会環境科学研究科)	修士課程	49	0	0	1	50
	医療・福祉科学研究科	博士後期課程	8	1	3	2	14
		博士前期・修士課程	70	16	27	10	123
	心理科学研究科	博士後期課程	1	0	0	0	1
		修士課程	18	2	0	2	22
		専門職課程	91	13	12	15	131
	助産学専攻科		28	8	7	9	52
	学部						
	総合リハビリテーション学部(保健医療学部)	3,019	288	397	348	4,052	
	医療福祉学部	3,011	83	84	98	3,276	
	医療経営学部	105	111	96	83	395	
	心理科学部(人間環境学部)	2,388	129	113	81	2,711	
	工学部(社会環境科学部)	1,505	80	10	1	1,596	
	看護学部	1,101	131	120	115	1,467	
	薬学部	867	139	127	116	1,249	
	医療栄養学部	—	—	—	52	52	
	計	12,513	1,004	1,000	938	15,455	
常翔学園高等学校		46,448	588	507	625	48,168	
常翔学園中学校		206	107	82	103	498	
常翔啓光学園高等学校		12,712	255	363	471	13,801	
常翔啓光学園中学校		3,923	82	75	50	4,130	
合計		224,461	5,508	5,545	5,526	241,040	

旧設置学校

関西工学専修学校(関西工学校、第一関西工学校、第二関西工学校)	10,260
関西高等工学校(摂南工科専門学校、大阪工業大学専門学院)	7,808
関西高等電気学校	0
関西工業学校	4,188
関西高等工業学校(摂南高等工業学校、摂南工業専門学校)	2,780
摂南重機工業学校(摂南工業学校)	1,527
関西中学校	26
摂南中学校	98
摂南学園中学校(大阪工業大学中学校)	565
大阪工業高等専門学校	4,104
大阪工業大学短期大学部	17,651
合計	49,007
総合計	290,047

17. 就職状況（進学状況）

〈大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学〉

2017年度卒業・修了生の就職状況（2018年5月1日現在）

学部

大学名	学部	就職率			卒業者数	就職活動者数	進学者数	就職者数
		A	B	中堅・大企業				
		就職者数 ÷ (卒業者数+進 学者数)	就職者数 ÷ 就職活動者数	上記就職者数 ÷ 就職者数				
大阪工業大学	工 学 部	97.0%	99.7%	60.2%	956	784	150	782
	情 報 科 学 部	96.8%	99.7%	63.4%	343	299	35	298
	理 系 計	96.9%	99.7%	61.1%	1,299	1,083	185	1,080
	知的財産学部	96.0%	100.0%	54.6%	122	97	21	97
	大学計	96.9%	99.7%	60.6%	1,421	1,180	206	1,177
摂南大学	外 国 語 学 部	87.4%	96.8%	47.5%	208	187	1	181
	経 営 学 部	91.1%	97.4%	48.1%	292	273	0	266
	法 学 部	89.3%	94.1%	47.9%	215	204	0	192
	経 済 学 部	89.4%	100.0%	56.0%	216	193	0	193
	文系計	89.5%	97.1%	49.8%	931	857	1	832
	理 工 学 部	94.5%	98.7%	55.0%	460	398	44	393
	薬 学 部	94.8%	100.0%	66.3%	197	184	3	184
	看 護 学 部	98.9%	100.0%	73.3%	91	90	0	90
	理系計	95.1%	99.3%	60.6%	748	672	47	667
	大学計	91.9%	98.0%	54.6%	1,679	1,529	48	1,499
広島国際大学	保健医療学部	87.3%	96.3%	57.6%	188	164	7	158
	総合リハビリテーション学部	95.5%	100.0%	18.1%	160	149	4	149
	医療福祉学部	95.8%	100.0%	37.0%	98	92	2	92
	医療経営学部	89.2%	96.1%	48.6%	83	77	0	74
	心理科学部	84.2%	98.5%	57.8%	81	65	5	64
	工 学 部	0.0%	—	—	1	0	0	0
	看 護 学 部	94.8%	100.0%	83.5%	115	109	0	109
	薬 学 部	68.1%	97.5%	60.8%	116	81	0	79
	医療栄養学部	96.1%	98.0%	61.2%	52	50	1	49
	大学計	88.5%	98.3%	50.9%	894	787	19	774

※) 現職継続者を就職活動者数・就職者数の各欄に含めている。

大学院（博士前期・修士・専門職）

大学名	研究科	就職率			修了者数	就職活動者数	進学者数	就職者数
		A	B	中堅・大企業				
		就職者数 ÷ (修了者数 - 進学者数)	就職者数 ÷ 就職活動者数	上記就職者数 ÷ 就職者数				
大阪工業大学	工 学 研 究 科	98.6%	100.0%	67.4%	148	144	2	144
	情 報 科 学 研 究 科	100.0%	100.0%	70.0%	20	20	0	20
	理 系 計	98.8%	100.0%	67.7%	168	164	2	164
	知 的 財 産 研 究 科 (専門)	100.0%	100.0%	50.0%	26	26	0	26
	大学院計	99.0%	100.0%	65.3%	194	190	2	190
摂南大学	経 済 経 営 学 研 究 科	66.7%	100.0%	0.0%	3	2	0	2
	法 学 研 究 科	0.0%	—	—	1	0	0	0
	国 際 言 語 文 化 研 究 科	50.0%	50.0%	0.0%	2	2	0	1
	文 系 計	50.0%	75.0%	0.0%	6	4	0	3
	理 工 学 研 究 科	96.4%	100.0%	48.1%	28	27	0	27
	看 護 学 研 究 科	75.0%	100.0%	100.0%	4	3	0	3
	理 系 計	93.8%	100.0%	53.3%	32	30	0	30
	大学院計	86.8%	97.1%	48.5%	38	34	0	33
広島国際大学	看 護 学 研 究 科	100.0%	100.0%	50.0%	2	2	0	2
	医 療・福 祉 科 学 研 究 科	100.0%	100.0%	42.9%	10	7	3	7
	心 理 科 学 研 究 科	100.0%	100.0%	0.0%	2	2	0	2
	心 理 科 学 研 究 科 (専門)	66.7%	83.3%	0.0%	15	12	0	10
	工 学 研 究 科	100.0%	100.0%	0.0%	1	1	0	1
	大学院計	81.5%	91.7%	18.2%	30	24	3	22

※) 現職継続者を就職活動者数・就職者数の各欄に含めている。

大学院（博士後期）

大学名	研究科	就職率			修了者数	就職活動者数	進学者数	就職者数
		A	B	中堅・大企業				
		就職者数 ÷ (修了者数 - 進学者数)	就職者数 ÷ 就職活動者数	上記就職者数 ÷ 就職者数				
大阪工業大学	工 学 研 究 科	100.0%	100.0%	33.3%	3	3	0	3
	情 報 科 学 研 究 科	100.0%	100.0%	100.0%	2	2	0	2
	大学院計	100.0%	100.0%	100.0%	5	5	0	5
摂南大学	薬 学 研 究 科	100.0%	100.0%	0.0%	2	2	0	2
	理 工 学 研 究 科	100.0%	100.0%	100.0%	1	1	0	1
	大学院計	100.0%	100.0%	33.3%	3	3	0	3
広島国際大学	薬 学 研 究 科	100.0%	100.0%	50.0%	2	2	0	2
	医 療・福 祉 科 学 研 究 科	100.0%	100.0%	100.0%	2	2	0	2
	心 理 科 学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—
	看 護 学 研 究 科	100.0%	100.0%	0.0%	1	1	0	1
	大学院計	100.0%	100.0%	60.0%	5	5	0	5

※) 現職継続者を就職活動者数・就職者数の各欄に含めている。

満期退学者を含めている。

専攻科

大学名	専攻科	就職率			修了者数	就職活動者数	進学者数	就職者数
		A	B	中堅・大企業				
		就職者数 ÷ (修了者数 - 進学者数)	就職者数 ÷ 就職活動者数	上記就職者数 ÷ 就職者数				
広島国際大学	助 产 学	100.0%	100.0%	88.9%	9	9	0	9

〈常翔学園高等学校〉
2017年度卒業生の進学状況

コース 進路決定先	一貫 I類	一貫 II類	スーパー	薬学・ 医療系 進学	特進A	特進B	文理 進学	全体		
大阪工業大学	工 学 部	2	4	2	0	0	3	10	21	
	ロボティクス&デザイン工学部	0	2	0	1	0	2	4	9	
	情 報 科 学 部	0	0	0	0	1	1	1	3	
	知的財産学部	0	0	1	0	0	0	4	5	
	大阪工大 計	2	6	3	1	1	6	19	38	
摂南大学	理 工 学 部	0	2	0	0	0	2	11	15	
	外 国 語 学 部	1	0	0	0	3	0	3	7	
	経 営 学 部	0	0	0	0	1	3	12	16	
	薬 学 部	0	2	0	10	1	0	0	13	
	法 学 部	0	2	0	0	0	1	14	17	
	経 済 学 部	0	0	0	0	0	3	13	16	
	看 護 学 部	0	0	0	3	0	0	1	4	
	摂南大 計	1	6	0	13	5	9	54	88	
広島国際大学	保健医療学部	0	1	0	1	1	0	2	5	
	総合リハビリテーション学部	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療福祉学部	0	1	0	0	0	0	0	1	
	医療経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心理 学 部	0	0	0	0	0	0	0	0	
	看 護 学 部	0	2	0	0	0	0	0	2	
	薬 学 部	0	0	0	2	0	0	2	4	
	医療栄養学部	0	0	0	0	0	0	1	1	
	広島国際大 計	0	4	0	3	1	0	5	13	
他大学	国公立	理科系	6	2	4	1	1	0	3	17
		文科系	4	2	3	1	3	0	0	13
	国公立大 計	10	4	7	2	4	0	3	30	
	私 立	理科系	2	11	10	12	11	17	26	89
		文科系	8	25	11	4	20	49	154	271
	他私立大 計	10	36	21	16	31	66	180	360	
	他 大 学 計	20	40	28	18	35	66	183	390	
	短期大学(部)	0	0	0	0	0	0	3	3	
	専門学校 その他	2	3	0	2	1	0	31	39	
	就 職	0	0	0	0	0	0	2	2	
	未定(浪人等)	1	0	5	2	4	11	29	52	
卒 業 者 数		26	59	36	39	47	92	326	625	

〈常翔啓光学園高等学校〉
2017年度卒業生の進学状況

進路決定先		コース	私立文系	私立理系	国立理系	国立文系	全体
大阪工業大学	工 学 部	0	18	5	0	0	23
	ロボティクス&デザイン工学部	0	7	2	0	0	9
	情 報 科 学 部	0	2	4	0	0	6
	知 的 財 産 学 部	1	1	0	0	0	2
	大阪工大 計	1	28	11	0	0	40
摂南大学	理 工 学 部	0	6	2	0	0	8
	外 国 語 学 部	6	0	0	0	0	6
	経 営 学 部	13	1	0	0	0	14
	薬 学 部	0	4	0	0	0	4
	法 学 部	9	0	0	0	0	9
	経 済 学 部	15	0	0	0	1	16
	看 護 学 部	0	2	0	0	0	2
	摂南大 計	43	13	2	1	1	59
広島国際大学	保 健 医 療 学 部	0	0	1	0	0	1
	総合リハビリテーション学部	0	0	0	0	0	0
	医 療 福 祉 学 部	0	0	0	0	0	0
	医 療 経 営 学 部	0	0	0	0	0	0
	心 理 学 部	0	0	0	0	0	0
	看 護 学 部	0	1	0	0	0	1
	薬 学 部	0	0	0	0	0	0
	医 療 栄 養 学 部	0	0	0	0	0	0
	広島国際大 計	0	1	1	0	0	2
他大学	国公立	理科系	0	0	8	0	8
		文科系	1	0	2	5	8
	国公立大 計		1	0	10	5	16
	私 立	理科系	10	38	40	3	91
		文科系	132	5	4	38	179
	他私立大 計		142	43	44	41	270
	他 大 学 計		143	43	54	46	286
短 期 大 学 (部)		7	0	1	1	1	9
専 門 学 校 そ の 他		17	12	4	0	0	33
就 職		0	0	0	0	0	0
未 定 (浪 人 等)		23	5	9	5	5	42
卒 業 者 数		234	102	82	53	53	471

《事業の概要》

1. 理事長指針・学校長方針

■ 理事長指針

- 学園創立100周年を見据え「J-Vision22」を強力に推し進め、「選ばれる学校」「魅力ある学校」づくりに邁進する。
- 危機意識を背景に「学園財政の健全化、安定化」と「学生、生徒の確保」を重点課題とし、制度改革と教職員の組織力強化に取り組む。
- 学園のシンボリックなOIT梅田タワーをすべての設置学校の成長エンジンと位置付け、新たな教育・研究およびイノベーションの拠点とする。

■ 大阪工業大学 学長方針

終りなき18歳人口減少期を目の前にして、将来に亘って「選ばれる大学」としての明確な優位性を伴う社会的な認知を得ることは、本学にとって喫緊の課題である。その解決は、「建学の精神に基づく実践的教育の質的向上」という根本に求められなければならない。2017年度の重要項目として列挙したものは、この最重要課題を中心に相互に強固に結び付くものである。

「建学の精神に基づく実践的教育の質的向上」には、適正な基準に基づく成績評価の厳正化・三つのポリシーを基軸とした教学マネジメント体制の徹底など、過年度からの継続事案が含まれる。また昨年度採択されたAP事業を起爆剤として、「卒業時の質保証」を基軸とし、受験生・保護者・高等学校関係者などへの訴求(偏差値向上)、就職率の維持と進路の質向上までのエンロールメントマネジメント全体を改革する全学的な体制が始動した。

これまでの様々な取組みを踏まえながら、各項目単体の実現ではなく、学部等の独自性・自律性に立脚しながらも、全学の一体的な改革推進体制を実質的に軌道に乗せ、その成果を広く社会に訴え、大阪工業大学に対する社会的認知の刷新を図ることを以って学長方針とする。

『建学の精神に基づく実践的教育の質的向上』

- I . 4学部・4研究科・3キャンパス体制での円滑な運営の始動
- II . 大宮キャンパス再開発計画の遂行
- III . 大学院の活性化を含む研究プランディングの強化
- IV . 堅実な学生確保と社会の動向を見据えた入学選考・高大接続の実現
- V . 「就職に強い大阪工大」の地位の維持と質的向上
- VI . 課外活動等の学生支援の充実
- VII . 産業界・行政・地域などの関係強化
- VIII . グローバル展開の充実
- IX . 教学と経営両面のIRを含む継続的・効果的な自己点検評価の推進
- X . 以上を牽引する人材基盤を固めるためのFD・SDの推進

■ 摂南大学 学長方針

1. 基本方針

グローバル化や少子高齢化などの急激な国内外の社会情勢の変化の中で、大学は社会において求められる人材の高度化・多様化に対応した「教育の質的転換」や、18歳人口の減少期における学生募集力強化のための「選ばれる大学・魅力ある大学づくり」を強力に推進していくかなければなりません。

こうした時代の中で、歩みを止めることなく、様々なイノベーションを追求するためには、構成員全員が現状に甘んじることなく高く明確な目標と計画を掲げ、一体となってそれを遂行していくことが必要です。また、本学の教育・研究・運営自体を学生・社会に対して開くとともに、その評価を真摯に受け止めることで、本学において欠けているもの、伸ばすべきものを見つけ出し、2018年問題を超えて大学を発展させる足掛かりとしていきたいと考えます。

2017年度は、第Ⅱ期中期目標・計画の最終年度となる節目の年であり、またSETSUDAI VISION 2025(摂南大学創立50周年)に向けて、目標の達成および大学改革を着実に推し進めていきます。

上記の方針に基づき、2017年度は、次の5点に主眼を置き具体的施策に取り組みます。

- (1) 学生・社会に対する教育成果保証のための「教育の質的転換の全学化」
- (2) 社会の要請に応えられる「研究体制の整備と充実」
- (3) 教職員・学生の「連携力強化」と地域的・国際的な「社会貢献活動の発展」
- (4) キャンパス拡大に併せた大学の発展・拡充の準備と「新しいブランド構築」
- (5) 「外部評価の積極的活用」による大学マネジメントの推進

2. 具体的施策

1 学生募集

- (1) 安定的入学志願者の確保

- (2) 入試難易度の維持・向上
- (3) 第1志望者比率の向上
- (4) 女子入学者比率の向上
- (5) 地域(地方)戦略の策定と実施
- (6) 大学広報の強化

2 教育

- (1) 全学共通教育の実施
- (2) 学修成果の可視化
- (3) 課題発見・解決力を涵養する教育(摂南大学全学部PBLプロジェクトおよびアクティブ・ラーニング)の推進
- (4) 資格取得支援の充実
- (5) 少人数教育を行う授業科目の厳選と充実
- (6) 就業力向上のためのキャリア教育の充実
- (7) 学習支援センターの強化
- (8) 環境教育の実践
- (9) 最新のICTを活用した教育の推進
- (10) 情報リテラシー教育の充実
- (11) 除籍・退学者を減らすための修学指導の充実

3 研究

- (1) 研究支援体制の充実(研究支援委員会の設置)
- (2) 産官学連携による新しい研究体制の構築
- (3) 地域的課題解決を目的とした研究の推進
- (4) 共同研究・受託研究の支援体制の強化
- (5) 外部資金獲得および特許出願件数増加のためのシステム構築強化
- (6) 学術機関リポジトリ運用の推進

4 学生支援

- (1) 課外活動の活性化
- (2) 強化クラブへの支援強化
- (3) 学生サポート体制の強化
- (4) 奨学金制度の充実

5 進路・就職

- (1) 就職不活動学生対策と就職支援プログラムの充実(就職率の向上)
- (2) 学部・学科と就職部の一体となった支援の実現(就職満足度の向上)
- (3) 就職実績安定化のための保護者・卒業生との連携強化
- (4) 就職実績安定化のための就職コア企業との関係構築
- (5) 学生個々の希望・適性に応じた進路・就職支援強化(全学を挙げた支援体制の充実)

6 人事

- (1) 大学設置基準に必要な教員数と適切な教員数の確保
- (2) 教員活動評価制度の実施による教育研究活動の質の向上
- (3) 研究業績の公開による質の保証と研究成果の活用

7 財務

- (1) 学内競争的予算運用の実施(研究費の予算配分等)
- (2) 学納金に対する教研経費・設備費の執行比率の向上(大学単独)
- (3) 文科省補助金等外部資金の積極的な獲得

8 学校間連携

- (1) 内部推薦入試制度の見直し・整備
- (2) 学園内高校(中学を含む)との連携強化・充実
- (3) 3大学就職担当部門の情報共有と就職関係行事の共同実施
- (4) 学園内高校における就業意識の醸成
- (5) 課外活動団体交流の活性化

9 社会貢献

- (1) 連携協定締結の行政・地域機関との連携事業の内容充実
- (2) 新規の連携協定締結行政・地域機関の開拓
- (3) ボランティア相談・支援体制の構築
- (4) 地方自治体・地元産業界との連携の実質化
- (5) 生涯学習(社会人・高齢者等)の推進

10 グローバル化

- (1) 学生の海外派遣および外国人留学生・教員・研究員等の受け入れ促進
- (2) グローバル化に対応したコミュニケーション力の強化
- (3) 海外大学・研究機関との交流促進
- (4) 地域社会のグローバル化への貢献

11 教育組織力の強化

- (1) 全学共通教育(基礎教育、教養教育、キャリア教育等)実施のための体制の整備
- (2) SD・FDの徹底
- (3) 事務合理化の推進

12 高大連携

- (1) 高大連携協定校の拡充
- (2) 高大連携協定校との関係構築強化

13 大学マネジメント・プランディング

- (1) 学部・学科(研究科・専攻)の設置・再編等
- (2) 高大接続改革(入学者選抜改革)の推進
- (3) 3ポリシーの見直し
- (4) 大学組織・運営体制の強化
- (5) 環境マネジメントシステム(ISO14001)の継続実施
- (6) 大学IRの促進
- (7) 大学機関別認証評価の第3期対応
- (8) 外部評価による大学マネジメントの推進
- (9) Smart and Humanの具現化と学内外への広報

14 キャンパス環境の整備

- (1) 教育施設の充実
- (2) キャンパスアメニティの充実
- (3) キャンパス整備構想の策定

■ 広島国際大学 学長方針

1. 基本方針

人口の減少・少子高齢化が進み、社会保障費が増大していくなか、「医療」に求められる内容も病気やケガの治療にとどまらず、「健康の維持」「生活の支援」にも広がってきており、地域を基盤とした「医療・福祉」がますます重要になってきている。また、高大接続改革実行プランが公表され、教育の質的転換が迫られている。

本学は、健康・医療・福祉分野の総合大学として、このような時代の変化に対応すべく将来構想を策定した。

具体的には、病院・福祉施設・行政・企業・地域におけるチームやコミュニティーのリーダーとして、あらゆる人々の健康寿命の延伸に貢献できる人材を輩出する教育体系を整備していく。さらに、このような人材を育成するために、学生だけでなく世代、性別、国籍等を超えて、また、障がいの有無にかかわらず、多様な人々の交流・学びの場となることができるキャンパス(ユニバーサルキャンパス)の実現をめざす。これらにより、皆が「ともにしあわせになる学び舎」となり、オンライン・ナンバーワンの大学として持続的に発展していく。

本学は開学20周年を迎える2018年度の前後年度を含めた3ヵ年で周年事業を実施するが、その事業の一環として、将来構想の実現に向けた教育体系や、それに対応したキャンパス、組織体制の改革を推進する。

2017年度は、これまでどおり国家試験合格率や就職率の維持・向上を図りつつ、高大接続も見据えて、周年事業の1年目として、教職協働で一丸となって改革を推し進め、本学が持続的発展を遂げるための基盤を構築する。

2. 主要課題

- (1) 新たな教育体系・教育体制の構築(広国教育スタンダード)
- (2) 2020年度にユニバーサルキャンパスを実現させるための環境整備
- (3) 教育改革およびワーク・ライフ・バランスを考慮した組織体制の見直し
- (4) 入学定員の充足および業務の効率化等による財政基盤の強化

3. 具体的な施策

(1) 教育改革(新たな教育体系・教育体制の構築)

これから時代に求められる健康・医療・福祉人材の育成に向けた特色ある教育・研究プログラムを策定することにより、オンラインの教育・研究を展開するための基盤を構築する。

- ① 学生志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育の推進
- ② アクティブラーニングの強化
- ③ 情報通信技術(ICT)を活用した多様な教育の提供や学修環境の充実
- ④ 学部間連携による教育・研究プログラムの開発・実施
- ⑤ ステークホルダーと協働した教育・研究プログラムの開発・実施
- ⑥ 教育・研究活動の推進による大学ブランドの向上

(2) キャンパス整備

学部・学科を超えた学生間の交流機会が増えるようキャンパスを整備することで、学生の満足度の向上につなげると共に、地域住民との交流を促進できる環境の実現に向けた計画を策定し、2017年度中に実施可能なところから実施する。

- ① 東広島キャンパス整備計画(ハード面)の策定
- ② 東広島・呉キャンパス運用計画(ソフト面)の策定

(3) 組織体制の見直し

実践的で質の高い教育を実現するための組織体制を検討する。また、学園設置学校と連携した事業の充実を図る。

- ① 教育改革と連動した学部・大学院の再編・改組計画の策定

- ②組織再編等による大学運営の効率化および教職協働での大学改革の推進
- ③OIT梅田タワーを活用した学園内連携の強化

(4)財政基盤の安定化

入学者確保と除籍退学率の低減、外部資金の獲得等により、健全な大学運営のための財政基盤を強化する。

- ①入学者の学力水準の維持と入学定員充足および除籍退学率の低減
- ②研究倫理教育の実践による公正な研究活動の推進と外部資金の獲得強化

4. 2017年度TOPICS

- (1)最終年度を迎える第Ⅱ期中期目標・計画の自己点検・評価の実施および第Ⅲ期中期目標・計画の策定
- (2)公認心理師国家資格の導入に向けたカリキュラム等の準備
- (3)2018年度の新たな教育体系の導入(2017年度医療栄養学部完成年度)に向けた準備
- (4)2020年度の2キャンパス体制へのスムーズな移行のために、医療経営学部の移転準備を開始
- (5)2020年度の新たな教育体系および学部・大学院の再編・改組に向けた準備
- (6)開学20周年事業(2017年度～2019年度)の実施

■ 常翔学園中学校・高等学校 校長方針

- ・2022年の長期目標達成に向け、進学指導とキャリア教育の強化により、生徒の学力伸長と人間力向上を図り、実社会で活躍できる人材を育成する。
- ・教育効果を高めるため、iPadを利活用したICT教育を積極的に推進する。
- ・東館(中高体育館)建替え計画を実践する。
- ・SSH(スーパーイングッシュ校)指定に必要な環境を整える。

[大学進学目標]

- 1.学園内併設大学への進学率 30.0%(2017年度卒業生、対卒業生数比)
- 2.大学合格者数(2018年度大学入試、既卒生を含む延人数) 国公立大学 65人、関関同立大学 230人

[学校運営・人材育成]

1. 校長方針に基づいた各部署・コース・学年および個人の具体的目標の設定とその実現に向け実践する人材の育成
2. iPadを活用した会議資料ペーパーレス化の推進
3. 卒業生、保護者との連携・交流の推進
4. 中高一貫コースのカリキュラム・進度・クラス編成・進学強化対策他、運営システムの見直し
5. 学園内併設大学および常翔啓光学園中高との連携・交流の推進
6. 学園内併設大学への進学率向上
7. 日々の教育活動の速やかなHP掲載と保護者へのメール配信
8. 常翔ホールの積極的利用

[授業力]

1. 授業アンケートポイント向上に向けた授業の工夫・改善、大学入試問題分析、高等学校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の研究、研究授業・教員研修等を通じた授業力強化
2. iPadを活用した教科指導実践に向けた研修
3. 教科ごとの授業力向上会議とその実践および結果公表

[教育内容]

1. ICT教育推進のためのインフラ整備強化と研修および実践
2. 内部進学者学力向上のための学習指導強化
3. 中高大連携教育の推進と充実
4. 一般入試受験率の向上
5. 勉強と部活動との両立を支援する環境づくり
6. 生徒・保護者面談におけるコミュニケーションスキルの向上
7. 放課後の自主学習、自宅学習時間を増やすための指導強化
8. キャリア教育の重要性を全教職員が共有し、授業・特別活動・課外活動等での普段からのキャリア教育に関連付けた指導と中高キャリアプログラムの一層の充実
9. 進学実績向上に向けた学年・コースの全校あげての組織的な取組み
10. 文理進学コースの学力および進学実績の向上
11. 成績上位者における、模試、センター試験の平均偏差値・平均点の向上ならびに受験者全体の成績向上
12. センター試験を意識させるための低学年(中学校も含む)からのテストへの(センター試験問題の)恒常的出題
13. 海外修学旅行、語学研修、英会話講座、授業を通じ、国際社会や異文化に関心を持たせ、積極的に交流しようとする生徒の育成

[生徒指導]

1. ルールやマナーにこだわりを持たせる指導と教職員自らの率先垂範した行動
2. 「本校の考える担任力」に基づいた教員個々の担任力(生徒指導力・進路指導力・保護者対応力)向上
3. 授業規律の徹底と教員間の情報共有
4. 社会性が身につく部活動指導、部活動生が学習面においてリードすることのできる支援体制の構築、社会が求める真のリーダー育成
5. 自校史教育実践の必要性共有

6. 環境教育、ボランティア活動を意識した生徒への啓発と教職員自らの積極的行動
7. いじめ防止、体罰禁止を意識した指導、厳しくも褒めて伸ばす教育の実践
8. 中学も含めた生徒会活動の活性化

[生徒募集]

1. 2018年度入学生数目標
高 校:600人(14クラス、一貫コース2クラスを含む募集人数555人)
中学校:105人(3クラス、募集人数100人)
2. 募集広報に有効な情報(成績伸長、活躍、教科の取組み・成果等)の共有
3. 中学校入試における説明会等参加人数増加のための施策強化
4. 全教職員の入試広報に対する意識の向上と協力

■ 常翔啓光学園中学校・高等学校 校長方針

本校は2017年度開校60周年を迎えるにあたり、学園の支援を受けて音楽棟とクライミングウォールが完成する。私たち教職員は、OIT梅田タワーと合わせてこの新しい校舎、施設を本校が躍進していく象徴として、積極的に学校改革に取り組み、在校生、保護者、卒業生と共に本校を誇りに思える学校にするために『選ばれる学校』『魅力ある学校』づくりに邁進していく。

本校の教育理念『ユニバーサル社会を創造する人間の自覚と能力を育み、社会に貢献できる人間を育成する』を実現するために、教職員はお互いに協力して生徒一人ひとりに探求心と自学自習の力を涵養させて学力を向上させる。またクラブ活動や学校行事等を通して人間力の育成を図り、卒業後も社会で活躍できる幅広い能力を身に付けさせる。本校に求められていることは、生徒たちの進路保証と心身の健やかな成長であることを認識する。

これらのことを行なうために私たち教職員は日々の業務に真摯に取り組み、特に授業力を上げるために研鑽を積む。また、教育改革に積極的に取り組むために常に最新の教育情勢を研究して、カリキュラムの改編を実行する。さらに教職員の意識改革を図り、進学実績の向上、生徒募集の強化を推し進め、財政の安定を含めた学校改革を実行していく。

2018年度大学入試 合格実績の目標

1. 学園内設置大学への進学率 30.0%(2017年度卒業生、対卒業生数比)
2. 大学合格者数 (2017年度卒業生、既卒生を含む延べ人数) 国公立大学 35名 関関同立120名

2018年度本校入試 生徒募集目標

1. 中学入試 特進(選抜)=35名 特進=30名 合計=65名
2. 高校入試 特進Ⅰ類=40名 特進Ⅱ類=120名 進学=230名
3か年合計=390名
内部進学=50名 総合計=440名

[学校運営・人材育成]

1. 学校改革に向けた教職員の積極的な取り組み
2. 各分掌の具体的目標達成に向けた積極的な取り組み
3. 自己評価と自己点検制度の充実と、全教職員相互の信頼関係の構築
4. 人材強化委員会の意向に沿った、評価者、被評価者の相互理解の上での教員評価制度の構築と実施
5. 人権に関する教職員研修会(いじめ、体罰、ハラスメントなど)の継続的実施と危機管理意識の醸成
6. ホームページやメールなどの充実による卒業生や保護者との連携のさらなる強化

[進学指導・教育内容]

1. 学園設置各校の特色を最大限生かした中高大連携の推進
2. 生徒の目標に合わせた効果的な進路指導と、進学実績向上のための学力伸長プログラムの構築
3. 進学実績向上のための組織的な取り組みとして外部研修会などへの積極的な参加とその情報共有
4. 学力伸長のための授業内容の研究と、研究授業や公開授業の実施による教科指導力の向上
5. 授業アンケートを分析して、生徒の目線に立った教育力、指導力、担任力の向上
6. 成績上位層のための強化講習や、成績不振者のための補完授業の展開
7. 中高6か年教育の利点を生かした系統的な進路学習と語学教育の推進
8. 生徒がクラブ活動など課外活動と勉強の両立をするための支援体制の強化
9. サイエンス教育を活用した自然科学系分野への進路の拡大
10. 自学自習の力を伸ばすための支援体制と学習環境の整備

[人間力育成・生徒指導]

1. 挨拶と掃除の励行
2. 生徒への積極的な「声かけ」と、日々の生徒の状況把握の徹底
3. ルーレやマナーの向上と、教職員による率先垂範
4. 海外研修や留学制度の充実によるグローバル化の推進
5. 学園内設置大学の留学生の協力による国際理解教育の推進
6. 部活動によるリーダーシップ育成
7. 学校行事の充実と、ボランティア活動などを含めた生徒会活動の活性化
8. 本校の教育理念を実践できる人間力を持った生徒の育成

[生徒募集]

1. 安定した生徒数確保に向けた教職員の意識向上
2. 中学校の定員確保のための諸施策の実行、特に効果的な塾まわりや各種説明会への参加

3. 説明会などのセールストークや、相談相手の意向をくみ取る状況判断の技術習得
4. ホームページの多面にわたる充実

2. 事業計画 実績報告

(1) 事業計画

2017年3月21日 理事会承認

■ 法人本部

No.1▶学園事務システム更新計画 [ICT連携機構]

■ 大阪工業大学

No.1▶AP事業推進を基軸において、大学の一体的な改革 [学長室、AP推進室]

No.2▶ロボティクス&デザイン工学部・同研究科(梅田キャンパス)の認知度向上

[ロボティクス&デザイン工学部事務室、入試部]

No.3▶大宮キャンパス再開発 [学長室、工学部事務室]

No.4▶イノベーション教育事業の推進 [ロボティクス&デザイン工学部事務室 RDC担当]

No.5▶产学連携プラットフォームの構築 [ロボティクス&デザイン工学部事務室 RDC担当]

■ 摂南大学

No.1▶キャンパス整備計画事業(継続) [学長室]

No.2▶大学・大学院の改組事業(継続) [学長室企画課]

■ 広島国際大学

No.1▶広島国際大学2017年度大学改革事業 [学長室企画課]

■ 常翔学園中学校・高等学校

No.1▶探究授業の拡大とSSH(SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL)指定校(申請中)としての取組 [高校教頭]

No.2▶タブレット端末を活用したICT教育の積極的推進 [高校教頭、事務室]

■ 常翔啓光学園中学校・高等学校

No.1▶情報端末を活用したICT教育推進事業 [教頭、教務部、事務室]

No.2▶60周年記念フェスティバル [教頭、事務室]

(2) 目的、計画、事業実績

2018年5月24日 理事会報告

法人本部:1件

No.1 学園事務システム更新計画 [ICT連携機構]

事業計画の目的、計画など	実績
【必要性・目的、実施計画等】 《必要性・目的》 現行の学園事務システム(財務会計・人事給与等本部系システム、各学校学生・生徒支援システム等)は、2012~2014年度に本稼働を開始し、2016年度から順次、耐用年数満了となる。後継システムは老朽化対策の他、震災時等の業務継続性、業務の標準化・共通化に向けたシステム統合、ITコストの抑制、パッケージソフトの有効活用、クラウド化等を考慮し、選定する。 《実施計画》 ・情報部門を改組し、3大学と本部の情報部門が連携し計画を進める。 ・2017年度に本部系および工大学生支援システムを更新する。 ・2018年度に摂大および広国大学生支援システムを更新する、並行して各学校システムを統合する。	1. 自己評価による達成度 ・前回のシステム更新時よりもハードウェアに係るコストを削減することができた。また、システムの一部をクラウド環境に移行することで、業務継続性とセキュリティ対策の向上が期待できるため、費用対効果は大きいと考える。 ・本部系および工大学生支援システムの更新、移行、運用切替えを実施し、安定稼働している。 ・図書館システムのバージョンアップおよびシステム移行を行った。 ・システム統合についてはICT連携機構内に検討チームを構成し、本格的に検討を開始している。
【具体的指標・効果（成果検証）】 ・クラウド化による業務継続性・セキュリティ対策向上とハードウェア導入コスト・ランニングコストの削減	2. 実施した施策 ・学園の情報部門を改組し、本部および各大学の構成員全員を本部ICT連携機構課員とし、構成員が相互に連携協力できる体制を整えた。 ・学園事務システム更新について、更新方針、サーバー構成、データ移行方法をICT連携機構全体で協議した。 ・広島国際大学における事務系仮想基盤システム(認証サーバー等)を更新した。

<ul style="list-style-type: none"> ・システム統合による本部・各学校業務の標準化・効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部系および工大学生支援システムの更新先環境を選定した。 ・図書館システムのバージョンアップ各種設定内容を決定した。 ・本部系および工大学生支援システムの新サーバー機器等を設置した。
	<p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に実施する摂大および広国大学生支援システム更新へ向けて準備を進める。

大阪工業大学:5件

No.1 AP事業推進を基軸において、大学の一体的な改革 [学長室、AP推進室]

事業計画の目的、計画など	実 績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>2016年度採択されたAP事業(2016~2019年度までの支援事業)の推進を中軸に据え、入口から出口までの一貫した、全学に及ぶ改革を遂行し、将来に亘って「選ばれる大学」としての明確な優位性を伴う社会的な認知を得ることを目指す。</p> <p>《実施計画》</p> <p>2016年度内に実施した内容を踏まえ、更に以下の項目に注力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① AP事業の柱の一つである「ディプロマサブリメント・システム」の開発とその活用(可視化の効果)を通じた学修支援体制の検討。 ② AP事業の重要側面である「キャリア」に関連する各種施策(「キャリア形成支援手帳」の製作、「キャリア形成講座」の開講等)の遂行。 ③ 上記以外のAP事業に関連する卒業生アンケート、在学生学修行動調査、教学IRシステムの構築などの施策を遂行。AP事業の申請においては、学修時間・卒業時の質保証に参画する教員比率・大学教育で成長を実感する学生の割合・ディプロマサブリメントによる個別指導の実施率などをはじめとする、広範な施策の実施が求められている。 ④ 上のすべての施策遂行の基盤として、AP事業を契機に設立された各種委員会(教学IR統括委員会、実効力評価委員会、教育推進委員会(全学・学部別))、さらにAP推進室等を包含する全学的な改革推進体制の活動促進。入口から出口までのエンロールメント・マネジメント全体を教学IR統括委員会が定めるKPI(重要業績評価指標)と各学部等の独自性・自律性に立脚したPDCAサイクルによって効果的に機能させる。 ⑤ AP事業の選考では、大学の従来の教育改革の実績が問われた面があり、これまでの成果と今後の展望を併せて、本学に対する社会的認識を刷新する契機が与えられているとの認識の下、広報活動においての訴求に最大限活用する。 <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>上記①~③は、AP事業応募時の記載事項であり、2017年度中の達成目標は、申請内容を以って当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2016年度の開発内容に対して、必要な修正等を行い、実用に向けての調整を図る。 ② 目的に合致した内容で、キャリア形成支援手帳の製 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ① AP事業の申請に記載した各種項目はほぼ全てをクリア(授業外学修時間のみ未達)し、また多岐に亘る計画を滞りなく遂行しており、高い評価ができる内容と考える。 ② AP事業の推進を基軸としながら、「教育・研究」「入口から出口まで」を有機的に結び付け、第Ⅲ期中期目標・計画とも関連させて構築するという点で、大学の一体的な改革に相応しい広がりが確保できている。IR機能の整備にも着手しており、第1段階である集計機能に関する仕様が確定し、2018年度6月にパイロット版の「IR年報」を学内の審議機関(教育IR統括委員会)に上程予定である。 ③ 広報については、十分な効果を上げているとは認識しておらず、私立大学研究プランディング事業の選定事案(地域産業支援プラットフォーム)とあわせてシナジー効果を狙い、インナーブランディングから戦略の再構築を図っている。 ④ 2018年3月16日付の文部科学省の中間評価において「S評価」を受けている。 <p>2. 実施した施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「ディプロマサブリメント・システム」を改修し、前期の成績発表後、試行導入した。そのフィードバックを受け、体系的な修学支援体制の再構築に向けた各学科での検討を促進するとともに、2018年度からの本格稼働に向けて準備を完了した。 ② 「キャリア形成支援手帳」は予定どおり製作完了。1年次・3年次の学生に対するPROGテストの解説会など、キャリア形成講座を実施した。 ③ 卒業生アンケートは実施済み。取り纏め内容を学内で報告している。 ④ 2017年3月に実施の在学生学修行動調査(学生アンケート)は、集計結果を学内限定でWEB公開している。同調査の設問を再検討し、工大サミットとの関係性を持つ設問などを加えて、2018年3月に実施済[在学生・卒業生(新入生を除く)]。 ⑤ 教育IRシステムは、2018年度の開発に向けて機能の検討を行っている。同システムでの出力は、「IR年報」の仕様を確定し、パイロット版のシステムを構築している。同年報は、「入口」から「出口」までのエンロールメント・マネジメントを包括し、更に研究までを網羅する計画となっている。 ⑥ 第Ⅲ期中期目標・計画の始動時期も踏まえ、入口から出口までのエンロールメント・マネジメントについて、全構成員と意識共有を行うため全5回のキャンパスミーティングを開催(学長による総括説明、「入口」、「出口」、「教育」、「研究」をテーマに計5回)。 ⑦ 2016年度に選定されたAP事業に続き、今年度の私立大学研究プランディング事業と2年連続の文部科学省助成事業での選定を受け、「教育力×研究力」の両面で公の評価を受けている大学とし

<p>作、キャリア形成支援講座を実施する。</p> <p>③卒業生アンケートその他の遂行と、2017年度に達成すべき学生の学修時間・卒業時の質保証に参画する教員比率・大学教育で成長を実感する学生の割合・ディプロマサプリメントによる個別指導の実施率などをはじめ、多岐に亘る達成指標が設定されている。</p> <p>④については、教学に関する広範な指標の下、各種改革の実現に向けて各部門および部門横断的な組織が網状に協働する体制が円滑に運用していることが目標となる。KPI(重要業績評価指標)は、AP事業の推進の中核的組織である「教学IR統括委員会」が決定。検証方法等についても、関連する機関において検討の上、決定する。</p> <p>⑤については、現時点での具体的な数値目標は定めがないが、HPへのアクセスを細かく分析し、社会的な認知(文部科学省・他大学に留まらず、広いターゲット)が進んでいくことを随時確認の上、具体的な向上策を展開する。</p>	<p>て、本学に対するイメージ刷新を促すキャンペーンを始めた。インナープランディングを徹底すべく、すべてのキャンパスにおいてポスターを大々的に掲出。第2弾として、受験生・企業等へのPRを図るため、ポスターのイメージをリーフレットに展開し、受験生・在学生・企業採用担当者等への発信準備を整え、一部はすでに配布を進めている。</p> <p>⑧教育IR統括委員会、実効力評価委員会(後者は、外部委員を含む)を開催し、今年度の成果等について検証を行っている。</p>
<h3>3. その他</h3>	

No.2 ロボティクス&デザイン工学部・同研究科(梅田キャンパス)の認知度向上

[ロボティクス&デザイン工学部事務室、入試部]

事業計画の目的、計画など	実 績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>2017年度は梅田キャンパス誕生、そしてロボティクス&デザイン工学部および同研究科の開設初年度であり本学にとって大きな転機である。同年度に、本学が世間から注目を集めることは必然であり、学生募集など広報活動においても非常に重要な時期である。</p> <p>2017年4月の開設後も継続的に、同学部・研究科およびキャンパスの魅力を強く発信し続け、”新しい大阪工業大学”をシンボリックに世の中に伝え、本学の「進化」を強く印象づけ、支持を得ることを目指す。</p> <p>《実施計画》</p> <p>2016年度内に実施した広報活動等を踏まえ、以下の施策に注力する。</p> <p>ロボティクス&デザイン工学部を主対象とするが、梅田キャンパスおよび大学院での学びについても、併せて広報を展開していく。</p> <p>①ロボティクス&デザイン工学部に関する広報活動の実施</p> <p>ロボティクス&デザイン工学部に関連する受験生・保護者・高校等を対象とした広報活動およびその基礎となる“新しい大阪工業大学”的イメージ浸透を図る。</p> <p>学部・学科等のコンセプトを踏まえ、以下の媒体により訴求対象に応じた広報を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験雑誌・新聞広告・Web広告掲載 ・模試実施業者を活用した志願誘導DM発送 ・業者主催説明会参加 ・新学部・新キャンパス広報用「梅田ジャックビジュアル」 ・フリー・パブリシティ活用(プレスリリース等) <p>②ロボティクス&デザイン工学部オープニングシンポジウムの実施</p> <p>「ロボティクス&デザイン」という新しい分野への社会的認知を促進し、産官民連携推進のための契機をつくり出すため、梅田キャンパス「常翔ホール」において、新学部各学科の教育研究内容に関連する</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>2017年度に実施すべき事業計画については、概ね当初の計画どおりに実施することができた。</p> <p>2018年度公募制推薦の志願者数では、新学部(ロボティクス&デザイン工学部)全体において前年比104%(ロボット工学科(以降「R科」):110%、システムデザイン工学科(以降「S科」):156%、空間デザイン学科(以降「W科」):87%)となった。</p> <p>また、他の推薦系では専門高校特別推薦において志願者数前年比155%(R科:124%、S科:170%、W科:180%)、指定校推薦では志願者数前年比132%(R科:139%、S科:180%、W科:108%)と好調な結果となった。</p> <p>一方、一般入試前期・後期では、志願者数前年比106%(R科:97%、S科:148%、W科:93%)と、S科以外は過年度の高倍率が敬遠された結果となつたが、学部全体では前年を上回った。</p> <p>[オープニングシンポジウムの実施]</p> <p>オープニングシンポジウムは事前予約制として申込みサイトを開設し、申し込みが616人で、当日の参加者は約500人で常翔ホールはほぼ満席であった。参加者のアンケート(n=245)を集計した本シンポジウムの満足度は1.63(とても満足「1」～とても不満「5」)と非常に高いものであった。産官や地域の講演者、パネリストから新学部や梅田キャンパスへの期待を表明いただくことで、来場者へ強い印象を与えることができた。</p> <p>[Web改修・再構築]</p> <p>アクセス解析により、オープニングシンポジウムや安藤忠雄氏講演会、オープンキャンパスなど規模にかかるわらざイベントの前後にWebサイトへのアクセスが集中することが明らかになっている。今回の改修により、見た目の変化に加え、新着情報が常に目にできる状態となり、新学部に関心の高い訪問者に期待をもって繰り返しアクセスいただける態勢が整った。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>①広報活動の実施</p> <p>受験生の手元に直接届けるDM5件、教員および保護者層をターゲットに新聞広告4件、Webバナー1件、受験雑誌2件に参画し、多角的にロボティクス&デザイン工学部(以降「新学部」)を訴求した。</p>

著名人を招いたシンポジウムを開催。梅田キャンパスの施設を活用することで、キャンパスの認知度向上にも繋げる。

③新学部関係Web改修・再構築

2016年度に立ち上げた新学部サイトの改修、再構築を行い、よりステークホルダーに伝わりやすく、かつ社会に向け発信力のあるWebサイトにし、強く印象づける。

【具体的指標・効果（成果検証）】

学部・研究科の全体の広報を行うが、AP事業関連で設立された教学IR統括委員会において定めるKPIに基づき、2017年度入試の志願状況を見定めた上で、具体的な指標を設定する。

とりわけ、手元に届くDMおよびステークホルダーを狙った新聞広告にウェイトをおいた。

②オープニングシンポジウムの実施

新学部の開設を記念して、大阪の行政や産業界を代表するリーダーの方を招き、2017年5月13日に梅田キャンパス常翔ホールで「イノベーション創出のための人材育成」というテーマでオープニングシンポジウムを実施し、イノベーション創出のための産官学連携や人材育成について議論を深めた。二部で構成し、一部では「基調講演」として、大阪市長・吉村洋文氏とパナソニック株式会社代表取締役専務・宮部義幸氏、「講演」として本学システムデザイン工学科・松井教授がそれぞれ講師を務めた。講演の中で吉村氏は大阪市のイノベーションにかかる取り組みと本学に対する期待など、宮部氏は企業におけるイノベーションの最前線と本学の人材育成に向けての期待など、松井教授からは本学の目玉である『デザイン思考』を用いた学修について話を展開した。

二部では、大須賀学部長がコーディネーターとなり、パネリスト3名（株式会社毎日放送・赤城賢彦氏、ヤンマー株式会社・小山博幸氏、宮岸副学長）で「パネルディスカッション」を行った。赤城氏からは茶屋町地域での本学の役割への期待、小山氏からは産業界としての本学への期待が述べられた。

オープニングシンポジウムの他に『地域、一般市民』『学生・教職員』『受験生』を対象に様々なイベントを実施した。

〈地域、一般市民〉

- ・2017年7月28日 安藤忠雄氏講演会
- ・2017年8月24日 子ども科学大学×サンケイリビング社主催、本学共催>
- ・2017年12月2日、8日 プレ・サイエンス・カフェ
- ・2018年1月～計5回 サイエンス・カフェ

〈学生・教職員〉

- ・2017年9月15日、16日 デザイン思考ワークショップ
- ・2017年11月9日 Hugh Miller氏による木工実演と講演会

〈受験生〉

- ・2017年8月13日他数日 河合塾等に大学受験模試会場として施設貸与
- ・2017年10月21日、22日 大阪サイエンスデイ<大阪府教育庁、大阪府立天王寺高等学校共催>

③Web改修・再構築

2017年7月28日に新学部公式サイトを改修・再構築した。教員の研究室をより見える化するため、活動内容がより伝わるよう改めた。また同学部の動きがすぐに伝えられるよう新着情報のレイアウトを変更し、コンテンツの更新頻度も高めた。

3. その他

【今後の計画】

- ・2017年度入試では振るわなかったS科が、2018年度入試では各入試において大幅に志願者数を伸ばした結果、確実に認知されてきていることから、これまで行ってきた広告展開(DM・Web・新聞広告など)を継続して実施していくこととしたい。また、大学選びに関する進路指導が高等学校の現場で年々早期化しており、受験生のみならず低年次生(1・2年生)もターゲットに含めて広報活動を実施していく。
- ・梅田キャンパスのにぎわい創出については次年度以降も継続して取り組んでいく必要があり、学部主催として「デザイン学会」と「SI2018学会」を誘致するほか、1階ギャラリーでのイベント(教育LEGOを用いた低年次を対象とした工作イベントやサイエンス・カフェ)を予定している。
- ・新学部のキーとなる授業の紹介やイベント情報等をタイムリーに発信するほか、アクセス解析により訪問数のアップを図る。改修・コンテンツの強化については、同学部Web担当教員と入念に打合せのうえ、教職協働で実施していく。

No.3 大宮キャンパス再開発 [学長室、工学部事務室]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <p>将来に亘り「選ばれる大学」として明確な優位性を持って社会的な認知の獲得を目指す本学にとって、並行して相応のキャンパス環境の整備を進めるとともに、耐震性等の懸念を晴らすことは喫緊の課題である。</p> <p>『実施計画』</p> <p>長期的な計画の下に進められる事業であるが、2017年度には4号館解体に向けて、その機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)を梅田キャンパスに移転する工学部空間デザイン学科・ロボット工学科の跡地に移転させることが中心となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4号館機能の移転先、大宮学舎2号館、9号館、東学舎1号館、2号館の改修工事(2017年4月～2018年1月) ・4号館機能の移転(引越) ・4号館解体(2018年2月～2019年2月(予定)) <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>既存施設の効果的な利用および計画の遅延なき遂行。</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>既存施設の改修工事、4号館解体の工期が若干遅延している点は計画の未達ではあるものの、改修工事による既存施設の効果的な利用は計画どおり遂行できたため。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>2017年度中に主に次の施策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4号館機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)の移転先確保のため、大宮学舎2号館、9号館、東学舎1号館、2号館等の改修工事(2017年6月～2018年2月) ・工学部環境工学科等の移転(引越)(2017年8月～9月) ・4号館機能(工学部都市デザイン工学科・建築学科)の移転(引越)(2018年2月～3月) <p>*当初の実施計画中、4号館解体(2018年2月～2019年2月(予定))は2018年度実施となった。</p> <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>長期的な計画の下に進められる事業であるが、2018年度には、主に4号館(都市デザイン工学科・建築学科屋外実験場合む)解体工事、3号館新築工事*および雨除け屋根等解体撤去工事を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 3号館は4階建て。1階は都市デザイン工学科と建築学科の実験施設、2～4階は普通教室等。 ・4号館解体工事(2018年4月～2019年3月(予定)) ・3号館新築工事(2018年4月～2019年3月(予定)) ・雨除け屋根等解体撤去工事(2018年度中(予定))

No.4 イノベーション教育事業の推進 [ロボティクス＆デザイン工学部事務室、RDC担当]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <p>大阪工業大学 ロボティクス＆デザイン工学部の目玉は、デザイン思考である。デザイン思考の目的はイノベーション教育にあり、イノベーション教育は、日本でも東京大学をはじめとした主要大学で導入されつつある。イノベーション教育を通じて、特に海外では質の高い学生が集まりやすい環境にあり、相乗効果として研究も活発になっている。</p> <p>ロボティクス＆デザインセンターによる梅田キャンパスにおけるイノベーション教育の推進こそが、教育の質およびブランドイメージの向上と志願者増につながる。</p> <p>また、イノベーション教育で先行している大阪大学大学院医学系研究科バイオデザイン学講座との連携協定の締結を目指すことにより、梅田キャンパスにおける常翔学園の教育とのシナジー効果を發揮しつつ、理事長指針にあるOIT梅田タワーを全学園の戦略的拠点化の一翼を担う。</p> <p>『実施計画』</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会人向けデザイン思考講座の実施(全5回) ② ロボティクス＆デザインセンターHPの作成・運用 ③ 2018年度RDC独立法人化によるイノベーション教育の収益事業化に向けた制度整備の検討 <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度ロボティクス＆デザイン工学部 志願者増1ポイント以上に対する寄与 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>NEDO特別講座は委託先の大半が東京大学であり、残りも旧帝国大学等で寡占されていた。私学単独で委託されたのは、本学が2校目であった。過去、イノベーション教育に対する実績がなかった本学が採択されたことは、大学のステータスを高めるという視点では、大きな成果であった。採択後は、ロボットビジネススクールを全国6会場で開講し、その講義動画を大学HPに載せるとともに講義テキストを作成し配布したこと、本学のイノベーション教育の普及に貢献した。</p> <p>大阪商工会議所とのオープンイノベーション拠点創設を開設できるよう着々と準備を整え、2018年4月に記者会見と開設記念シンポジウムを行う予定である。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>① 社会人向けデザイン思考講座の実施(全5回) 日刊工業新聞と共に開催で、下記タイトルのデザイン思考講座を実施。 関西の流行発信地「大阪 梅田 茶屋町」で実践する！ IoT×ロボット×デザイン思考でつくる新製品・新サービス 2017年12月8日、12月9日、2018年1月12日、1月20日、 1月27日の全5回</p> <p>② ロボティクス＆デザインセンターHPの作成・運用 下記URLの通り作成・運営 http://www.oit.ac.jp/rdc/</p> <p>③ 2018年度RDC独立法人化によるイノベーション教育の収益事業</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション教育に関する他大学との連携数 	<p>化に向けた制度整備を検討中</p> <p>④ NEDO特別講座ロボットサービスビジネススクール受託による国家予算によるイノベーション教育の推進 NEDOからの委託事業(NEDO特別講座)として約10,000千円の国の予算を用いて、社会人向けのイノベーション教育(デザイン思考教育)を全国5ヶ所で実施。(徳島、福島、大阪、東京、名古屋)</p>
	<p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>RDクラブ活動の強化、大阪商工会議所とのイノベーション拠点創設、および外部収入安定化。</p>

No.5 産学連携プラットフォームの構築 [ロボティクス＆デザイン工学部事務室、RDC担当]

事業計画の目的、計画など	実 績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>イノベーション教育を推進するためには座学だけでは不十分であり、企業から持ち込まれる実課題に基づく、PBLが要となる。ロボティクス＆デザインセンターが産学連携のプラットフォームを構築することで、より効果的なイノベーション教育につながる。また現時点では梅田キャンパスには産学連携プラットフォーム、オープンイノベーションの拠点としてのインフラ整備・機能整備が不十分である。大阪府や大阪商工会議所等との外部連携を行ながら、産学連携プラットフォームとしての機能を整備する。</p> <p>《実施計画》</p> <p>① 大阪府との連携協定(ロボット×バッテリー)とシンポジウムの実施 ② ロボット事業化プロセス(要素技術、システム、リスクアセスメント、安全認証等)の見える化 ③ 2018年度運営法人立ち上げによるデジタル試作工房の収益事業化に向けた制度整備の検討(大阪商工会議所との連携)</p> <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>企業人・学生入り交じりでのPBL・ワークショップ共同開催等の産学連携企業数 6社以上</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>RDクラブのように学生参加・インバウンドインターンシップ型の新たな産学連携の形を実現できたことは、教育という観点からも大きかったと考える。参加企業数も11社で、ロボティクス＆デザイン工学部教員のマンパワーの最大限度許す限り受け入れ、同学部のブランド普及活動の一助となった。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>① 大阪府との連携協定(ロボット×バッテリー)を締結し、協議会(大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会)とその傘下にドローンWGを発足。 ② RDクラブの立ち上げ 産学連携の基礎となるイノベーション教育・デザイン思考教育に基づく、学生のための産学連携のクラブ「RDクラブ」を立ち上げ。 参加企業: 積水ハウス、サントリーシステムテクノロジー、パナソニックデバイスSUNX竜野等11社 参加学生数: 約120人</p> <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>OIT-P事業(私立大学研究プランディング事業)に基づく産学連携推進、大阪商工会議所との協定に基づく産学連携推進、およびRDクラブ活動強化と外部収入の安定化。</p>

摂南大学:2件

No.1 キャンパス整備計画事業(継続) [学長室]

事業計画の目的、計画など	実 績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>寝屋川キャンパスは、教育研究、産学官連携、社会貢献等様々な活動を展開する摂南大学の中核キャンパスである。地域に愛され信頼される大学を築くために、このキャンパスを学生・教職員だけでなく、地域の人々にも潤いと安らぎを与える空間として整備する。学部・学科の新設・再編をはじめ、教育プログラムの充実や課外活動の活性化を目的とした整備内容とする。</p> <p>枚方キャンパスは、屋内体育施設がなく学修環境の充実および課外活動活性化に向けた体育施設の建設や学部・</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>摂大交流会館を解体し、新たな部室棟での課外活動が始まったが、苦情や施設・設備の不備などは見受けられない。</p> <p>日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の跡地整備計画はワーキンググループのメンバー以外から多くの意見等があり、有効な活用案が提案できると考える。現在、仮設バス待合所および周囲フェンスを設置しており、整備計画着工までの安全対策を講じている。また、枚方キャンパスの農学部棟(仮称)新築工事も承認を得られ、2020年4月の開設に向けて、建物等の設計を含め具体的な計画を進めており、概ね順調であると判断する。</p>

<p>学科の新設も含めた整備内容とする。</p> <p>【実施計画】</p> <p>[寝屋川キャンパス]</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の敷地に2018年1月引き渡し予定の日本ペイント ㈱寝屋川事業所用地を加えて、学部・学科の新設・再編やグラウンド建設等を含めた寝屋川キャンパス全体の整備計画を検討・策定する。[2017年度] <p>[枚方キャンパス]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部・学科の新設や体育施設等を含めた枚方キャンパス全体の整備計画を検討・策定する。[2017年度] <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>[寝屋川キャンパス]整備期間:2017～2021年度 [枚方キャンパス]整備期間:2017～2021年度 <2017年度> 各キャンパス整備計画の検討および計画策定。</p>	<p>2. 実施した施策</p> <p>[寝屋川キャンパス]</p> <p>2017年12月 部室棟竣工後の摂大交流会館解体工事竣工 (工期:2017年7月～12月)</p> <p>2017年4月～ 日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の跡地整備計画について、キャンパス計画検討ワーキンググループを設置し、具体的な施設・設備の検討・策定を行っている。</p> <p>2018年1月 日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の跡地への仮設バス待合所設置工事および周囲フェンス設置工事竣工 (工期:2017年12月～2018年1月)</p> <p>[枚方キャンパス]</p> <p>2017年9月～ 農学部棟(仮称)新築工事について、9月26日の理事会にて承認。複数業者から発注業者を選定し、施設・設備の設計・開発等について、関係部署を含めて定例会議を実施する等、具体的な設置計画を進めている。</p> <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>[寝屋川キャンパス]</p> <p>日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の跡地整備計画について、帰宅時の通学において、バス停から道路を挟み学内まで長蛇の列が発生していたため、仮設バス待合所を設置したが、屋根および十分な待合スペースを確保したバス停の整備は2018年度中に行う。</p> <p>[枚方キャンパス]</p> <p>2018年度後期に農学部棟(仮称)新築工事の着工を予定。</p>
--	---

No.2 大学・大学院の改組事業(継続) [学長室企画課]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>【必要性・目的】</p> <p>改組検討事業</p> <p>2015年に創立40周年を迎えた本学は、さらなる改革として創立50周年を見据えた成長戦略「SETSUDAI VISION 2025」を策定し、そのビジョン実現のために5つの目標を設定した。その1つが「多様な側面から課題解決に取り組む総合大学への進化」である。</p> <p>社会のニーズや時代にマッチした教育体制とするべく、前年度に引き続き、学部・学科の設置を検討するとともに、既設の学部・学科・コースの改組・再編を検討する。これにより、大学改革を推進するとともに、ブランド力の向上につなげる。</p> <p>【実施計画】</p> <p>改組検討事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学部・学科の設置・再編等の検討 ②研究科・専攻の設置・再編等の検討 <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>【実施時期】</p> <p><2017年度> 学部等新設・再編の検討および計画策定。</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>農学部の設置については、教員人事を約半数まで編成した。今後、5月末を目途に、教員公募により教員人事編成を進めていく。また、校舎等建築設計は、スケジュールどおり、10月から2月までの基本設計を終えた。今後、2018年6月まで実施設計を行う予定である。教育課程は、今後、教員人事編成とともに、今後、詳細な編成を進めしていく。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>2016年度摂大改組等ワーキングにより、新学部設置の検討を進め、農学部および文系1学部を設置することとした。2017年度は新学部開設準備委員会を設置し、2020年4月に開設予定の農学部について具体的な内容を協議している。文系学部の設置については、日本ペイント㈱寝屋川事業所用地の整備計画および既存の学部等の改組・再編を見据えながら、今後検討していく。</p> <p>[2017年度新学部開設準備委員会開催実績] ①4/4 ②4/14 ③5/30 ④8/8 ⑤9/21 ⑥11/1 ⑦12/27 ⑧2/7</p> <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>農学部設置にかかる具体的な学内機関の承認手続きを進めていく。機関承認後に、「校舎建設設計画」「学部設置認可申請」「寄附行為変更認可申請」等の準備を進めていく。</p>

	また、既存学部の改編等については、2018年度から検討する予定である。
--	-------------------------------------

広島国際大学:1件

No.1 広島国際大学2017年度大学改革事業 [学長室企画課]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <p>本学は、2016年度に「広島国際大学将来構想」を策定した。この将来構想に基づき、新たな教育体系・教育体制の構築やそれに対応したキャンパス整備、組織体制の見直し等の改革を行っている。2017年度は、将来構想に基づく大学改革を教職協働で推し進め、本学が持続的な発展を遂げるための基盤を構築する。</p> <p>『実施計画』</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>これからの時代に求められる健康・医療・福祉人材の育成に向けた特色ある教育・研究プログラムを策定することにより、オンラインの教育・研究を展開するための基盤を構築する。</p> <p>(1) 新たな教育体系の導入に向けた基盤の構築 (2) 学部・学科横断型教育プログラム(地域課題解決型)の構築 (3) 社会人の学び直しに対応した教育プログラムの構築および学びやすい環境の整備</p> <p>[2] キャンパス整備</p> <p>学生だけでなく、多様な人々の交流・学びの場となるキャンパス(ユニバーサルキャンパス構想)の実現に向けた整備を実施する。</p> <p>(1) 東広島キャンパス整備構想の策定 (2) 呉キャンパス整備計画に基づく整備工事の実施 (3) 広島キャンパス移転に向けた準備 (4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進</p> <p>[3] 組織体制の見直し</p> <p>実践的で質の高い教育を実現するための組織体制を検討する。</p> <p>(1) 教育改革と連動した学部・大学院改組の検討および2018年度公認心理師養成課程の設置に向けた準備 (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用方法の検討</p> <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) ①学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教育プログラムの策定 ②これからの時代に求められる「専門職業人」を養成するための新たな教育プログラムの策定 ③ICTの活用によるディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化</p> <p>(2) 地域貢献・地域問題の解決を行うため、ボランティア実習への参加等、地域をはじめとする関係者と協働した教育プログラムの策定</p> <p>(3) ①卒後教育にかかる各学科・専攻の現状把握および全学的な取り組みに向けたプログラムの策定 ②分野横断型教育を視野に入れた社会人の学び直しプログラムの策定</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) 本学の学生が必修で受講するスタンダード科目だけでなく、学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教育プログラムとして、オプション科目を設定した。また、2020年度から全学部で正課として導入される専門職連携教育(IPE)において、新たな学内演習のシナリオ事例を担当教員と検討し8件増やした。 ディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化については、学修評価システム「ディプロマ・サブリメント」における科目毎のディプロマウエイトを設定し、ディプロマチャート(ディプロマ達成度の図)の出力を行った。</p> <p>(2) 学部・学科横断型教育プログラムの策定について、医療福祉学部、心理学部、医療経営学部を中心とした試行プログラムを策定し、2018年度より正課外で試行実施することとした。</p> <p>(3) ホームカミングデー(卒後教育研修会)において、アンケートを行ったことで、卒後教育ならびに社会人の学び直しについてのニーズを把握した。 また、遠隔講義を可能とする「みらいの教室」の整備を行った。</p> <p>[2] キャンパス整備</p> <p>(1) 東広島キャンパス整備構想を策定し、基本設計に向けた諸条件をまとめた。</p> <p>(2) 教育会館(仮称)新築にかかる基本設計・実施設計を完了させた。8・9号館跡地整備については、学生や教職員、地域住民がより愛着を持てるよう、複数年かけて協働で整備するよう計画を見直し、検討する団体を立ち上げた。</p> <p>(3) 移転に係る課題を抽出したこと、対処すべき事項を明確化した。</p> <p>(4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進を図る施策のひとつとして、8・9号館跡地を「みんなの庭園(バラ園)」として整備することとし、学生、教職員、地域住民で整備計画を検討する団体を立ち上げた。</p> <p>[3] 組織体制の見直し</p> <p>(1) 2020年度学部・大学院の改組・改革案について、学部長会議を経て、10月25日開催の理事会において承認を得た。文部科学省等への必要な申請手続きに向けて、計画どおり準備を進めている。 公認心理師教育課程の設置については、カリキュラム等を策定し、2018年3月をもって文部科学省および厚生労働省への申請手続きを完遂した。</p> <p>(2) 本学医療栄養学部による食育活動をOIT梅田タワー「菜の花食堂」で展開することで、本学の教育成果を学園ならびに地域の方へ広く認知することにつなげた。また、学園内連携による教育・研究の充実に向け、OIT梅田タワーの教室と相互接続可能な遠隔講義システム「みらいの教室」を東広島キャンパスおよび呉キャンパスに整備した。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) 学生の志向・習熟度に応じたテーラーメイド教育を目指した教</p>

<p>[2] キャンパス整備</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 東広島キャンパス整備構想に基づいた設計の諸条件の確定 (2) 呉キャンパスにおける教育会館(仮称)の設計完了および8・9号館跡地整備工事の竣工 (3) 医療経営学部、心理科学研究科実践臨床心理学専攻、心理臨床センターの移転計画の策定 (4) 学部・キャンパス間、地域との交流促進に向けた施策の実施 <p>[3] 組織体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ①教育改革と連動した学部・大学院改組計画の策定 ②公認心理師養成課程の設置に向けた文部科学省や関係機関への申請手続きの完遂 (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用計画の策定 	<p>育プログラムとして、スタンダード科目だけでなく、オプション科目を設定したことでのきめ細やかな教育が行える環境整備を進めた。具体的には、2016年度から導入している新カリキュラムの検証を目的に、全学部の1年次生に対しアンケートを実施し、その結果の検証を踏まえ、教育改革WSを中心に2018年度から順次導入する新カリキュラムについて、スタンダード科目およびオプション科目のシラバス案を作成した。また、専門職連携教育(IPE)の2020年度全学導入にむけて、新たな学内演習のシナリオ事例を担当教員と検討し増やすなど、継続して全学導入に向けた準備を進めた。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに関する学生の学修成果の収集・整理・可視化については、学修評価システム「ディプロマ・サブリメント」における科目毎のディプロマウエイトの設定を行った。</p> <p>(2) 学部・学科横断型教育プログラムの策定について、2018年度より医療福祉学部、心理学部、医療経営学部において正課外で試行実施することとし、学部横断プログラム検討WGにおいてプログラムを策定した。</p> <p>また、2020年度から、正課として学部・学科横断型教育プログラムを導入する方針を固めた。</p> <p>(3) 卒後教育の全学的な実施に向けた教育プログラムを策定するため、ホームカミングデー(卒後教育研修会)において、卒後教育についてのアンケートを実施し、卒業生の要望等学び直し教育に必要な情報収集を行った。また、東広島キャンパスLL教室、呉キャンパスLL教室1で遠隔講義を可能とする「みらいの教室」の整備を行い、社会人の学び直しにおいても他キャンパスから受講が可能な環境を整備した。</p> <p>[2] キャンパス整備</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 東広島キャンパス整備構想として、陸上競技場等整備、健康増進センター(仮称)新築、1・2号館前および1号館エントランス整備計画を策定し、基本設計に向けた設計諸条件をまとめた。また、テニスコート付近の駐車場設置工事を計画し、当工事を竣工した。 (2) 教育会館(仮称)新築にかかる基本設計・実施設計について、教育会館(仮称)整備WGでの検討を経て内容を確定させた。また、8・9号館跡地整備にかかるコンセプトを「みんなの庭園(バラ園)」とし、学生や教職員、地域住民がより愛着を持てるよう、複数年かけて協働で整備するよう計画を見直したうえ、検討団体として「くれローズクラブ(仮称)」を立ち上げた。さらに、体育館雨漏れ補修工事および床張替え工事を竣工し、また、クラブハウス新築にかかる基本設計・実施設計を完了した。 (3) 2020年度から2キャンパス体制へスマーズに移行するために、広島キャンパス移転に係る課題を抽出し、対応案と全体スケジュールを策定した。 <p>また、東広島キャンパスの受け入れ体制を整えるため、教室や研究室等の移転場所のシミュレーションを行った。</p> (4) 学生・教職員が学部やキャンパスの垣根を越え、また地域の多様な人々と活発に連携・交流できる環境をつくることをキャンパス整備構想のコンセプトに掲げ、共同利用を想定した部室や、障がい者・高齢者の利用を想定したバリアフリー等を設計ならびに諸条件に反映させた。また、8・9号館跡地について、「みんなの庭園(バラ園)」として整備することとし、学生、教職員、地域住民で整備計画を検討する団体を立ち上げた。 <p>[3] 組織体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 広国ブランド「地域の健康を守り、健康寿命を延伸する健康・医療・福祉分野の総合大学」確立に向けて、2020年度学部・大学院の改組・改革案を、外部環境・内部環境を踏まえHIU教育改革プロジェクトにおいて策定し、学部長会議を経て、経営会議、理事会において承認された。これを受け、2020年度学部・大学院の改組・改革計画に基づき、関係部署・教員と連携して、新設・改組を行う学科のカリキュラム編成および、教育研究上の目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの策定を行い、文部科学省等への必要な申請手続
--	---

きの準備を進めている。

また、2018年度に心理学部心理学科および大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻に公認心理師教育課程を設置することとし、カリキュラムの策定や学則等規定改正を行い、文部科学省ならびに厚生労働省へ申請書を提出した。

- (2) 教育・研究の推進を目的としたOIT梅田タワーの活用計画のひとつとして、本学医療栄養学部による食育活動をOIT梅田タワー「菜の花食堂」で展開した。具体的には、本学医療栄養学部が常翔ウェルフェアと協働し、当該学部の学生が考案した栄養バランスのとれたレシピをOIT梅田タワー「菜の花食堂」において、季節毎にランチメニューとして提供し、提供したメニューは、レシピカードにして食堂内に設置することで、本学の教育成果を学園ならびに地域の方へも発信した。

また、学園内連携による教育・研究の充実を目的として、大阪工業大学ロボティクス＆デザイン工学部と意見交換を行うとともに、OIT梅田タワーの教室と相互接続可能な遠隔講義システム「みらいの教室」を東広島キャンパスおよび呉キャンパスに整備し、教育・研究の連携手段とした。

3. その他

【今後の計画】

[1] 教育改革

- (1) 2020年度から全学必修となる専門職連携教育(IPE)において、Step1～4まで段階的にどのように学修し、それぞれの到達点がどこなのかを明確にする。また、ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果を収集・整理・可視化するため、正課科目に関しては、各学科のディプロマウエイトの数値調整を進め、ディプロマチャートを完成させるとともに、正課外の活動の評価についても「ディプロマ・サブリメント」への反映を進める。
- (2) 2018年度の正課外での試行実施に向け、WGで実施準備を行う。また、2020年度から、正課導入するプログラムについては、学部・学科と協議の上、内容の具体化、履修方法、制度の策定を行う。
- (3) 卒後教育について、各学科の卒後教育の実施状況およびホームカミングデー(卒後教育研修会)でのアンケートの結果から、ニーズを抽出し、全学的な実施に向けた教育プログラムを策定する。なお、2017年度末に竣工した「みらいの教室」の活用も含め検討を進める。

[2] キャンパス整備

- (1) 東広島キャンパス整備構想について、2018年度中に1・2号館前および1号館エントランス整備ならびに陸上競技場等整備を竣工させ、また、健康増進センター(仮称)およびスポーツ施設整備事業における管理棟新築・外構フェンス設置にかかる設計を完了させる。
- (2) 呉キャンパス整備構想について、2018年度中に教育会館(仮称)およびクラブハウスならびに体育館におけるトイレ等改修を竣工させ、また、教育会館(仮称)外構および出入口新設にかかる設計を完了させる。また、8・9号館跡地整備について、くれローズクラブ(仮称)にてプランを検討のうえ設計を進め、地域に根付き、愛着の持てる庭園(バラ園)の整備を進める。
- (3) 課題に対する対応案について、関係部署を交えて協議し対応内容と手段を固める。これらは、学内で共有し、スケジュールに基づき隨時実行する。
- また、東広島キャンパスでの移転先について継続して検討を進め、移転場所を確定させる。
- (4) 多様な人々の交流・学びを促進するための設計、諸条件、取組みについて、各整備箇所を具体化していく中で引き続き検討していく。

[3] 組織体制の見直し

- (1) 2020年度学部・大学院の改組・改革計画に基づき、関係部署・教員と連携して、文部科学省等へ必要な申請手続きを行う準備

	<p>を進める。また、新学部・学科の学生募集に向けて、具体的な広報手段・時期について入試センターと協議し開始する。</p> <p>(2) OIT梅田タワー「菜の花食堂」での本学医療栄養学部による食育活動は、今後も継続して実施することで、教育成果を広く発信する。学園内連携による教育・研究については、引き続き、大阪工業大学ロボティクス＆デザイン工学部と連携方法等を協議する。</p>
--	--

常翔学園中学校・高等学校：2件

No.1 探究授業の拡大とSSH(SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL)指定校(申請中)としての取組 [高校教頭]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <p>現在、我が国は大学教育・高校教育・大学入試の三位一体の教育改革を断行しているが、本校は10年以上にわたり、キャリア教育を通じて、アクティブ・ラーニングを行ってきたという歴史に加えて、理系教育について長年取組んできたという自負がある。これを契機に、現在薬学医療系進学コースのみで実施している自然科学分野の探究授業「ガリレオプラン」を発展させ、スーパーコース・一貫コースⅠ類においても導入する。新しい「ガリレオプラン」では、タブレットなどのICT機器を活用する。また、学園内外の大学との新しい連携システムを構築し、大学の研究室訪問や海外の学生との交流を行うことにより、「科学を探究する力」と「21世紀型スキル」を育成していく。これにより、本校は「進学校」から「教育研究開発校」へと進化し、既に導入しているICT教育と共に、新しい教育の在り方を追求し、SSH指定校としての環境をより整えていく。さらに、これらの効果は、補助金の獲得や他のSSH指定校との連携事業だけではなく、広報へと繋げる手段としても活用する。</p> <p>『実施計画』</p> <p>2017年度(1年生「ガリレオプランⅠ」、2年生「ガリレオプランⅡ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①科学探究プログラム「ガリレオプラン」の指導法・教材の研究開発 <ul style="list-style-type: none"> ・本校教員とTAの連携による実験技術指導 ・タブレットなどのICT機器・デジタル教材等を活用した授業法の研究 ・大学・研究所等との連携、高大接続の在り方の研究 ②各大学との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・高大接続の推進 ・学園内大学の研究室訪問 ・2年生を対象にした夏期研究合宿 ・サイエンス・レクチャーの実施 ・タブレットを利用した海外の学生との交流 ・ネイティブ教員との英会話授業 ・英語による論文作成やプレゼンテーションの取組 ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取組 ③成果発表(英語発表含む) <ul style="list-style-type: none"> ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会への参加 ・校内発表会の開催 <p>● 2017年1月現在、SSH指定校を文部科学省へ申請中であるが、2017年度に採択されなかった場合は、</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>実施計画に基づいて、各種施策を実施した。ガリレオプラン拡充の1年目で様々な苦労があったが、当初想定よりも生徒たちの探究授業への理解は深まった。おかげで、SSHの申請書類は昨年度よりも完成度が高いものを提出することができたと自負している。このように、本校の取り組み自体は大変先進的なものであり、これまでの本校の教育を大きく変える原動力となりうるものであり、さらなる発展が期待できる。しかし、SSHの申請結果そのものは不採択となつたため、「概ね達成」とした。</p> <p>2. 実施した施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校教員とTAの連携による実験技術指導 確保できたTAは3名のみであった(定員8名)。 ・タブレットなどのICT機器・デジタル教材等を活用した授業法の研究生徒貸与用のiPadをフル活用することができた。 ・大学・研究所等との連携、高大接続の在り方の研究 学園内大学については、連携教育推進委員会を通して、ガリレオプランの各種ゼミがいずれの大学のどういった学部と連携するのかを決める事ができた。また、学園外大学については、広島大学や立命館大学を訪問した。 ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会へ参加 科学部による「科学の甲子園」参加において、見事5位に入賞した。化学ゼミは10月に名古屋で開催された「化学グランドコンテスト」に参加した。また、化学ゼミ、生物ゼミは12月にリバネス主催の「サイエンスキャッスル」に参加し、1チームが「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・校内発表会の開催 文化祭でのポスター発表は実施済み。また、ガリレオプラン年間の集大成である校内発表会を、2月3日に開催し成功した。 ・2017年12月に2018年度SSH指定校を文部科学省へ申請したが、残念ながら不採択であった。 <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>次年度は以下のものを実施する旨、検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校2年生の希望者を対象にした英語エンパワーメントプログラム(留学生を招き、5日間本校で英語を通して論理的思考力、クリティカルシンキング、英語コミュニケーション能力を養うプログラム。生徒5人に1人の留学生は生徒自宅にホームステイし、日本に居ながらにして留学環境を作る。) ・サイエンス・フェア(高校3年生の英語ポスター発表、著名な企業人・科学者の講義などのイベント)の実施 ・タブレットを利用した海外の学生との交流 ・ネイティブ教員との英会話授業 ・英語による論文作成やプレゼンテーションの取組 ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取組

<p>2018年度の採択を目指す。</p> <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 補助金の獲得 ② 他のSSH指定校との連携事業の実施 ③ 期待される効果 <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の補助金獲得、また理系ブランド校としての認知により優秀な生徒獲得につながる。 ・「理系進学者の減少、特に女子の減少」をくい止め、我が国の理系教育・科学立国に貢献する。 ・他校だけでなく、本学園の学校間の連携もより強化される。 ・大学との連携により、生徒が進路や将来について考えるきっかけになる。 ・生徒の「課題設定能力・科学的探究心」の育成に繋がる。 ・他校生、特に海外の生徒との交流を通じてコミュニケーション能力やグローバルマインドの育成に繋がる。 	
---	--

No.2 タブレット端末を活用したICT教育の積極的推進 [高校教頭、事務室]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>2016年度に予定通り全館Wi-Fi化工事を完了し、専任・特任全教員用のタブレット端末を購入、授業に役立てている。また生徒用の100台を購入し授業中に貸し出すことで、教師からの一方通行ではなく、生徒との相互通信が可能なICTの教育で利活用が始まった。</p> <p>2017年度入学生からは、新入生全員がタブレット端末を持参して授業で活用する。アクティブ・ラーニングへの移行と共に、新しい教育の在り方を追求する。現時点では教室に設置しているプロジェクターは中学校の3教室のみで、他の教室は教員が毎時間プロジェクターを運ぶ必要があるため、早急に全教室にプロジェクターを設置する。</p> <p>《実施計画》</p> <p>私立高等学校等IT教育設備整備推進事業費（補助金）申請：4月 教室設置プロジェクター20台設置工事：9月 研修会 毎週金曜日18時実施、講演会を年2回実施予定</p> <p>ICT公開授業を開催し、他校の教員に公開し講評を頂いて授業改善に役立てる。また、講演会、懇親会も開催し、同じくICT教育を実践している他校との連携・友好を広める。</p> <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>ICT教育推進プロジェクト会議報告書の作成及び校務会報告 生徒、保護者の満足度アンケート等の結果</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>大変順調に進んでいる。単にタブレットを使用するだけでなく、タブレットの使用により、また他校先生方との交流や研究会参加により、常翔の教育が大きく変化しているのを誰もが感じている。特に公開授業の開催は、本校の歴史にとって本当に大きな1ページとなった。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>全教員がタブレットを所持し、ICTを利用した授業や業務改善に取り組んだ。また、中学・高校のすべての新入生がタブレットを購入し、教員と生徒の両者がタブレットを利用した授業を実践研究した。</p> <p>11月にはICT公開授業を実施し、全国から200名もの参加者を集める事ができた。そこでは、本校教員だけでなく外部の方々にも授業を見学して頂き、その後の教科別研究協議会にて活発な意見交換を行った。また3名の講師を招聘した教育講演会、その後の懇親会も大変盛り上がり、今後の我が国の教育について参加者全員で協議する良い機会となつた。</p> <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <p>2018年度は中高6学年中の4学年がタブレットを利用した授業を実施することになり、ICT教育がより進捗するだけでなく、アクティブ・ラーニングやグローバル教育も含め、授業はもとより教育そのものを改善していく。学校全体の2018年度ICT教育目標を「ICTと授業デザイン、ループリック（仮題）」として1年間取り組む。</p> <p>また、今のところHR教室のプロジェクターが1学年分しか設置されておらず、今後補助金等を活用しながら早急に全HR教室に設置するよう整備していきたい。</p>

常翔啓光学園中学校・高等学校:2件

No.1 情報端末を活用したICT教育推進事業 [教頭、教務部、事務室]

事業計画の目的、計画など	実績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <p>2016年度の事業計画内容を、さらに推進・発展させることを目標とする。</p> <p>「2010年代中に1人1台の情報端末による教育」を推進するなど、タブレット等の情報端末を活用した教育の推進が日本の新しい教育制度の大命題となっている。公立の小・中学校でこの教育を受けてきた生徒を受け入れるためにも、本校のICT教育推進は必要不可欠なものである。</p> <p>また大学入試センター試験に代わる新テストでは、出題・解答・結果提供方式においてCBT-IRTを導入する方向で検討されている。この状況から考えても、各教科でも情報端末を有効利用した教育の推進が求められている。</p> <p>2015年度中の導入計画と検証を経て、2016年度には教室等の施設改修ならびに本格システム導入を行い、中学全学年と高校1年生での試行授業も順調に始まった。2017年度にはさらに多くの学年への拡大を目指し、施設改修とICT機器の活用頻度を増やす。教員を対象としてタブレット等の情報端末を1人1台配付し、ICTを活用した授業展開を推進する。生徒を対象として情報端末を貸与し、自ら探究し思考する能力の育成を図る。</p> <p>『実施計画』</p> <p>2015・2016年度中に実施済みの内容は以下の通りであり、これらの検証結果を基に2017年度の事業を推進する。</p> <p>(2015年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICT教育推進WG」を発足(2015年10月) 構成員:教職員から選抜(校務の一環として実施) 期間:2015年10月～2017年3月(予定) ・ICT教育実践校の視察(2015年9月～2016年3月) 目的:ICT教育実践校の視察、情報収集。ICTを活用した学習サポートパッケージの選定。 ・本校施設設備改修工事 校内手続および工事完成:第1次(教職員用)手続き2015年11月、完成2016年3月 <p>(2016年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校施設設備改修工事 校内手続および工事完成:第2次(生徒用)手続き2016年5月、完成2016年9月 ※教室など生徒用部分については大阪府の補助金対象事業として実施。 ・ICT教育実践校の視察および研修への参加(2016年4月～2017年3月) 目的:ICT教育実践校の視察および情報収集。ICTを活用した学習に関する研修会・講習会への参加。 ・2017年度当初予算への組込 <p>(2017年度 実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校施設設備改修工事 校内手續および工事完成:第3次(生徒用)手続き2017年5月、完成2017年12月(予定) ※教室など生徒用部分については大阪府の補助金対象事業として実施する。 ・ICT教育実践校の視察および研修への参加(2017年4月～2018年3月) 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>計画どおりに進んだ。職員会議でも成果発表を実施したが、ICT機器を活用した授業を展開することにより、授業進度が早まり、演習の時間や繰り返しの学習が展開できているという声が多い。他校の授業方法の研究や互いの授業見学を基に自己研鑽の機会が増えている。全国的に教育改革が進んでいる中、本校においてもその意識が芽生え、積極的に取り組む風土ができた。</p> <p>2. 實施した施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの購入と授業などの活用 2017年4月当初から、教員1人1台のタブレット貸与ができた。昨年から始まったICT機器を活用した授業に広がりがみられ、特に中学1年生と高校1年生での授業方法に大きな変化がみられた。 ・本校施設設備改修工事 教室など生徒使用部分について、大阪府の補助金対象事業として、夏期休業期間中に実施した。昨年度中に1号館すべての教室においてWi-Fi環境が整備されたが、高2学年全クラスと高3学年の一部のクラスが使用する教室にも、電子黒板機能付きプロジェクタが設置できた。タブレットなどICT機器を活用しての本格的な授業展開が拡大した。 ・デジタル教科書の購入とそれを活用した授業 デジタル教科書と電子黒板機能付きプロジェクタを活用することにより、いわゆる”Chalk & Talk”と異なる21世紀型授業の展開が広まった。 ・タブレットを活用した授業の拡大 2017年4月当初から、教員1人1台のタブレット貸与ができた。昨年から始まったICT機器を活用した授業では既に半数以上の授業でICT化が進み、特に中学1年生と高校1年生での授業方法に大きな変化がみられる。 <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校施設設備改修工事 来年度は、1号館内の施設未着工教室に電子黒板機能付きプロジェクタを設置する。 ・中学1年生のモデルクラスでの取り組み 生徒貸与用タブレットの一部を、中学1年生に優先的に使用させた。各授業で積極的に活用し、自ら学び、調べ、そして発表するという一連の活動ができる生徒の育成に取り組めた。一方、ネットワークのつながりや生徒自身の慣れの部分での差があるなどの改善点も見えた。今後、引き続き取り組んでいく。 ・生徒貸与用タブレットのさらなる活用 タブレット1人1台持たせることの検討は引き続き行うが、今年度購入できた生徒貸与用のタブレットの活用が拡がった。今後新たな計画としては、高3学年での「総合的な学習の時間」にタブレットを使い、「On Line 英会話」に取り組み、英語をツールとして使える生徒の育成を図る。

<p>目的:ICT教育実践校の視察および情報収集。 ICTを活用した学習に関する研修会・講習会への参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象情報端末貸与 目的:ICTを活用した授業への対応 ※生徒貸与分については大阪府の補助金対象事業として実施する。 ・2018年度当初予算への組込 <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICT教育システムの導入による授業内容の改善、生徒の勉学意識の変革、課題解決型授業への展開、新大学入試制度への対応、校内の情報環境の整備。 2. 能動授業、協働学習、反転授業、適応学習、探求型学習など新しい学習体系に向けての活用。 	
---	--

No.2 60周年記念フェスティバル 【教頭、事務室】

事業計画の目的、計画など	実 績
<p>【必要性・目的、実施計画等】</p> <p>『必要性・目的』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校60周年記念行事として、従来の周年行事のような堅苦しさを廃し、在校生とその保護者・卒業生・学園関係者を招いてフェスティバルを行う。 ・教職員・在校生・卒業生の帰属意識の涵養と、本校に対する誇りと「啓光愛」を育むことを目的とする。 ・四位一体の行事として楽しめるものとする。 <p>『実施計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年10月29日（日）10:00～14:00 本校にて、記念式典、吹奏楽部・軽音楽部・OBジャズバンドの演奏、60年の歴史のパネル展示、サッカーチームの招待試合、ラグビーOB戦、ワンダーランドによるクライミング披露、60年史の映像披露、記念行事として生徒の夢を叶える企画、模擬店などを行う。また食堂では1杯100円カレーを提供する。 ・60周年記念オリジナルグッズを配布する。 ・スタッフを含む来場者総数1,000名を予定。 <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフを含む来場者予定総数1,000名の達成。 (在校生300名、後援会(保護者)・啓聖会・来賓400名、その他教職員・吹奏楽部等のクラブ員300名) 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>台風接近に伴い、長期間にわたる計画のもと準備してきた内容が、大きく変更せざるを得なくなり、本当に残念であった。本校に直接かかわりをもつ方だけでなく、このために協力をしていただく方にまで影響が及んだことも残念であった。しかし、生徒を中心となる特別企画や、3号館の完成とも相まって実施できた音楽イベントなどは、心温まるものであった。また、卒業生から寄贈の記念碑が完成し、除幕式を経て披露できたことも、たいへん喜ばしいことである。計画とは大きく変わってしまったが、教職員・在校生・卒業生の帰属意識の涵養と、本校に対する誇りと「啓光愛」を育むという目的は果たせた。</p> <p>2. 実施した施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60周年記念フェスティバル(計画) クライミング選手権・60周年記念式典・60年の歴史展示会・記念碑除幕式・音楽演奏会・ラグビー部OB戦・ミニSL運行・模擬店 ・60周年記念フェスティバル(実施) ※台風の接近により、計画を変更し実施 60周年記念式典・パネル展示「60年の歩み」・記念碑除幕式・コーラス体験「校歌を歌おう！」・ICT授業体験・音楽演奏会・SL模型展示・ラグビー部OB「トークイベント」・顕微鏡体験・クライミングと登山紹介・中学校新コース紹介・模擬店 ・60周年記念誌およびオリジナルグッズの配付 ・来場者集計 台風の接近により、計画を大きく変更して実施。大雨の影響で屋外イベントが実施できず、来場者総数は予定していた1,000名には至らなかつたが、在校生、後援会(保護者)・啓聖会・来賓など、約500名が来場し大盛況であった。 <p>3. その他</p> <p>【今後の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60周年記念誌およびオリジナルグッズの配付 台風の接近により、当日になり参加を取りやめる卒業生や旧教職員が多数おられたので、式典会場で渡す予定にしていた記念誌やオリジナルグッズを、郵送などの方法でお届けした。

3. 各学校の組織の改編

(1) 新設・改組等変更

※ 学部等名称末尾の()内は入学定員を、[]内は3年次編入学定員を示す。(単位:人)

■ 大阪工業大学

1. 研究科・学部等設置 [2017年度開設]

・大学院

大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻	博士前期課程 (30) 博士後期課程 (2)
電気電子・機械工学専攻	博士前期課程 (50) 博士後期課程 (2)
化学・環境・生命工学専攻	博士前期課程 (30) 博士後期課程 (2)

[本件にかかる手続] 設置届出 (2016年4月提出) ※研究科の専攻設置

大学院 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻	博士前期課程 (30) 博士後期課程 (2)
--------------------------------------	----------------------------

[本件にかかる手続] 設置届出 (2016年4月提出) ※研究科設置

・学部

ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科	(90) [5]
システムデザイン工学科	(90) [5]
空間デザイン学科	(100) [5]

[本件にかかる手続] 設置届出 (2016年4月提出)

2. 入学定員変更 [2017年度変更]

・学部

工学部 都市デザイン工学科	+10 (90→100) ±0 [5]
建築学科	+10 (140→150) ±0 [5]
機械工学科	+10 (130→140) ±0 [5]
電気電子システム工学科	+10 (115→125) ±0 [5]
電子情報通信工学科	+10 (100→110) ±0 [5]
応用化学科	+10 (120→130) ±0 [5]
環境工学科	+ 5 (70→ 75) ±0 [5]
生命工学科	+ 5 (65→ 70) ±0 [5]
情報科学部 コンピュータ科学科	+10 (95→105) ±0 [5]
情報システム学科	+10 (95→105) ±0 [5]
情報メディア学科	+10 (95→105) ±0 [5]
情報ネットワーク学科	+10 (95→105) ±0 [5]

[本件にかかる手続] 収容定員関係学則変更認可申請 (2016年3月提出)

3. 学生募集停止 [2017年度募集停止]

・大学院

工学研究科 都市デザイン工学専攻	博士前期課程 (15) 博士後期課程 (3)
環境工学専攻	博士前期課程 (10) 博士後期課程 (3)
建築学専攻	博士前期課程 (15) 博士後期課程 (3)
機械工学専攻	博士前期課程 (25) 博士後期課程 (5)
生体医工学専攻	博士前期課程 (20) 博士後期課程 (4)
電気電子工学専攻	博士前期課程 (25) 博士後期課程 (3)
応用化学専攻	博士前期課程 (15) 博士後期課程 (3)
空間デザイン学専攻	博士前期課程 (10) 博士後期課程 (3)

※在学生の修了等を待って廃止予定。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年4月提出） 学則変更届出（2016年3月提出）

・学部

工学部 空間デザイン学科（90）〔5〕

ロボット工学科（80）〔5〕

※3年次編入学募集停止は2019年4月予定。

※在学生の卒業等を待って廃止予定。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年4月提出） 学則変更届出（2016年3月提出）

4. 廃止 [2017年度廃止]

・大学院

工学研究科 都市デザイン工学専攻 博士前期課程（15）<2017年度から学生募集停止>

環境工学専攻 博士前期課程（10）<>

博士後期課程（3）<>

建築学専攻 博士後期課程（3）<>

機械工学専攻 博士前期課程（25）<>

電気電子工学専攻 博士前期課程（25）<>

応用化学専攻 博士前期課程（15）<>

空間デザイン学専攻 博士前期課程（10）<>

博士後期課程（3）<>

〔本件にかかる手続〕 学則変更届出（2018年3月提出）

・学部

工学部 生体医工学科（110）〔5〕<2010年度から学生募集停止>

〔本件にかかる手続〕 学則変更届出（2017年12月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

■ 摂南大学

なし

■ 広島国際大学

1. 学生募集停止 [2017年度募集停止]

・大学院

工学研究科 建築・環境学専攻 修士課程（5）

情報通信学専攻 修士課程（5）

※在学生の卒業等を待って廃止。

〔本件にかかる手続〕 学生募集停止報告（2016年8月提出） 学則変更届出（2016年11月提出）

2. 廃止 [2017年度廃止]

・大学院

工学研究科 建築・環境学専攻 修士課程（5）<2017年度から学生募集停止>

情報通信学専攻 修士課程（5）<>

※工学研究科を廃止。

〔本件にかかる手続〕 廃止届出（2018年3月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

・学部

工学部 情報通信学科（70）<2013年度から学生募集停止>

※工学部を廃止。

〔本件にかかる手續〕 廃止届出（2018年3月提出） 寄附行為変更届出（2018年3月提出）

■ 常翔学園高等学校

なし

■ 常翔啓光学園高等学校

なし

(2) 申請・届出等

■ 大阪工業大学

1. 廃止手続

・大学院

学則変更届出（2018年3月提出）

工学研究科 都市デザイン工学専攻	博士前期課程 (15)	<2017年度から学生募集停止>
環境工学専攻	博士前期課程 (10)	< >
	博士後期課程 (3)	< >
建築学専攻	博士後期課程 (3)	< >
機械工学専攻	博士前期課程 (25)	< >
電気電子工学専攻	博士前期課程 (25)	< >
応用化学専攻	博士前期課程 (15)	< >
空間デザイン学専攻	博士前期課程 (10)	< >
	博士後期課程 (3)	< >

・学部

学則変更届出（2017年12月提出）

工学部 生体医工学科 (110) [5] <2010年度から学生募集停止>

■ 摂南大学

なし

■ 広島国際大学

1. 廃止手続

・大学院

廃止届出（2018年3月提出）

寄附行為変更届出（2018年3月提出）

工学研究科 建築・環境学専攻 修士課程 (5) <2017年度から学生募集停止>
情報通信学専攻 修士課程 (5) < >

※工学研究科を廃止。

・学部

廃止届出（2018年3月提出）

工学部 情報通信学科 (70) <2013年度から学生募集停止>

※工学部を廃止。

■ 常翔学園高等学校

なし

■ 常翔啓光学園高等学校

なし

(3) 年次進行中（未完成）の学部等

大学名称	申請学部等	申請区分	開設年度
大阪工業大学	大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻(M) (D) 電気電子・機械工学専攻(M) (D) 化学・環境・生命工学専攻(M) (D)	届出	2017
	大学院 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻	届出	2017
	ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科	届出	2017
摂南大学	大学院 理工学研究科 生命科学専攻(D) 大学院 看護研究科 看護学専攻(M)	認可	2016
広島国際大学	医療栄養学部 医療栄養学科 心理学部 心理学科	認可	2014
		届出	2015

4. 各部門の事業報告

■ 大阪工業大学

2017年 3月～2018年 3月

学内合同企業説明会(大阪府雇用開発協会、兵庫県雇用開発協会、大阪工業大学校友会、学園校友課等と連携)、企業の単独説明会を実施。〈就職課〉

2017年 4月～2018年 3月

NEDOからの委託研究調査(「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、产学連携等の総合的展開／ロボットの社会実装におけるイノベーション創出人材の育成」)を行い、ロボットサービスビジネススクールを開催。
〈ロボティクス&デザインセンター〉

2017年 4月～2018年 3月

海外協定校からの学生92人を特別履修生として受け入れ。研究室に配属し教員の指導の下インターン・研究活動、スタディツアー等に参加。〈国際交流センター〉

2017年 5月 梅田キャンパス常翔ホールでロボティクス&デザイン工学部開設記念シンポジウムを開催。約500人が参加。

〈ロボティクス&デザイン工学部〉

2017年 5月、7月

情報科学部とロボティクス&デザイン工学部の学生・教員が協働で参加し、ロボカップ世界大会2017で世界7位・Best in Navigation賞を受賞。2017年度ロボカップジャパン@ホームリーグで準優勝。〈情報科学部〉

2017年 5月～11月

課外活動団体「RDクラブ」が産学連携プロジェクト活動実施。パートナー企業11社、コーチ教員と連携、地域や企業が抱える課題解決を図り、成果発表会を11月の茶屋町祭(学園祭)で行った。〈ロボティクス&デザインセンター〉

2017年 5月～2018年 3月

学部3年次、大学院1年次を対象に就職支援行事を実施(就職ガイダンス5回、就職模擬試験4回、面接対策セミナー2回、SPI対策セミナー、エントリーシート対策セミナー各1回、業界セミナー)。〈就職課〉

2017年 6月 「NHK学生ロボコン2017～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」にロボットプロジェクトチーム「大工大エンジニア」が参加。ベスト4位に入賞。〈工学部〉

2017年 6月～8月

国際PBLで海外7大学、国内1大学にて8プロジェクトを実施し97人を派遣。海外5協定校と6プロジェクト(うち4つはJSTさくらサイエンスプランによる支援)を実施。本学学生74人が参加、協定校学生を67人受入。〈国際交流センター〉

2017年 6月～11月

IAESTE(海外インターンシップ)によりポーランドから2人の学生を工学部環境工学科で約2ヵ月受入。本学学生1人をインドのマニパル工科大学に約1ヵ月半派遣。〈国際交流センター〉

2017年 6月～2018年 3月

大宮キャンパス再開発計画の一環として、2号館、9号館、東学舎1号館、2号館等を改修。2号館、6号館、7号館、9号館、東学舎1号館、2号館の教室などの有線・無線LAN設備を整備。6号館4階、5階は各教室のAV設備を改修。
〈会計課、教務課、情報センター〉

2017年 6月～2018年 3月

研究プランディング推進の一環として、情報科学部に「知能情報システム研究センター」を設置し、8ユニットで研究活動を開始。〈情報科学部〉

2017年 7月 保護者を対象とした教育懇談会(就職支援セミナー)を開催。255組377人の保護者が参加。〈企画課〉

2017年 7月 大宮キャンパス在学生を対象にアルバイトに関する啓発セミナーと塾講師、施工管理補助など関連企業5社による個別相談会を開催。100人超が参加。〈学生課〉

2017年 7月 梅田キャンパス常翔ホールで「安藤忠雄氏講演会」を開催。500人を超える本学学生や地域、一般市民が参加。

〈ロボティクス&デザイン工学部〉

2017年 7月～8月

梅田キャンパスでオープンキャンパスを初開催。ロボティクス&デザイン工学部の学びの内容やキャンパスの魅力を受験生や保護者、高校教員等に紹介。のべ約2,500人参加。〈入試課〉

2017年 7月～11月

大阪府教育委員会などが開催する「大阪中学生サマー・セミナー」で7講座、「教文子どもサイエンスフェア」で2講座、「おおさかものづくりコレクション」で1講座を開講。〈研究支援・社会連携センター〉

2017年 7月～2018年 2月

海外研究支援プログラムで学生29人を派遣。うち13人はJASSO海外留学支援制度による支援、1人は文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」による支援。学生は北米、欧州、アジアの大学等22機関で、1ヵ月から5ヵ月半程度の研究・インターン活動に従事。〈国際交流センター〉

2017年 8月 「inrevium杯 第17回レスキューロボットコンテスト」にロボットプロジェクトチーム「大工大エンジニア」が参加。3位入賞に加え、特別賞「消防庁長官賞」を受賞。〈工学部〉

2017年 8月 サンデー毎日8月6日増大号全国240大学実就職率ランキング卒業者数1,000人以上において、全国ランキング5位。

8年連続関西私立大学就職率No.1を達成。〈就職課〉

2017年 8月 「工作・実験フェア2017」を開催。小学生とその家族約4,800人が参加。〈工学部〉

2017年 8月～9月

学部3年次、大学院1年次のインターンシップを実施。147企業・団体に235人の学生が参加。学生参加数は過去最高。
〈就職課〉

2017年 8月～9月

- 東京ビッグサイトで開催された「イノベーション・ジャパン2017－大学見本市&ビジネスマッチング－」<主催:JST、NEDO>に9シーズを出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月～2018年 3月
語学研修プログラム、文化体験プログラムにて、海外の協定校など計6校に夏期25人、春期13人、計38人の学生を派遣。〈国際交流センター〉
- 2017年 9月～11月
「本のプレゼン」ともいえる知的書評合戦「全国大学ビブリオバトル2017」の予選会を開催。院生1人が予選会・地区決戦を勝ち抜き、首都決戦に出場。〈図書館〉
- 2017年10月 城北祭(学園祭)期間中、大宮で特別企画展「木と寄り添う建築展」を開催。建築文化研究部による模型展示でワークショップも実施。319人が来館。〈図書館〉
- 2017年10月 「第10回大阪府生徒研究発表会」(大阪府教育庁、天王寺高等学校、本学共催)、「科学の甲子園大阪府大会筆記試験」を開催。SSH指定校を中心に府内の高校など28校の生徒が一堂に会し、科学に関する研究についてオーラルセッション(口頭発表)やポスターセッションを行った。〈入試課、ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年10月 梅田キャンパスで学園祭(茶屋町祭)を初開催。約1,400人が来場。〈ロボティクス&デザイン工学部〉
- 2017年10月～12月
「nature&technology～自然と技術の共存～」をテーマに学生がブックカバー、しおり、POPをデザインし表彰する「工大ウォッチング大賞」を実施。城北祭(学園祭)等で全作品を展示。〈図書館〉
- 2017年11月 OITスタジアム(枚方キャンパス)に電光式スコアボードを設置。活動活性化に向けた環境を整備。〈学生課〉
- 2017年11月～2018年 2月
私立大学等改革総合支援事業 タイプ1「教育の質的転換」、タイプ3「産業界・他大学等との連携」に選定。〈会計課〉
- 2017年11月～2018年 3月
公募制推薦入試および一般入試(センター利用方式除く)において、理系学部の「第2(第3)志望制度」を拡充。また、理系学部を対象に「文理併願方式」を新設し、新たな志願者獲得に向けた入試制度改革を実施。〈入試課〉
- 2017年11月、2018年 3月
文部科学省から採択された私立大学研究プランディング事業「モノづくり大阪に躍動感を－地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦－」の第1回、第2回セミナーを開催。計約160人が参加。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月～2018年 3月
平成29年度「私立大学研究プランディング事業」に選定(事業名:モノづくり大阪に躍動感を－地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦-)。〈会計課〉
- 2017年12月 知的財産PR隊プロジェクトの学生チームが近畿経済産業局主催の「Ai—spec2017」に参加し優勝。〈知的財産学部〉
- 2017年12月 大学院工学研究科化学・環境・生命工学専攻の学びを広く発信することを目的に「化学・環境・生命工学連携融合公開講座」を開催。約100人が参加。〈工学部〉
- 2017年12月～2018年 1月
平成29年度「私立大学研究プランディング事業」にかかる平成29年度私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)の交付を受け、500万円以上の研究設備5点を整備。〈会計課〉
- 2018年 2月 工学部応用化学科が新たな国際交流プログラム「3カ国国際PBLプログラム」を実施。同学科3年次生2人が台湾・インドネシアの学生とともに3カ国交流プログラムに参加。〈工学部〉
- 2018年 2月 国際PBL「米国インターンシップ・プログラム」を実施し、学部生・大学院生の5人が参加。サンフランシスコシリコンバレーの企業や法律事務所で幹部からの直接レッスンなどを経験。〈知的財産学部〉
- 2018年 2月 グランフロント大阪で大学等における研究成果の展示会「イノベーションストリーム KANSAI 2018」に参加。教員17人のシーズを出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2018年 2月 平成29年度社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会に知的財産学部のチームが近畿地区代表として出場。〈知的財産学部〉

■ 摂南大学

- 2017年 4月 国際交流センター主催講演会「今さら訊けない『グローバル人材』」を実施。〈国際交流センター〉
- 2017年 4月 「摂南経済ゲストレクチャー」でくまモンが出前講座を実施。〈経済学部〉
- 2017年 5月 寝屋川市立石津小学校の社会科地域学習「わたしたちの町のようすを知ろう」に学生・教職員が協力。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 5月 東京オリンピック・パラリンピック大学連携プログラム実施報告を実施。〈企画課〉
- 2017年 5月 春の薬草見学会を開催。〈薬学部・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 5月 日本財団学生ボランティアセンターと協定を締結。〈学生課〉
- 2017年 5月 経営学部の学生が「大学は美味しい！！」フェアに出店。〈教務課・経営学部〉
- 2017年 5月～ 7月
交野市中学生理科セミナーを実施。〈理工学部・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月 理工学研究科社会開発工学専攻の大学院生が日本写真測量学会から学術講演会論文賞を授与。〈理工学部〉
- 2017年 6月 寝屋川キャンパス交流会館お別れ会を実施。〈学生課〉
- 2017年 6月 交野市子どもプラン「防災キャンプ」を実施。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月 MOBIOテーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会で理工学部教員が発表。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月 大学発「知」の見本市「イノベーション・ジャパン2017」に出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 6月 国際ワークショップ「世代間格差を巡る経済学」を開催。〈経済学部〉
- 2017年 7月～ 9月

- こどもけいざいセミナー「お金とけいざい」を実施。〈教務課・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 7月 「ゆらの助」の摂南大学への出向に伴う辞令交付式を開催。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 7月 「異文化間相互理解と不寛容除去」特別セミナーを開催。〈法学部〉
- 2017年 7月 「うみの学校」で摂大生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月 松塚区民まつりで大阪工業大学とコラボ 高齢者健康チェックを実施。〈薬学部・看護学部〉
- 2017年 8月～2018年 1月 サイエンスカフェin寝屋川(全5回)を開催。〈理工学部〉
- 2017年 8月 由良町実地体験学習を実施。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月 災害時医療活動に関する多機関合同訓練を実施。〈理工学部〉
- 2017年 8月～ 9月 学生のアイデアによる企画を梅田ロフトの売り場で実現。〈教務課〉
- 2017年 8月 災害を想定した八幡警察署の機能移転訓練を実施。〈枚方事務室〉
- 2017年 9月 ABD(アクティブ・ブック・ダイアローグ)研修会を実施。〈教務課〉
- 2017年 9月 学生が「産学連携ツーリズムセミナー」で観光ファイナンスをテーマに発表し、最優秀賞を受賞。〈経済学部〉
- 2017年 9月 All 摂南大学 Dayを開催。〈企画課〉
- 2017年 9月 摂南大学公式ホームページをリニューアル。〈企画課〉
- 2017年 9月 ATR CALL BRIX(英語学習支援システム)講習会を実施。〈情報メディアセンター〉
- 2017年10月 「国連UNHCR難民映画祭—学校パートナーズ参加イベント」を開催。〈法学部〉
- 2017年10月 吉田沙保里氏を招いて特別講演会「夢を追いかけ一見なきや掴めない夢があるー」を開催。〈企画課〉
- 2017年10月 第13回英語教育フォーラムを開催。〈外国語学部〉
- 2017年10月 摂南大学融合科学研究所研究講演会を開催。〈理工学部〉
- 2017年10月～12月 「大人のフィールドワーク」を開講。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年10月 若者のイベント「新天地inNEYAGAWA」で本学学生が委員長として活躍。〈国際交流センター〉
- 2017年10月 秋の薬草見学会を開催。〈薬学部・研究支援・社会連携センター〉
- 2017年10月 スポーツ振興センター教員が「柔道の形」で6度目の世界一を達成。〈学生課〉
- 2017年10月 紀の国大学シンポジウムを開催。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月 アクティブ・ラーニングセミナー「シアターラーニング研修会」を開催。〈教務課〉
- 2017年11月 由良町の高齢者約200人を体力測定。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月 「ビジネス・エンカレッジ・フェア2017」に出演。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月 「すさみ町枯木灘サイクリングフェア RIDE ON SUSAMI2017ー」に学生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年11月 税に関する講演会を開催。〈法学部〉
- 2017年11月 寝屋川消防署と合同防災訓練を実施。〈庶務課〉
- 2017年11月 経済学部の学生が「第13回日銀プランプリ」決勝大会で最優秀賞を受賞。〈経済学部〉
- 2017年12月 防災まちづくりワークショップを実施。〈理工学部〉
- 2017年12月 「日本語スピーチコンテスト」を開催。〈国際交流センター〉
- 2017年12月 2017年度摂南大学国際教養セミナーを開催。〈外国語学部〉
- 2018年 1月 経営学部「Entrepreneurship」特別講演会を開催。〈経営学部〉
- 2018年 1月 環境教育に関する講演会を開催。〈法学部〉
- 2018年 1月 「2017年度第41回体育会総会」を開催。〈学生課〉
- 2018年 1月 関西国際空港での由良町観光PRで摂南大学PBLチームが協働。〈教務課〉
- 2018年 2月～ 4月 「浪花の大ひな祭りー上方の雛御殿と雛道具ー」を開催。〈外国語学部〉
- 2018年 2月 「副首都・大阪」連携プロジェクトで摂大生が成果発表。〈教務課〉
- 2018年 2月 摂南大学PBLチームが由良町長を表敬訪問し、今年度の活動を報告。〈教務課・研究支援・社会連携センター〉
- 2018年 2月 「FC TIAMO枚方×摂南大学 Sports Festival 2018」を開催。〈研究支援・社会連携センター・学生課〉
- 2018年 2月 2017年度 摂南大学研究助成「Smart and Human研究助成金」成果発表会を開催。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2018年 2月 第1回全学教養教育に関するワークショップを開催。〈教務課〉
- 2018年 2月 2017年度理工学部FDフォーラムを開催。〈理工学部〉
- 2018年 2月 吹奏楽部・ラグビー部員らがボランティアに参加。陸上競技部員らランナー参加し、「寝屋川ハーフマラソン2018」を盛り上げる。〈学生課〉
- 2018年 3月 和歌山県由良町の「道の駅EXPO」出店に学生が協力。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2018年 3月 寝屋川ラグビーフェスティバルを開催。〈学生課〉
- 2018年 3月 「人工知能・IoT・ビッグデータ分野における産学連携マッチングフェア」に出演。〈研究支援・社会連携センター〉

■ 広島国際大学

- 2017年 4月 広国DAY「IPE・就業力育成プログラム共同開催講演会」を開催。〈総合教育センター〉
- 2017年 4月～2018年 3月 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)への参画。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 4月～12月 呉キャンパス3・4号館解体等工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 6月～ 9月 呉キャンパス薬草園移設工事を実施。〈営繕課〉

- 2017年 6月～2018年 2月
呉地域オープンカレッジネットワーク会議「学生の夢実現プロジェクト」助成事業採択。〈薬学部〉
- 2017年 6月～2018年 3月
東広島市版「大学連携型CCRC」基本計画の策定。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 7月 呉地域オープンカレッジネットワーク会議「公開講座」助成事業採択。〈保健医療学部〉
- 2017年 7月～8月
「子どもも向け(職業、ものづくり・科学)体験講座」を開催。〈保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部、看護学部、薬学部、医療栄養学部〉
- 2017年 7月～11月
私立大学等改革総合支援事業タイプ1「教育の質的転換」に選定。〈会計課〉
- 2017年 7月～11月
「第5回こころからの手紙コンテスト」を開催。〈入試センター〉
- 2017年 7月～2018年 3月
瀬戸内イキイキプロジェクトメンバーが瀬戸内の島で暮らす人々の「生きがい支援」と「地域活性化」を目的とした活動を実施。〈看護学部、医療栄養学部〉
- 2017年 8月 第3回学長杯争奪3キャンパス交流「広島国際大学ソフトボール大会」を開催。〈医療経営学部事務室〉
- 2017年 8月 医療・福祉・介護の人材育成を推進することを目的とし、広島県立熊野高等学校連携協定を締結。〈入試センター〉
- 2017年 8月～2017年 9月
「イノベーション・ジャパン2017～大学見本市&ビジネスマッチング～」に出展。〈研究支援・社会連携センター〉
- 2017年 8月～10月、12月
広島国際大学アジア介護・福祉教育研修センターにて日本の介護・福祉現場での指導者養成研修プログラム、指導者のための介護技術講習会プログラムを実施。〈医療福祉学部〉
- 2017年 8月～11月
東広島キャンパステニスコート付近駐車場設置等工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 8月～11月
呉キャンパス体育館 雨漏り補修工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 8月～2018年 2月
ひろしま地域食材PR促進事業を実施。〈医療栄養学部〉
- 2017年 9月 広島国際大学アジア介護・福祉教育研修センターにて短期研修プログラム(日本式介護)を実施。〈医療福祉学部〉
- 2017年 9月、10月
「2017健康サポートフェア」へブース出展およびボランティア協力学生を派遣。〈薬学部〉
- 2017年 9月～12月
株式会社イズミとお弁当(カラダ想い御膳)商品開発事業を実施。〈医療栄養学部〉
- 2017年 9月～2018年 2月
呉キャンパス体育館床張替およびライン設置工事を実施。〈営繕課〉
- 2017年 10月 広島国際大学言語聴覚健康センター開設。〈総合リハビリテーション学部〉
- 2017年 10月 広国DAY「IPE講演会」を開催。〈総合教育センター〉
- 2017年 11月 卒後教育研修会を開催。〈総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療経営学部、心理学部、薬学部〉
- 2017年 11月 「こども未来フェスタin黒瀬」へのブース出展およびボランティア協力学生を派遣。
〈総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部〉
- 2017年 11月 理学療法学専攻および言語聴覚療法学専攻において、リハビリテーション教育評価機構平成29年度認定審査を受審。〈リハビリテーション学科〉
- 2017年 11月 東広島市および広島県立黒瀬高等学校と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結。
〈医療福祉学部、入試センター〉
- 2017年 11月 「第3回東広島市福祉講演会」を開催。〈入試センター〉
- 2018年 2月 2017年度臨床心理士合格者実績100%達成。〈心理科学研究科実践臨床心理学専攻〉
- 2018年 2月 第4回学長杯争奪3キャンパス交流「広島国際大学ソフトバレーボール大会」を開催。〈医療経営学部事務室〉
- 2018年 3月 遠隔講義システムを有したアクティブラーニング教室の改修完了と使用方法にかかる説明会を開催。
〈総合教育センター〉

■ 常翔学園中学校・高等学校

- 2017年 4月 [高校] 吹奏楽部が、啓光吹奏楽部と合同で常翔ホールにてウインドコンサートを実施。
- 2017年 4月 [高校] 新入生オリエンテーション合宿を実施。
- 2017年 4月 [中学] 新入生オリエンテーション合宿を実施。
- 2017年 4月 [中学・高校] 新入生から、タブレットを用いたICT教育がスタート。
- 2017年 4月 [中学] 3年生が、全国学力・学習状況調査に参加。
- 2017年 5月 [高校] 部活動リーダー講習会を実施。
- 2017年 5月 [中学・高校] 部活動生徒対象集会を実施。
- 2017年 5月 [中学] 大阪私立中学校フェアに参加。
- 2017年 5月 [高校] 文理進学コース2年生を対象に、ヤングアメリカンズアウトリーチ(創作ミュージカル)を実施。
- 2017年 5月 [中学・高校] 校外学習(遠足)を実施。
- 2017年 5月 [高校] 薬学・医療系進学コース2年生を対象に、広島国際大学体験学習を実施。
- 2017年 5月 [中学・高校] 後援会総会を常翔ホールにて実施。

2017年 6月 [中学・高校] 公開授業(授業参観)およびクラス懇談会を実施。
2017年 7月 [中学] 全学年で芸能鑑賞を実施。
2017年 6月 [中学・高校] 保護者を対象に、広島国際大学研修旅行を実施。
2017年 6月 [中学・高校] 京セラドーム大阪で、体育祭を実施。
2017年 7月 [中学] 修学旅行を実施(沖縄方面)。
2017年 7月 [高校] 中高大連携プログラムの一環として、1年生保護者を対象に、学園内大学説明会を実施。
2017年 7月 [中学・高校] 学習塾を対象に、2018年度入試説明会を常翔ホールにて実施。
2017年 7月 [高校] 2年生を対象に、世界経済フォーラムに関係する組織の方々によるキャリア講演会を実施。
2017年 7月 [中学] イングリッシュキャンプを実施。
2017年 7月 [高校] オーストラリア語学研修を実施。
2017年 7月 [高校] フィリピン・セブ島英語研修を実施。
2017年 7月 [中学] オープンスクールを実施。
2017年 7月 [高校] 吹奏楽部が、大阪府吹奏楽部コンクール北地区大会で金賞を受賞。
2017年 8月 [高校] 水泳部・柔道部・ウェイトリフティング部が、それぞれ平成29年度全国高等学校総合体育大会に出場。
2017年 8月 [高校] 科学部員・顧問が、今市商店街主催夏祭りにブースを出展。
2017年 8月 [高校] 本校にて行われた、高大連携教育強化ワークショップに本校教員が参加。
2017年 8月 [中学] 工大の工作・実験フェア2017に参加。
2017年 8月 [中学・高校] 大阪私立学校展に参加。
2017年 8月 [高校] オープンスクールを実施。
2017年 9月 [中学・高校] 大阪880万人訓練に参加。
2017年 9月 [中学・高校] 文化祭を実施。
2017年 9月 [中学・高校] 後援会懇話会を実施。
2017年 9月 [高校] 2年生が、Osaka City Project発表会を実施。
2017年 9月 [中学] 3年生が、キャリア学習発表会を実施。
2017年10月 [中学・高校] 後援会研修旅行を実施(奈良・京都方面)。
2017年10月 [高校] 2年生を対象に、海外修学旅行を実施(オーストラリア方面)。
2017年10月 [中学] 3年生を対象に、英語スピーチコンテストを実施。
2017年10月 [高校] 有志生徒が、科学の甲子園大阪大会に参加し、5位に入賞。
2017年11月 [中学・高校] 緊急地震速報訓練を実施。
2017年11月 [中学・高校] 防災訓練を実施。
2017年11月 [中学・高校] ICT公開授業を実施。
2017年11月 [高校] 一貫コース1年生が、工大梅田キャンパスでR&D学部の体験授業に参加。
2017年12月 [中学・高校] GTECを受験(中学1年生を除く)。
2017年12月 [高校] 卒業5年目・10年目合同同窓会・常翔友好クラブ交流パーティを実施。
2017年12月 [中学・高校] 国税庁が募集した「税に関する作文」・「税についての作文」に、本校生計4名が各種表彰を受賞。
2017年12月 [高校] 旭区主催「若気の至り祭」に、ボランティアサークルの生徒が参加。
2017年12月 [中学・高校] 吹奏楽部とダンス部が、啓光中高と合同で常翔ホールにて「Joshō X'mas Concert」に参加。
2017年12月 [高校] ラグビー部が、第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場。
2018年 1月 [高校] 1年生を対象に、企業探究学習発表会を実施。
2018年 1月 [高校] 1年生・2年生を対象に、キャリアセミナーを実施。
2018年 1月 [中学・高校] オーストラリア・シドニーからカシミア校の生徒が来校。
2018年 1月 [中学・高校] 大阪私学振興大会に参加。
2018年 2月 [高校] 薬学・医療系進学コース2年生が、ガリレオプラン発表会を実施。
2018年 2月 [中学] 1年生・2年生を対象に、スキー実習を実施。
2018年 2月 [中学] 常翔啓光学園中学校と百人一首交流会を実施。
2018年 2月 [中学・高校] マラソン大会を実施。
2018年 2月 [高校] 2年生が、国際協力機構主催のエッセイコンテストで表彰される。
2018年 2月 [中学・高校] クエストカップ2018全国大会に12年連続で出場。
2018年 3月 [高校] 大阪万博誘致活動の一環として、吹奏楽部が千林商店街でのパレードを実施。
2018年 3月 [高校] 京都大学に3名の合格者を輩出(過年度生1名含む、過去最高)。
2018年 3月 [高校] 文理進学コースから初の大坂大学現役合格者を輩出。
2018年 3月 [高校] 国公立大学に延57名の合格者を輩出(過年度生3名、文部科学省所管外11名およびⅡ部1名含む)。
2018年 3月 [高校] アーチェリー部が第36回全国高等学校アーチェリー選抜大会に出場。
2018年 3月 [中学・高校] 淀川国際ハーフマラソンに本校生徒がボランティアとして多数参加。

■ 常翔啓光学園中学校・高等学校

2017年 4月 [中学] 3年生全員が、オリエンテーション合宿を実施。
2017年 4月 [高校] 1年生がアドバンスキャンプを実施。
2017年 5月 [中学・高校] 「常翔啓光クライミングウォール」オープニング式典を実施。
2017年 5月 [中学] 1年生対象に歯科講習、2年生対象に思春期教室、3年生対象にAED講習を実施。
2017年 5月 [高校] 中高大連携プログラムの一環として、1年生保護者を対象に学園内大学説明会を実施。
2017年 5月 [高校] 摂南大学の協力を得て、第1回サイエンスラボを実施。
2017年 5月 [高校] 3年生を対象に、人権映画鑑賞会を実施。

2017年 5月 [中学・高校] 近隣の小学生を対象として、サイエンス部主催の親子サイエンス教室を実施。

2017年 6月 [中学] 全学年で宿泊行事を実施。1年生大山登山、2年生阿南海洋訓練、3年生四万十川修学旅行。

2017年 6月 [高校] 体育祭を実施。

2017年 6月 [中学・高校] 後援会総会を実施。

2017年 6月 [中学・高校] 芸術鑑賞会を実施。四季劇場で、劇団四季演劇鑑賞。

2017年 6月 [中学] 摂南大学の協力を得て、薬物乱用防止教室を実施。

2017年 6月 [高校] 3年生保護者を対象に、学園内大学ガイダンスを実施。

2017年 6月 [高校] 3年生女子生徒が、体育授業の成果発表として、ダンス発表会を実施。

2017年 7月 [中学・高校] 6学年全てで、GTECを受験。

2017年 7月 [中学] 1・2年生対象に、情操教育(茶道・華道)を実施。

2017年 7月 [高校] 1年生対象に、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、高大連携模擬授業を実施。

2017年 7月 [中学] 1年生対象に、iPresence合同会社、大阪工業大学ロボティクス&デザインセンターとのコラボレーションにより、OIT梅田キャンパスでイノベーション教育を実施。

2017年 7月 [中学・高校] ワンダーフォーゲル部の協力で、親子体験クライミング教室を実施。

2017年 8月 [高校] 3年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。

2017年 8月 [高校] JT生命誌研究館の協力を得て、分子生物学的な観点からみた進化の研究を実施。

2017年 8月 [高校] ワンダーフォーゲル部が、平成29年度全国高等学校総合体育大会登山の部に、5年連続で出場。

2017年 8月 [中学] 3年生が、第57回全国中学校水泳競技大会の部に出場。

2017年 8月 [中学・高校] 「ミューズギャラリー」オープニング式典を実施。

2017年 9月 [中学・高校] 啓光祭(文化祭)を実施。

2017年 9月 [高校] 1年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。

2017年 9月 [高校] 2年生が、修学旅行を実施。海外はハワイとオーストラリア、国内は北海道と八重山諸島の4コース選択制。

2017年 9月 [中学] 体育祭を実施。

2017年10月 [中学] 全学年対象に、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、K¹クエストを実施。学年ごとに特別プログラムを組んで実施。

2017年10月 [中学] 全学年対象に、人権映画鑑賞会を実施。

2017年10月 [中学・高校] 60周年記念フェスティバルを実施。

2017年10月 [中学・高校] 後援会主催で、60周年記念後援会事業をUSJで実施。

2017年11月 [高校] 1年生対象に、摂南大学の留学生と異文化交流会を実施。

2017年11月 [中学・高校] 防災訓練を実施。

2017年12月 [中学] 1・2年生対象に、情操教育(茶道・華道)を実施。

2017年12月 [高校] 1・2年生が、人権映画鑑賞会を実施。

2017年12月 [中学・高校] GTECを受験(中学1年生と高校3年生を除く)。

2017年12月 [中学] 摂南大学ボランティア部の協力を得て、3年生を対象にHIVピアエデュケーションを実施。

2017年12月 [高校] 1年生対象に、摂南大学の協力を得て、思春期教室を実施。

2017年12月 [中学・高校] 吹奏楽部とダンス部が、常翔学園中高吹奏楽部、ダンス部と合同で、クリスマスコンサートをOIT梅田タワーで開催。

2017年12月 [高校] ワンダーフォーゲル部員2名(男子1名、女子1名)が、全国選抜クライミング大会に出場。

2018年 1月 [中学・高校] マラソン大会を実施(高校3年生を除く)。

2018年 1月 [中学] 第7回百人一首交流会を、常翔学園中学校で実施。

2018年 2月 [中学] 英語暗唱大会を実施。

2018年 2月 [中学・高校] 2年生を対象に、交通安全講習会を実施。

2018年 2月 [高校] 1年生が、3分間スピーチコンテストを実施。

2018年 2月 [中学] コミュニケーション発表会を実施。合わせて法政大学で開催された「クエストカップ2018全国大会」(主催:教育と探求社)に、本校代表生徒が参加。

2018年 2月 [高校] 体育系クラブ員代表を対象に、一次救命処置講習会を実施。

2018年 3月 [高校] 淀川国際ハーフマラソンに、本校生徒がボランティアとして多数参加。

■ 法人部

◇ 内部監査室

2017年 5月～ 6月

常翔啓光学園中学校・高等学校業務監査を実施。[対象:常翔啓光学園中学校・高等学校事務室]

2017年 5月～ 7月

競争的資金(科学研究費助成事業等)の執行状況監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]

2017年 9月～11月

課外活動費の管理状況等について業務監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]

2017年12月～2018年 2月

外部資金の執行状況について会計監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]

◇ 法人室

2017年10月 大阪工業大学、摂南大学および広島国際大学学長の改選。

2018年 2月 常翔学園中学校・高等学校および常翔啓光学園中学校・高等学校長の改選。

◇ 経営企画室

- 2017年 7月 学園の第Ⅲ中長期目標・計画(2018～2022年度)を策定。
- 2018年 1月 「J-Vision 22」の浸透を目的として「2018年度理事長指針・学校長方針」冊子を作成し、教職員に配付。
- 2018年 1月～2018年 3月 学園の第Ⅱ期中期目標・計画(2013～2017年度)の達成度に対する全体評価を実施。
- 2018年 3月 「J-Vision 22」の浸透状況等についてアンケート調査を実施。

◇ 危機管理室

- 2017年 4月 災害時行動マニュアルの作製、配付。〈危機管理課〉
- 2017年 4月～2018年 2月 学園各校地消防計画書(防火・防災)、自衛保安(消防)組織の作成、届出。〈危機管理課〉
- 2017年 4月～2018年 3月 学園各校地・キャンパスの防火・防災訓練、反省会の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 8月 第1回一斉連絡・安否確認システム応答訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 8月 危機管理対策本部立ち上げ運営訓練実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 中宮・大宮地域防災会議避難所運営訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 第1回備蓄品(機材を含む)点検の実施。〈危機管理課〉
- 2017年 9月 第1回自主点検の実施。〈危機管理課〉
- 2017年11月 緊急地震速報システムを利用したシェイクアウト訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年11月 第2回一斉連絡・安否確認システム運用訓練の実施。〈危機管理課〉
- 2017年12月～2018年 2月 「学園の危機管理WG」の実施。(2回実施)〈危機管理課〉
- 2017年12月 広国大教職員対象法務研修会の実施。〈涉外課〉
- 2018年 1月 中宮・大宮地域防災会議の開催。〈危機管理課〉
- 2018年 2月 防火・防災管理者会議の開催。〈危機管理課〉
- 2018年 2月 大阪地区窓口対応教職員対象法務研修会の実施。〈涉外課〉
- 2018年 2月 第2回自主点検の実施。〈危機管理課〉
- 2018年 3月 第2回備蓄品(機材を含む)点検の実施。〈危機管理課〉

◇ 広報室

- 2017年 4月 大阪工業大学新学部開設告知にかかる交通広告掲出と新聞広告掲載。
- 2017年 5月 梅田エリアで開催のイベント「チャリウッド2017」に協賛。(大阪工業大学)
- 2017年 5月 「常翔啓光クライミングウォール」のメディア向け説明会を主催。(常翔啓光学園中学校・高校)
- 2017年 5月 「第47回神戸まつり」に協賛。(大阪工業大学、摂南大学)
- 2017年 5月・8月・11月、2018年 1月・3月 学園広報誌FLOW74～78号発行。
- 2017年 7月 「クンクンボディ」開発についてメディア向け説明会を主催。(大阪工業大学)
- 2017年 7月 第71回水都祭「天神祭奉納花火」に協賛。
- 2017年 7月 梅田エリアで開催のイベント「梅田ゆかた祭2017」に協賛。(大阪工業大学)
- 2017年 8月 一般社団法人BALLET OFFICE JAPAN主催の「アーティスティック・バレエ・ガラ」に公演協賛。
- 2017年 8月 「常翔学園プレゼンツ アーティスティック・バレエ講習会」に冠協賛。
- 2017年 9月・11月・12月、2018年 2月 学内者対象「広報実務セミナー(第1回～3回)」「勉強会(第1回・2回)」を主催。
- 2017年10月 学園案内2017発行。
- 2017年12月 梅田エリアで開催のイベント「スノーマンフェスティバル2017」への協賛。(大阪工業大学)
- 2017年12月 「大阪モーターショー第10回開催記念」に協賛。(大阪工業大学)
- 2018年 2月 「寝屋川ハーフマラソン2018」に協賛。(摂南大学)
- 2018年 3月 「第8回淀川国際ハーフマラソン」に協賛。

【プレスリリースの配信件数】

大阪工業大学23本、摂南大学40本、広島国際大学20本、常翔啓光学園中学校・高等学校2本、学園1本

◇ 総務部

- 2017年 4月 業務改革にかかる理事長表彰式を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 4月～2018年 1月 事務職員階層別研修を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 4月～2018年 3月 学外公益団体(日本高等教育評価機構)へ若手職員を研修派遣。〈職員研修課〉
- 2017年 8月～ 9月 私学マネジメント講演会を実施。〈職員研修課〉
- 2017年 8月～ 9月 事務職員夏期集合研修を実施。〈職員研修課〉
- 2018年 2月 将来計画タスクフォース「JOSHO NEXT CABINET」を発足。〈職員研修課〉

◇ 施設部

2016年 9月～2017年12月 呉キャンパス3・4号館解体にかかる工事監理。<施設課>

2016年10月～2017年 4月 常翔啓光学園 中学校・高等学校クライミングウォール設置にかかる工事監理。<施設課>

2016年11月～2017年 7月 常翔啓光学園 中学校・高等学校音楽棟新築にかかる工事監理。<施設課>

2017年 4月～2017年12月 寝屋川キャンパス摂大交流会館等解体にかかる設計および工事監理。<施設課>

2017年 4月～2018年 1月 吳キャンパス教育会館(仮称)、クラブハウス新築等にかかる設計および耐震改築補助金を申請。<施設課>

2017年 4月～2018年 2月 大宮キャンパス再整備のため、1・2・6・7・9・10号館、東学舎1・2号館他を改修にかかる設計および工事監理。<施設課>

2017年 4月～2018年 2月 大宮キャンパス再整備のため、3・4号館新築および4号館解体にかかる設計。<施設課>

2017年 6月～2018年 3月 学生等への福利厚生環境維持・向上のため、食堂厨房機器(大宮、梅田、寝屋川、枚方第1～3、東広島、呉)を更新。<用度課>

2017年 7月 低利用で今後の教育・研究に活用の見込めない土地である枚方第1校地の一部を処分。<施設課>

2017年 7月～2018年 2月 学生等への福利厚生環境維持・向上のため、国際会館空調機20台(野江校地)を更新。<用度課>

2017年10月～2018年 3月 摂南大学枚方キャンパス農学部棟(仮称)新築にかかる設計。<施設課>

2017年12月～2018年 3月 台風21号により冠水した大宮キャンパス淀川河川敷グラウンド復旧事業を実施。
風水害等の災復旧を優先的に行なった学校に対し経常費支援する大阪府私立高等学校経常費補助金特別事情配分を申請。<施設課>

2018年 1月 摂南大学の教育研究施設用地として寝屋川校地隣接地を取得。<施設課>

2018年 2月 大阪工業大学の運動場用地、および常翔学園中学校・高等学校の校舎敷地として大宮校地隣接地を取得。<施設課>

2018年 3月 大宮キャンパス再整備のため、厨房を増設(6号館3階)。<施設課>

◇社会連携機構

〈研究推進担当〉

1. 特許等管理状況

(2018年3月31日現在)

発明関係	総数	内訳	
		単独	共同
2017年度発明届出件数	10	4	6
2017年度日本国内出願件数(分割出願等を含む)	11	3	8
国内特許権取得件数(累計)	47	18	29
外国出願件数(累計)	65	16	49
実施、利用許諾関係	特許 ※出願中を含む	著作権	商標
実施許諾(オプション含む)(累計)	6	1	1
			3

2. 知的財産、产学連携に関する啓発・支援

研究者に対する支援

知的財産セミナーの開催

2017年 6月 大阪工業大学(大宮校地)(梅田校地)(枚方第2校地)

2017年 7月 摂南大学(寝屋川校地)(枚方第1校地)

2017年 7月 広島国際大学(東広島校地)(呉・広島校地はテレビ会議システムにより同時中継)

3. 外部組織との連携

① 科学技術振興機構を活用した連携促進(随時)

・新技術開発あっせんによる技術移転と产学連携

・JST外国特許出願支援制度の利用

・特許主任調査員による発明内容の評価

・JST科学技術コモンズへの特許情報の提供とJ-STORへの掲載

② 知的財産戦略ネットワーク株式会社を活用した技術(創薬系)移転活動(随時)

③ 学外との連携会議

・近畿経済産業局:産学官連携実務者会議への参加(2017年11月、2018年3月)

〈社学連携担当〉

2017年 4月～ 5月

「茶屋町デザインVillage」に空間デザイン学科が参加。

2017年 5月 「チャリウッド2017」に学生・教員が参加。

2017年 6月 「茶屋町スロウディ2017 1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」に学生・教員が参加。

2017年 9月 大阪音楽大学連携企画「ビッグバンドライブ」開催。

2017年10月～2018年 3月

大阪音楽大学連携企画「ロビーコンサート」毎月第2土曜日開催。

2017年11月～12月

「梅田スノーマンフェスティバル2017」に学生・教員が参加。

〈産学連携担当〉

2017年 7月 第1回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。

2017年 9月 第2回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。

2017年10月 大阪府IoT推進Labでの講演。

2018年 1月 MOBIOカフェでの講演。

2018年 3月 第3回大阪府電池駆動ロボット社会実装推進協議会開催。

〈事業担当〉

2017年10月 サンフランシスコケーブルカー移設記念式典挙行。

2017年10月～11月

常翔歴史館第3回企画展開催。

2017年11月 常翔ホール椅子募金終了。

◇ 連携教育推進機構

2017年 4月 第1回中高大連携教育推進委員会を開催。

2017年 5月 常翔啓光学園高等学校保護者対象説明会「大学での学びについて～学園設置大学が提供している教育・研究メニュー～」を開催。

2017年 6月～11月

常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園高等学校にて中高大連携プログラムを実施。

2017年 7月 第2回中高大連携教育推進委員会を開催。

2017年 7月 常翔学園高等学校保護者対象説明会「大学での学びについて～学園設置大学が提供している教育・研究メニュー～」を開催。

2017年 8月 第1回高大連携教育強化ワークショップ「これからの学園の連携教育のあり方を考える－高大連携プログラムから接続プログラムへ、さらには一貫プログラムに向けて」を開催。

2017年10月 第1回中高大連携教育推進委員会教務分科会を開催。

2018年 2月 第3回中高大連携教育推進委員会を開催。

2018年 2月 第2回高大連携教育強化ワークショップ「高大接続教育プロジェクトのアクションプラン実現に向けて」を開催。

◇ ICT連携機構

2017年10月 広国大事務系仮想基盤システムの更新。

2017年10月 専任の全教職員を対象とした情報セキュリティeラーニング研修の実施。

2018年 3月 学園事務システムの更新と一部システムのクラウド化。

2018年 3月 学園設置3大学のペーパーレス会議システムの更新。

2018年 3月 常翔歴史館デジタルアーカイブシステムの導入。

《財務の概要》

1. はじめに

①学校会計と企業会計との違いについて

企業会計では「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」が作成されます。企業では営業活動の成績を損益計算書であらわし、単年度の事業状況を明確化し、経営成績を知ることで収益を高めることに役立てます。

一方、学校会計では学校法人会計基準により定められた会計処理を行い、「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」および「これらに附属する内訳表（明細表）」の各計算書類を作成します。

それぞれの計算書を次のように利用・分析することにより、学校法人の財政および経営の状況が把握できます。

資金収支計算書	…	当該会計年度における収入と支出の内容を明らかにし、資金の流れを理解
事業活動収支計算書	…	当該会計年度の消費収支の内容と均衡状態を明らかにし、経営状況を把握
貸 借 対 照 表	…	期末（年度末）における資産・負債・基本金および収支差額を把握し、財政状態を分析

学校法人は営利を目的としていないため、長期的にみて財政が健全に維持されているかどうか、教育研究施設設備が適切に充実されているか等という観点から財務資料を分析し、改善方策を追及することが目的となります。

②資金収支計算書の科目説明

資金収支計算の目的

学校法人会計基準第6条に次のように定められています。

学校法人は、毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。以下同じ。）の収入及び支出のてん末を明らかにするため、資金収支計算を行なうものとする。

資金収入の計算方法

資金収入の計算は、当該会計年度における支払資金の収入ならびに当該会計年度の諸活動に対応する収入で前会計年度以前の会計年度において支払資金の収入となったものおよび当該会計年度の諸活動に対応する収入で翌会計年度以後の会計年度において支払い資金の収入となるべきものについて行います。

資金支出の計算方法

資金支出の計算は、当該会計年度における支払資金の支出ならびに当該会計年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前の会計年度において支払資金の支出となったものおよび当該会計年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後の会計年度において支払い資金の支出となるべきものについて行います。

・科目説明（科目は抜粋）

収入の部		備 考
科 目 名	小 科 目	
大 科 目	小 科 目	
学生生徒等納付金収入	授業料収入 実験実習料収入	聴講料、補講料等を含む。 教員資格その他の資格を取得するための実習料を含む。

手数料収入	入学検定料収入 試験料収入 証明手数料収入	その会計年度に実施する入学試験のために徴収する収入をいう。 編入学、追試験等のために徴収する収入をいう。 在学証明、成績証明等の証明のために徴収する収入をいう。
寄付金収入	特別寄付金収入 一般寄付金収入	土地、建物等の現物寄付金を除く。 用途指定のある寄付金をいう。 用途指定のない寄付金をいう。
補助金収入	国庫補助金収入	日本私立学校振興・共済事業団からの補助金を含む。
資産売却収入	奨学基金運用収入 受取利息・配当金収入	奨学基金の運用により生ずる収入をいう。 預金、貸付金等の利息、株式の配当金等をいい、奨学基金運用収入を除く。
資産売却収入		固定資産に含まれない物品の売却収入を除く。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入	食堂、売店、寄宿舎等教育活動に付随する活動に係る事業の収入をいう。
雑収入	施設設備利用料収入 廃品売却収入	固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいう
借入金等収入	長期借入金収入 短期借入金収入	その期限が貸借対照表日後1年を越えて到来するものをいう。 その期限が貸借対照表日後1年内に到来するものをいう。
前受金収入		翌年度入学の学生生徒等にかかる学生生徒等納付金収入その他の前受金収入をいう。
その他の収入	前期末未収入金収入	上記の各収入以外の収入をいう。 前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入をいう。

支出の部

科 目 名		備 考
大 科 目	小 科 目	
人件費支出	教員人件費支出 職員人件費支出 役員報酬支出	教員(学長、校長を含む。)に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。 教員以外の職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。 理事及び監事に支払う報酬をいう。
教育研究経費支出	光熱水費支出 奨学費支出	電気、ガス又は水の供給を受けるために支出する経費をいう。 貸与の奨学金を除く。
管理経費支出 借入金等利息支出 借入金等返済支出		
施設関係支出	建物支出 構築物支出 建設仮勘定支出	整地費、周旋料等の施設の取得に伴う支出を含む。 建物に附属する電気、給排水、暖房等の設備のための支出を含む。 プール、競技場、庭園等の土木設備又は工作物のための支出をいう。 建物及び構築物が完成するまでの支出をいう。
設備関係支出	教育研究用機器備品支出	標本及び模型の取得のための支出を含む。
資産運用支出 その他の支出		

③事業活動収支計算書の科目説明

事業活動収支計算の目的

学校法人会計基準第15条に次のように定められています。

学校法人は、毎会計年度、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにするため、事業活動収支計算を行なうものとする。

事業活動収入の計算方法

事業活動収入は、当該会計年度の学校法人の負債とならない収入を計算するものとする。

事業活動支出の計算方法

事業活動支出は、当該会計年度において消費する資産の取得価額及び当該会計年度における用役の対価に基づいて計算します。

基本金

学校法人が、必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、授業料など負債性のない収入（帰属収入）のうちから組み入れた金額（学校法人会計基準第29条）。

基本金への組入れ

学校法人は、次に掲げる金額に相当する金額を、基本金に組み入れます。

1. 学校法人が設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額または新たな学校の設置もしくは既設の学校の規模の拡大もしくは教育の充実向上のために取得した固定資産の価額。
ただし、固定資産を借入金又は未払金(支払手形を含む)により取得した場合において、当該借入金または未払金に相当する金額については、当該借入金または未払金の返済または支払(新たな借入金または未払金によるものを除く)を行った会計年度において、返済または支払いを行った金額に相当する金額を基本金へ組み入れます。
2. 学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大もしくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額
3. 基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額
4. 恒常的に保持すべき資金

・科目説明（科目は抜粋）

教育活動収支の部	収入の部		備考	
	科 目 名			
	大 科 目	小 科 目		
	学生生徒等納付金 手 数 料 寄 付 金 経常費補助金等収入 付 随 事 業 収 入 雜 収 入	授 業 料 実 験 実 習 料 入 学 檢 定 料 試 驗 料 証 明 手 数 料 特 別 寄 付 金 一 般 寄 付 金 現 物 寄 付 国 庫 補 助 金 補 助 活 動 収 入 施 設 設 備 利 用 料 廢 品 売 却 収 入	聴講料、補講料等を含む。 教員資格その他の資格を取得するための実習料を含む。 その会計年度に実施する入学試験のために徴収する収入をいう。 編入学、追試験等のために徴収する収入をいう。 在学証明、成績証明等の証明のために徴収する収入をいう。 施設設備寄付金以外の寄付金をいう。 用途指定のない寄付金をいう。 施設設備以外の現物資産等の受贈額をいう。 施設設備以外の補助金をいう。 日本私立学校振興・共済事業団からの補助金を含む 食堂、売店、寄宿舎等教育活動に付随する活動に係る事業の収入をいう。 施設設備利用料、廃品売却収入その他学校法人の負債とならない上記の各収入以外の収入をいう	

事業活動支出の部	支出の部		
	科 目 名	備 考	
	大 科 目	小 科 目	
	人 件 費	教 員 人 件 費 職 員 人 件 費 役 員 報 酬	教員(学長、校長を含む)に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。 教員以外の職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費を言う。 理事及び監事に支払う報酬をいう。
	教育研究経費	光 熱 水 費 獎 学 費 減 億 償 却 額	電気、ガス又は水の供給を受けるために支出する経費をいう。 貸与の奨学金を除く。 教育研究用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額をいう。
	管 理 経 費	減 億 償 却 額	管理用の減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額をいう。
	収入の部		
	科 目 名	備 考	
	大 科 目	小 科 目	
	受取利息・配当金	第3号基本金引当特定資産運用収入 その他の受取利息・配当金収入	第3号基本金引当特定資産の運用により生ずる収入をいう。 教員資格その他の資格を取得するための実習料を含む。 預金、貸付金等の利息、株式の配当金等をいい、第3号基本金引当特定資産収入を除く。
教育活動外収支	支出の部		
	科 目 名	備 考	
	大 科 目	小 科 目	
	借入金等利息	借 入 金 利 息	
	収入の部		
特別収支	科 目 名	備 考	
	大 科 目	小 科 目	
	資産売却差額		資産売却収入が当該資産の帳簿残高を超える場合のその超過額をいう。
	その他の特別収入	施設設備寄付金 現 物 寄 付 施設設備補助金 過 年 度 修 正 額	施設設備の拡充等のための寄付金をいう。 施設設備の受贈額を言う。 施設設備の拡充等のための補助金をいう。 前年度以前に計上した収入又は支出の修正額で当年度の収入となるもの。
	支出の部		
事業活動支出の部	科 目 名	備 考	
	大 科 目	小 科 目	
	資産処分差額		資産の帳簿残高が当該資産の売却収入を超える場合の超過額をいい、除却損又は廃棄損を含む。
事業活動支出の部	その他の特別支出	過 年 度 修 正 額	前年度以前に計上した収入又は支出の修正額で当年度の支出となるもの。

④貸借対照表の科目説明 科目は抜粋

資産の部				
科 目		備 考		
大科目	中科目	小科目		
固定資産	有形固定資産	土 建 物	貸借対照表日後1年を越えて使用される資産をいう。耐用年数が1年未満になっているものであっても使用中のものを含む。	
		構 築 物	建物に附属する電気、給排水、暖房等の設備を含む。	
		教育研究用機器備品	プール、競技場、庭園等の土木設備又は工作物をいう。	
		建 設 仮 勘 定	標本及び模型を含む。	
		第2号基本金引当特定資産 第3号基本金引当特定資産	建設中又は製作中の有形固定資産をいい、工事前払金、手付金等を含む。使途が特定された預金等をいう。	
	特 定 資 産	その他の固定資産		
		借 地 権	地上権を含む。	
		電 話 加 入 権	専用電話、加入電話等の設備に移用する負担金額をいう。	
		有 價 証 券	長期に保有する有価証券をいう。	
		長 期 貸 付 金	その期限が貸借対照表日後1年を越えて到来するものをいう。	
流動資産		未 収 入 金	学生生徒等納付金、補助金等の貸借対照表日における未収入額をいう。	
		貯 藏 品	減価償却の対象となる長期的な使用資産を除く。	
		短 期 貸 付 金	その期限が貸借対照表日後1年以内に到来するものをいう。	
		有 價 証 券	一時的に保有する有価証券をいう。	
負債の部				
科 目		備 考		
大 科 目	小 科 目			
固定負債	長 期 借 入 金 退職給与引当金		その期限が貸借対照表日後1年を越えて到来するものをいう。 退職給与規程等による計算に基づく退職給与引当額をいう。	
流動負債	短 期 借 入 金 預 り 金		その期限が貸借対照表日後1年以内に到来するものをいい、資金借入れのために振り出した手形上の債務を含む。 教職員の源泉所得税、社会保険料等の預り金をいう。	
純資産の部				
大 科 目	小 科 目	備 考		
学校法人会計基準第29条により、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」とされ、第30条において以下のように基本金を組み入れる。				
基本金				
第1号基本金		学校法人が設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校の設置若しくは既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の価額に係る基本金		
第2号基本金		学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額に係る基本金		
第3号基本金		基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額に係る基本金		
第4号基本金		恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額に係る基本金		
繰越収支差額	翌年度繰越収支差額			

2. 2017年度 資金収支計算書の概要

資金収支計算書の合計は、906億9154万8381円となりました。

収入の部では、学生生徒等納付金収入は287億2974万280円で、学生生徒数は、工大・摂大・常翔高・常翔中・啓光高で増加する一方、広国大・啓光中で減少し、前年度に比べて8089万3712円の減額となりました。手数料収入は10億8908万5840円で、工大・摂大で志願者数が増加したことなどにより、前年度に比べて9021万365円の増額となりました。寄付金収入は1億6287万877円で、常翔ホール椅子募金の募集期間終了などにより前年度に比べて3145万184円の減額となりました。補助金収入は56億265万3820円で、広国大呉キャンパス教育会館（仮称）・クラブハウス新築等工事に係る私立学校施設整備費補助金が採択されたことなどにより、前年度に比べて12億4920万7605円の増額となりました。資産売却収入は208億4680万9627円で、有価証券・金銭信託の償還、工大八幡工学実験場用地の一部売却などにより、前年度に比べて51億9601万916円の増額となりました。付随事業・収益事業収入は9億5047万9236円で、前年度に比べて4728万3265円の減額となりました。受取利息・配当金収入は10億5650万3570円で、前年度に比べて3億2826万5268円の減額となりました。雑収入は12億2775万430円で、前年度に工大枚方キャンパス区分地上権設定による補償金、工大梅田キャンパス建設費の支払いに伴う消費税還付金などがあつたため、2億1776万5919円の減額となりました。借入金等収入は46億4000万円で、摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る残金支払いのための借り入れを行いました。

支出の部では、人件費支出は202億8532万1622円で、教員・職員人件費支出・退職金支出の増額により、前年度に比べて7億2018万3886円の増額となりました。教育研究経費支出は76億36万5771円で、工大大宮キャンパス再開発事業に伴う改造成工事、工大枚方キャンパス1号館6階ビルマルチシアーコン更新工事、摂大枚方キャンパス1号館動物飼育室改修工事、摂大寝屋川キャンパス交流会館等解体工事、広国大呉キャンパス3・4号館解体工事など教育研究の充実・推進に必要な経費を支出し、前年度に比べて8億9358万4309円の増額となりました。管理経費支出は20億1329万7894円で、前年度に大阪センター原状回復工事、摂大寝屋川キャンパス食堂リニューアル工事、広国大東広島キャンパス学生寮補修工事などがあつたため2億121万4301円の減額となりました。借入金等利息支出は2743万6401円で、前年度に比べて1310万6597円の減額、借入金等返済支出は22億9500万円で、前年度に比べて8億7500万円の減額となりました。いずれも約定どおり支払いました。施設関係支出は74億578万7807円で、摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る残金の支払い、大阪市営城北住宅跡地を取得したものの、前年度に工大梅田キャンパス新築工事の完成払いなどがあつたため42億5690万1455円の減額となりました。設備関係支出は10億5202万6757円で、教育研究の充実を図るため各種備品・図書などを購入しました。前年度に工大梅田キャンパス関連設備一式の購入などがあつたため7億9649万8482円の減額となりました。

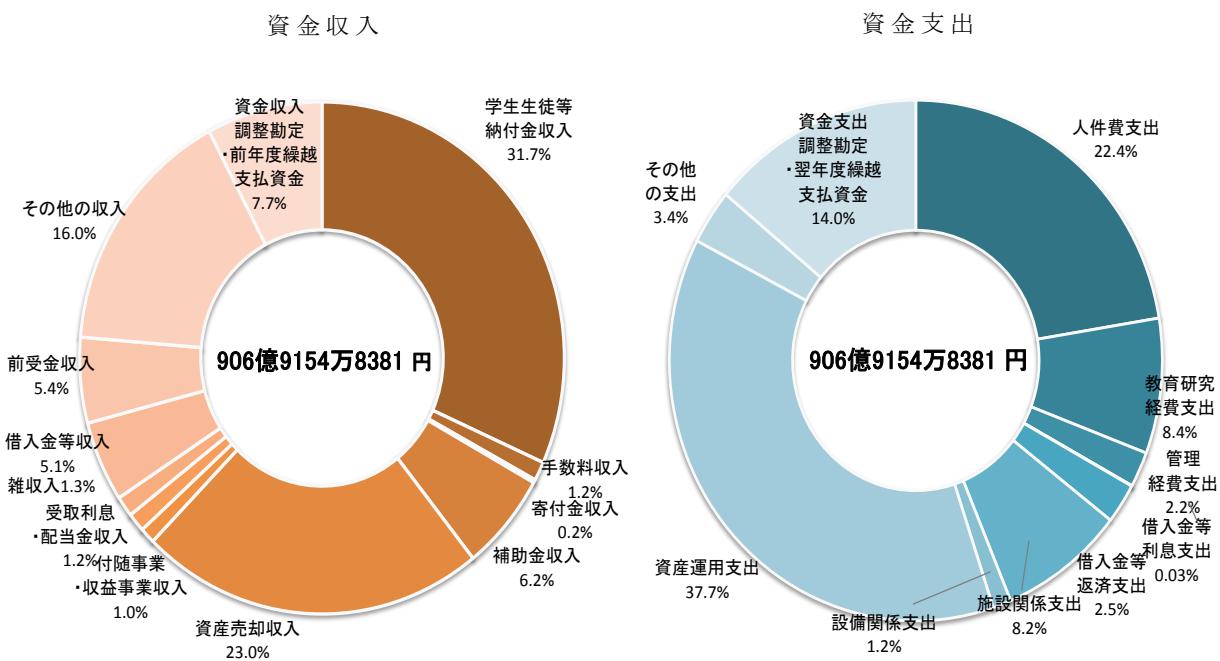
【略称】

大阪工業大学	・	・	・	工大	常翔学園高等学校	・	・	・	常翔高
摂南大学	・	・	・	・	常翔学園中学校	・	・	・	常翔中
広島国際大学	・	・	・	・	常翔啓光学園高等学校	・	・	啓光高	

常翔啓光学園中学校

2017年度の資金収支計算書の各項目別内容はつぎのとおりです。

2017年度資金収支計算書



収 入 の 部

万円未満切り捨て

1. 学生生徒等納付金収入

工大・摂大・常翔高・常翔中・啓光高で学生生徒数が増加したものの、広国大・啓光中において前年度より学生生徒数が減少し全体で0.3%の減額となりました。

学生生徒数

	2017年5月1日現在	2016年5月1日現在	差 異
工 大	7, 206人	7, 171人	35人
摂 大	8, 193人	8, 174人	19人
広 国 大	4, 227人	4, 389人	△162人
常 翔 高	1, 902人	1, 775人	127人
常 翔 中	328人	283人	45人
啓 光 高	1, 377人	1, 320人	57人
啓 光 中	145人	179人	△34人
合 計	23, 378人	23, 291人	87人

(注) 以下において()内は前年度決算額との比較増減を示し、△は減。

総額	287億2, 974万円	(△)	8, 089万円)
工大	99億6, 655万円	(4, 568万円)
摂大	107億1, 551万円	(1, 763万円)
広国大	63億5, 056万円	(△)	2億4, 393万円)
常翔高	7億8, 738万円	(7, 358万円)
常翔中	2億3, 492万円	(3, 083万円)
啓光高	5億7, 513万円	(2, 192万円)
啓光中	9, 966万円	(△)	2, 663万円)

常翔高および啓光高の授業料支援補助金等控除前の学費収入はつぎのとおりです。

常 翔 高	前年度決算額
学費収入	1 2 億 3 , 2 9 7 万円 []
授業料支援補助金等	△ 4 億 4 , 5 5 8 万円 [△]
差額 学生生徒等納付金収入	7 億 8 , 7 3 8 万円 []

啓 光 高	前年度決算額
学費収入	8 億 9 , 8 6 5 万円 []
授業料支援補助金等	△ 3 億 2 , 3 5 2 万円 [△]
差額 学生生徒等納付金収入	5 億 7 , 5 1 3 万円 []

2. 手数料収入

入学検定料収入は、工大・摂大の志願者数増加などにより、全体で 9.4% の増額となりました。

入学志願者数（編入学、転入学、再入学志願者を除く）

	2 0 1 7 年度 (2018 年度入試)	2 0 1 6 年度 (2017 年度入試)	差 異
工 大	2 2 , 2 3 8 人	1 9 , 7 8 4 人	2 , 4 5 4 人
摂 大	4 6 , 3 4 6 人	3 9 , 9 2 6 人	6 , 4 2 0 人
広 国 大	5 , 7 5 0 人	5 , 7 2 4 人	2 6 人
常 翔 高	1 , 3 1 2 人	1 , 5 3 2 人	△ 2 2 0 人
常 翔 中	5 6 0 人	4 5 0 人	1 1 0 人
啓 光 高	1 , 6 2 8 人	1 , 6 3 5 人	△ 7 人
啓 光 中	1 4 7 人	1 2 0 人	2 7 人
合 計	7 7 , 9 8 1 人	6 9 , 1 7 1 人	8 , 8 1 0 人

入学検定料収入・試験料収入・証明手数料収入・大学入試センター試験実施手数料収入等を合計した収入は、前年度より増額となりました。

総 額 1 0 億 8 , 9 0 8 万円 (9 , 0 2 1 万円)

3. 寄付金収入

寄付金収入は、常翔ホール椅子募金の募集期間終了などにより、減額となりました。

総 額 1 億 6 , 2 8 7 万円 (△ 3 , 1 4 5 万円)

4. 補助金収入

経常費補助金は、工大でロボティクス＆デザイン工学部の新設や私立大学研究プランディング事業の採択、常翔中高・啓光高の生徒数増加などにより増額、施設設備補助金は広国大吳キャンパス教育会館（仮称）・クラブハウス新築工事に係る補助金などにより増額となりました。

総 額 5 6 億 2 6 5 万円 (1 2 億 4 , 9 2 0 万円)

（1）経常費補助金（教職員給与費、教育研究経常費等）

総 額 3 5 億 6 , 4 7 3 万円 (1 億 5 , 3 4 3 万円)

（2）施設設備補助金（施設整備、研究設備、教育設備、施設高度化推進等）

総 額 1 2 億 7 9 5 万円 (1 0 億 8 , 5 1 9 万円)

（3）特定補助金（授業料支援補助金等 上記以外）

総 額 8 億 2 , 9 9 6 万円 (1 , 0 5 7 万円)

5. 資産売却収入

有価証券・金銭信託の償還、工大八幡工学実験場用地の一部を売却したことなどにより、増額となりました。

総 額 2 0 8 億 4 , 6 8 0 万円 (5 1 億 9 , 6 0 1 万円)

6. 付随事業・収益事業収入

補助活動収入・受託事業収入などの減額により、総額で減額となりました。

総額 9億5,047万円(△) 4,728万円)

7. 受取利息・配当金収入

第3号基本金引当特定資産運用収入、その他の受取利息・配当金収入を合計した収入は前年度より減額となりました。

総額 10億5,650万円(△) 3億2,826万円)

8. 雜収入

退職金支出の増加により退職金財団交付金収入が増額となるものの、前年度に工大枚方キャンパス区分地上権設定による補償金、工大梅田キャンパス建設費の支払いに伴う消費税還付金などがあったため、総額で減額となりました。

総額 12億2,775万円(△) 2億1,776万円)

9. 借入金等収入

摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る残金支払いのための借り入れを行いました。

総額 46億4,000万円(△) 28億6,000万円)

10. 前受金収入

2018年度入学生の入学手続時納付金などの収入がありました。

総額 49億2,202万円(△) 1億8,039万円)

11. その他の収入

前期末未収入金・預り金受入れなどの収入がありました。退職年金・退職金・広国大退職金・啓光中高退職金・教育研究・将来計画各引当特定資産からの取崩しを行いました。

総額 145億2,134万円(△) 46億9,411万円)

12. 資金収入調整勘定

期末未収入金・前期末前受金の調整を行いました。

総額 △ 69億2,332万円(△) 12億3,452万円)

13. 前年度繰越支払資金

前受金・預り金・未払金など前年度からの繰越資金がありました。

総額 138億6,560万円(△) 1億4,390万円)

支 出 の 部

万円未満切り捨て

1. 人件費支出

教員・職員の人件費や役員の報酬に加え退職金を支出しました。

総額 202億8,532万円(△) 7億2,018万円)

2. 教育研究経費支出

教育研究の充実・学習環境改善のための必要な経費を支出しました。

工大大宮キャンパス再開発事業による工事のほか、摂大寝屋川キャンパス・広国大吳キャンパス建物解体工事などにより、前年度に比べて増額となりました。

総額 76億36万円(△) 8億9,358万円)

施設保守修繕費・建物解体費の主なものはつぎのとおりです(2,000万円以上)。

本部 淀川河川グラウンド復旧工事

工大 大宮キャンパス再開発事業関連工事

(1・2号館改造工事、東学舎1・2号館、9号館他改修工事)

枚方キャンパス1号館6階ビルマルチエアコン更新工事

摂大 寝屋川キャンパス交流会館等解体工事

枚方キャンパス1号館動物飼育室改修工事

広国大 吳キャンパス3・4号館解体工事

※建物解体費は「他の教育研究経費」で支出しています。

3. 管理経費支出

学生生徒募集に係る経費、教職員の福利厚生費などを支出しました。

本部で事務システム更新費用などを支出しましたが、前年度に食堂・学生寮等の工事や広国大で学生募集用テレビCMや新聞広告を実施したことなどにより減額となりました。

総額 20億1,329万円(△) 2億121万円)

4. 借入金等利息支出

本部・工大・摂大において日本私立学校振興・共済事業団等からの借入金利息を支出了しました。

総額 2,743万円(△) 1,310万円)

5. 借入金等返済支出

本部・工大・摂大において日本私立学校振興・共済事業団等からの借入金を償還計画に基づき返済しました。

総額 22億9,500万円(△) 8億7,500万円)

6. 施設関係支出

土地・建物・構築物および建設仮勘定を支出しました。

総額 74億 578万円(△) 42億 5,690万円)

土地

主なものは、つぎのとおりです(5,000万円以上)。

本部 寝屋川市日本ペイントホールディングス(株)跡地取得(残金支払)
大阪市営城北住宅跡地取得

建物

主なものは、つぎのとおりです(5,000万円以上)。

工大 大宮キャンパス再開発事業関連工事
(1・2号館改造工事、東学舎1・2号館、9号館他改修工事)
広国大 呉キャンパスキュービクル撤去・新設工事
啓光中高 3号館(ミューズギャラリー)新築工事

構築物

主なものは、つぎのとおりです(5,000万円以上)。

啓光中高 クライミングウォール設置工事

建設仮勘定

主なものは、つぎのとおりです(5,000万円以上)。

広国大 呉キャンパス教育会館(仮称)新築工事

7. 設備関係支出

教育研究の充実を図るため各種備品・図書などを購入しました。

総額 10億5,202万円(△) 7億9,649万円)

機器備品

主なものは、つぎのとおりです(2,000万円以上)。

本部 事務システム(ハードウェア)
工大 加熱炉付き万能試験機一式
摂大 遠隔講義システム・AV機器
寝屋川キャンパス12号館教室固定机・椅子、可動机一式
広国大 未来の教室・アクティブラーニング教室ICT関連システム
啓光中高 タブレット端末・電子黒板機能付プロジェクター等一式

8. 資産運用支出

有価証券、金銭信託を購入したほか、第3号基本金・退職年金・退職金・広国大退職金・啓光中高退職金・教育研究・資金運用・将来計画各引当特定資産への繰入れを行いました。

総額 342億2,808万円 (95億 260万円)

9. その他の支出

前期末未払金・預り金・前払金などの支出を行いました。

総額 30億7,706万円 (4億4,521万円)

10. 資金支出調整勘定

期末未払金・前期末前払金の調整を行いました。

総額 △ 18億9,607万円 (2億3,635万円)

11. 翌年度繰越支払資金

つぎのとおり繰り越しました。

総額 146億 324万円 (7億3,763万円)

3. 2017年度 活動区分資金収支計算書の概要

資金収支計算書を3つの活動ごとに区分した活動区分資金収支計算書では、教育活動資金収支差額が67億3987万3137円の収入超過（前年度比15億1724万421円減）となりました。

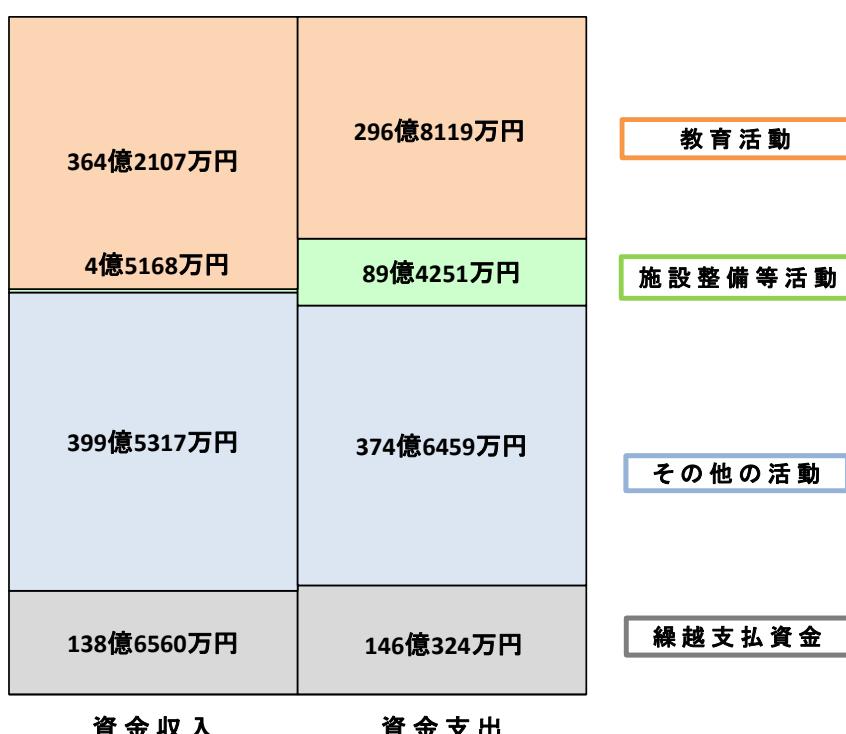
施設整備等活動資金収支差額は摂大寝屋川キャンパス用土地取得などにより84億9082万3850円の支出超過（前年度比10億7949万9229円増）となりました。教育活動と施設整備等活動の2活動を合わせた資金収支差額では17億5095万713円の支出超過（前年度比25億9673万9650円増）となりました。

その他の活動資金収支差額は24億8858万7838円の収入超過で、前年度は7億188万6693円の支出超過でした。

これらの結果、支払資金の増減額は7億3763万7125円の増で翌年度に繰り越す支払資金は146億324万5377円となりました。

万円未満切り捨て

2017年度活動区分資金収支計算書



※金額は調整勘定加算後のものです。

活動区分	主な収入科目	主な支出科目
教育活動	学生生徒等納付金収入 手数料収入 寄付金収入（施設設備寄付金以外） 経常費等補助金収入（施設設備補助金以外） 付随事業収入 雑収入（過年度修正収入を除く）	人件費支出 教育研究経費支出 管理経費支出（過年度修正支出を除く）
施設整備等活動	施設設備寄付金収入 施設設備補助金収入	施設関係支出 設備関係支出
その他の活動	借入金等収入 有価証券売却収入 各種引当特定資産取崩収入 受取利息・配当金収入 預り金受入収入	借入金等返済支出 有価証券購入支出 各種引当特定資産繰入支出 借入金等利息支出 預り金支払支出

4. 2017年度 事業活動収支計算書の概要

事業活動収入計は、393億 5584万 2872円（前年度比4億 5596万 870円増）、事業活動支出計は357億 1625万 9199円（前年度比13億 4027万 9846円増）となり、その結果、基本金組入前当年度収支差額は36億 3958万 3673円の収入超過（前年度比8億 8431万 8976円減）となりました。

このうち、特殊要因等の臨時的な収支（特別収支）を除く経常収支では20億 2608万 5932円の収入超過（前年度比18億 1175万 8769円減）となりました。

経常収支のうち学校法人の本業である教育活動収支では、前年度に比べて手数料、経常費等補助金が増額になったものの、雑収入の減額などが影響し収入の部で1億 1952万 539円の減となりました。一方、支出の部では人件費、教育研究経費が増額となつたため、収入超過額は9億 9701万 8763円（前年度比14億 9660万 98円減）となりました。

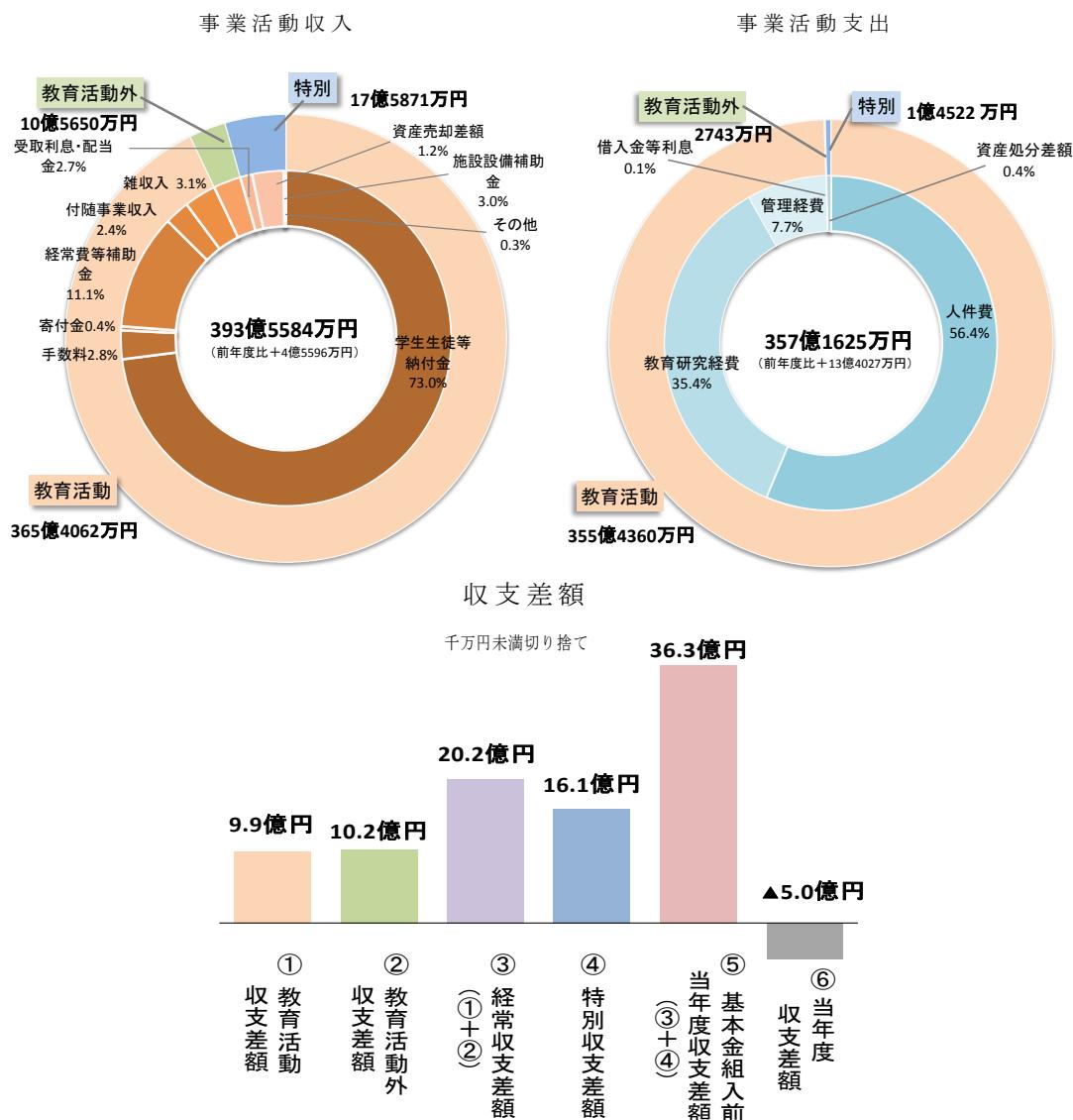
主に財務活動を表す教育活動外収支では、10億 2906万 7169円（前年度比3億 1515万 8671円減）の収入超過となりました。

特別収支では、資産売却差額、施設設備補助金、現物寄付など17億 5871万 7974円の収入があり、16億 1349万 7741円の収入超過（前年度比9億 2743万 9793円増）となりました。

当年度の基本金組入額合計は、41億 4794万 3696円（前年度比2億 717万 4476円増）となり、これを基本金組入前当年度収支差額から控除した当年度収支差額は5億 836万 23円の支出超過となりました。当年度収支差額に前年度からの繰越収支差額を加算した結果、翌年度繰越収支差額は250億 4865万 2150円の支出超過となりました。

万円未満切り捨て

2017年度事業活動収支計算書



5. 貸借対照表の概要

資産の部合計は 2410 億 3955 万 5405 円で、前年度末に比べて 55 億 8086 万 4150 円の増額となりました。主な増額は、土地 69 億 9026 万 6833 円、有価証券（固定資産）70 億 3630 万 7806 円、有価証券（流動資産）11 億 9644 万 4951 円、長期未収入金 11 億 5629 万 9000 円、資金運用引当特定資産 9 億 1072 万 2266 円などで、主な減額は、将来計画引当特定資産 76 億 6572 万 7502 円、建物 27 億 9355 万 5927 円、建設仮勘定 10 億 8386 万 6282 円などです。

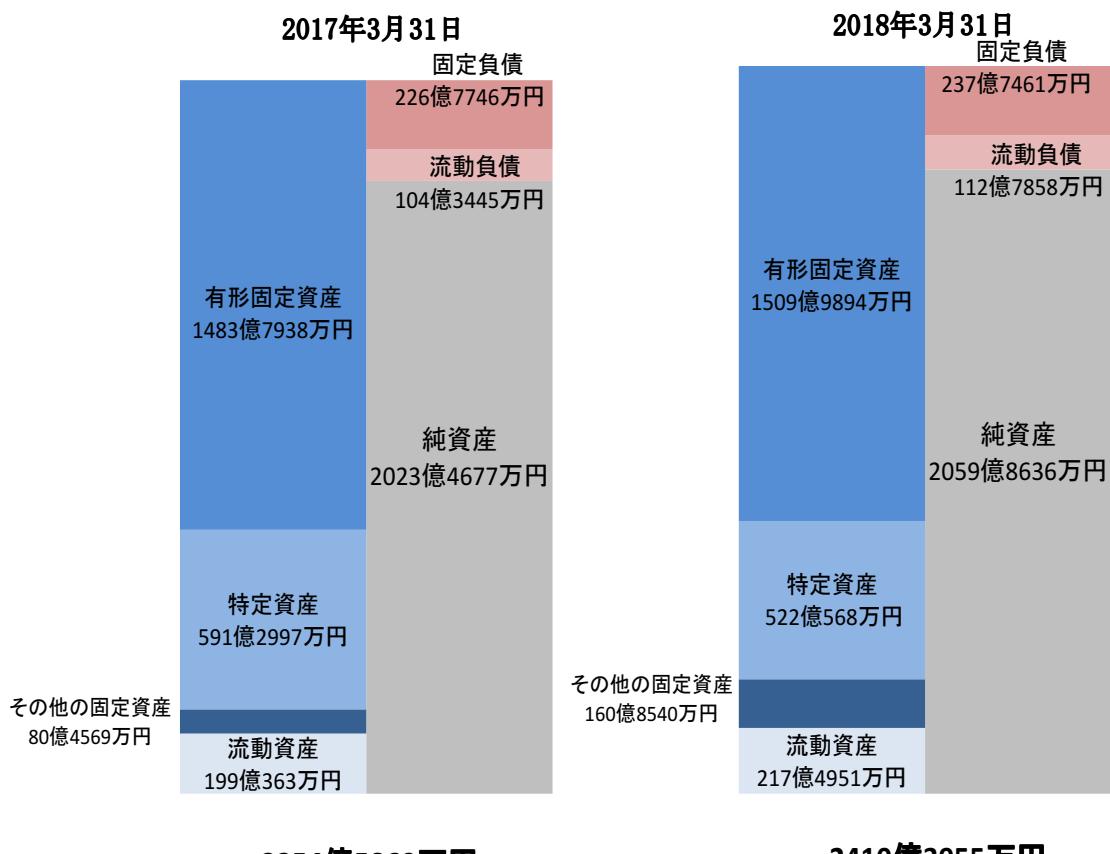
退職年金引当特定資産については、信託銀行と指定単独運用金銭信託契約を締結し、退職年金引当特定資産の全額を信託銀行に信託しており、他の引当特定資産や現金預金とは区別して管理しています。信託銀行には退職年金引当特定資産全額の管理・運用とともに退職年金、退職一時金の給付事務も委託しています。

負債の部合計は 350 億 5319 万 4927 円で、前年度末に比べて 19 億 4128 万 477 円の増額となりました。負債のうち、借入金は 159 億 8500 万円で、工大、摂大の校舎建設・建替えおよび教育環境整備費等として、日本私立学校振興・共済事業団および市中金融機関から低利で借り入れたものです。

純資産の部合計は 2059 億 8636 万 478 円で、前年度末に比べて 36 億 3958 万 3673 円の増額となりました。純資産の部のうち、基本金が 2310 億 3501 万 2628 円で、前年度末に比べて 41 億 4794 万 3696 円の増額、繰越収支差額が 250 億 4865 万 2150 円の支出超過で、前年度末に比べて 5 億 836 万 23 円支出超過額が増額となりました。

万円未満切り捨て

貸借対照表



6. 財産目録の概要

資産の部では、基本財産が前年度末に比べて 35 億 6526 万 7900 円増の 1504 億 2431 万 9763 円となり、運用財産が前年度末に比べて 20 億 1559 万 6250 円増の 906 億 1523 万 5642 円となりました。資産の部合計は 2410 億 3955 万 5405 円で、この金額は貸借対照表の資産の部合計と同額となります。

負債の部合計は 350 億 5319 万 4927 円で、この金額は貸借対照表の負債の部合計と同額となります。

資産の部から負債の部合計を控除した正味財産は、前年度末に比べて 36 億 3958 万 3673 円増の 2059 億 8636 万 478 円で、この金額を組合等登記令に基づき登記しました。

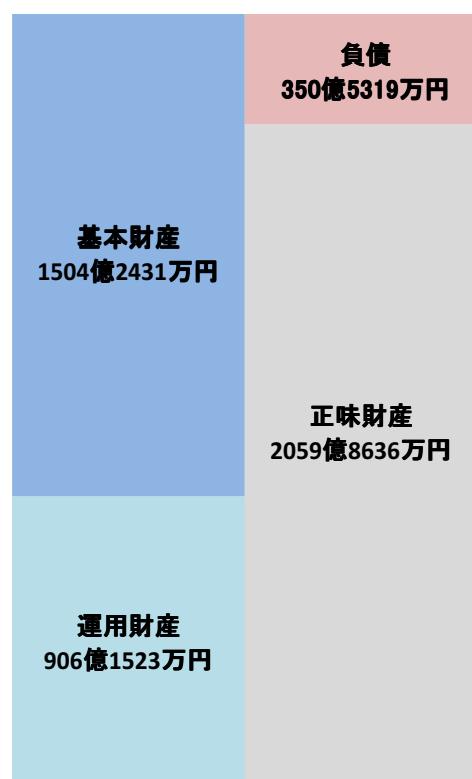
万円未満切り捨て

財産目録

2017年3月31日現在



2018年3月31日現在



7. 財務状況の5カ年推移

注) 2013・2014年度の金額は新会計基準に組替えて表示しています。

千円未満切り捨て
(単位:千円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
資金収支計算書、収入					
学生生徒等納付金収入	28,460,889	28,564,598	28,988,406	28,810,633	28,729,740
手数料収入	956,642	953,913	974,515	998,875	1,089,085
寄付金収入	975,016	675,256	111,637	194,321	162,870
補助金収入	4,753,632	4,606,786	4,343,616	4,353,446	5,602,653
資産売却収入	13,685,195	15,270,332	15,072,382	15,650,798	20,846,809
付随事業・収益事業収入	147,550	924,945	941,737	997,762	950,479
受取利息・配当金収入	1,005,661	999,081	1,081,935	1,384,768	1,056,503
雑収入	1,596,208	895,129	1,065,553	1,445,516	1,227,750
借入金等収入	4,200,000	0	3,900,000	7,500,000	4,640,000
前受金収入	4,963,696	5,053,718	4,885,526	5,102,415	4,922,020
その他の収入	9,217,233	5,929,914	4,956,319	9,827,228	14,521,347
資金収入調整勘定	△6,395,640	△5,770,728	△5,870,968	△5,688,793	△ 6,923,321
前年度繰越支払資金	12,378,356	12,723,145	11,493,158	13,721,706	13,865,608
収入の部合計	75,944,444	70,826,093	71,943,822	84,298,678	90,691,548
資金収支計算書、支出					
人件費支出	19,554,711	19,466,948	19,977,219	19,565,137	20,285,321
教育研究経費支出	6,713,714	6,794,834	6,423,315	6,706,781	7,600,365
管理経費支出	1,824,465	1,821,145	1,977,441	2,214,512	2,013,297
借入金等利息支出	74,317	68,032	53,044	40,542	27,436
借入金等返済支出	2,490,080	1,860,000	1,480,000	3,170,000	2,295,000
施設関係支出	5,423,706	860,561	5,655,674	11,662,689	7,405,787
設備関係支出	2,215,926	1,306,359	1,002,076	1,848,525	1,052,026
資産運用支出	24,889,153	25,570,284	21,293,704	24,725,470	34,228,080
その他の支出	2,195,318	2,803,371	1,999,110	2,631,844	3,077,061
資金支出調整勘定	△2,160,094	△1,218,602	△1,639,469	△2,132,433	△ 1,896,075
翌年度繰越支払資金	12,723,145	11,493,158	13,721,706	13,865,608	14,603,245
支出の部合計	75,944,444	70,826,093	71,943,822	84,298,678	90,691,548
活動区分資金収支計算書、教育活動					
学生生徒等納付金収入	28,460,889	28,564,598	28,988,406	28,810,633	28,729,740
手数料収入	956,642	953,913	974,515	998,875	1,089,085
特別寄付金収入	59,963	670,956	97,093	173,934	147,524
一般寄付金収入	915,053	4,300	0	0	0
経常費等補助金収入	4,078,804	4,178,710	4,099,856	4,230,695	4,394,703
付隨事業収入	147,550	924,945	941,737	997,762	950,479
雑収入	1,596,208	895,129	1,063,437	1,444,381	1,227,750
教育活動資金収入計	36,215,113	36,192,554	36,165,046	36,656,283	36,539,284
人件費支出	19,554,711	19,466,948	19,977,219	19,565,137	20,285,321
教育研究経費支出	6,713,714	6,794,834	6,423,315	6,706,781	7,600,365
管理経費支出	1,824,465	1,821,145	1,977,441	2,214,432	2,013,297
教育活動資金支出計	28,092,891	28,082,927	28,377,975	28,486,351	29,898,985
差引	8,122,222	8,109,626	7,787,070	8,169,932	6,640,299
調整勘定等	△125,175	△219,563	73,129	87,181	99,573
教育活動資金収支差額①	7,997,047	7,890,062	7,860,199	8,257,113	6,739,873

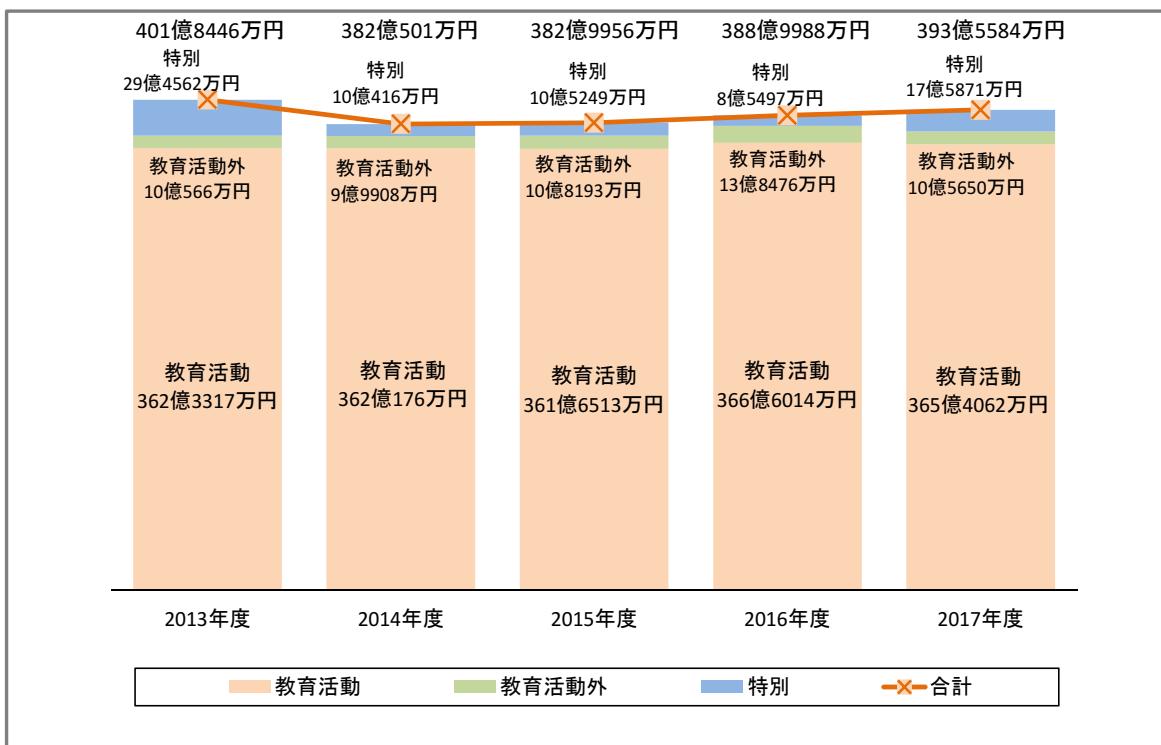
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
活動区分資金収支計算書、施設整備等活動					
施設設備寄付金収入	0	0	14,544	20,386	15,346
施設設備補助金収入	674,828	428,076	243,760	122,751	1,207,950
施設設備売却収入	0	0	300	0	394,538
第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	0	5,000,000	0
施設整備等活動資金収入計	674,828	428,076	258,604	5,143,137	1,617,834
施設関係支出	5,423,706	860,561	5,655,674	11,662,689	7,405,787
設備関係支出	2,215,926	1,306,359	1,002,076	1,848,525	1,052,026
第2号基本金引当特定資産繰入支出	1,250,000	1,250,000	0	0	0
施設整備等活動資金支出計	8,889,633	3,416,920	6,657,751	13,511,214	8,457,814
差引	△8,214,805	△2,988,844	△6,399,147	△8,368,077	△ 6,839,979
調整勘定等	△129,312	△283,622	△56,451	956,752	△ 1,650,843
施設整備等活動資金収支差額②	△8,344,117	△3,272,467	△6,455,599	△7,411,324	△ 8,490,823
小計 (①+②)	△347,070	4,617,595	1,404,600	845,788	△ 1,750,950
活動区分資金収支計算書、その他の活動					
借入金等収入	4,200,000	0	3,900,000	7,500,000	4,640,000
有価証券売却収入	7,685,195	10,270,332	8,072,082	9,650,798	19,452,271
金銭信託収入	6,000,000	5,000,000	7,000,000	6,000,000	1,000,000
将来計画引当特定資産取崩収入	5,336,407	1,101,000	326,000	30,000	10,151,000
その他引当特定資産取崩収入	2,735,781	2,881,678	3,068,343	2,689,442	2,493,087
その他 預り金受入収入等	637,678	779,761	977,698	1,067,238	1,073,993
小計	26,595,062	20,032,771	23,344,124	26,937,478	38,810,351
受取利息・配当金収入	1,005,661	999,081	1,081,935	1,384,768	1,056,503
過年度修正収入	0	0	2,116	1,134	0
その他の活動資金収入計	27,600,723	21,031,853	24,428,177	28,323,382	39,866,855
借入金等返済支出	2,490,080	1,860,000	1,480,000	3,170,000	2,295,000
有価証券購入支出	13,597,059	10,118,644	11,271,855	13,451,250	26,685,023
金銭信託支出	5,000,000	8,000,000	6,000,000	1,000,000	2,000,000
第3号基本金引当特定資産繰入支出	11,563	614,600	10,514	8,040	3,127
将来計画引当特定資産繰入支出	392,000	2,286,000	880,000	6,584,000	2,500,000
その他引当特定資産繰入支出	4,638,530	3,301,040	3,131,333	3,682,179	3,039,929
その他 預り金支払支出等	705,343	631,117	777,481	1,002,851	914,074
小計	26,834,577	26,811,402	23,551,185	28,898,322	37,437,154
借入金等利息支出	74,317	68,032	53,044	40,542	27,436
過年度修正支出	0	0	0	80	0
その他の活動資金支出計	26,908,894	26,879,435	23,604,230	28,938,945	37,464,591
差引	691,828	△5,847,581	823,946	△615,563	2,402,264
調整勘定等	30	0	0	△86,323	86,323
その他の活動資金収支差額③	691,858	△5,847,581	823,946	△701,886	2,488,587
支払資金の増減額 (①+②+③)	344,788	△1,229,986	2,228,547	143,902	737,637
前年度繰越支払資金	12,378,356	12,723,145	11,493,158	13,721,706	13,865,608
翌年度繰越支払資金	12,723,145	11,493,158	13,721,706	13,865,608	14,603,245
事業活動収支計算書、教育活動					
学生生徒等納付金	28,460,889	28,564,598	28,988,406	28,810,633	28,729,740
手数料	956,642	953,913	974,515	998,875	1,089,085
寄付金	976,878	681,898	97,180	175,124	148,699
経常費等補助金	4,078,804	4,178,710	4,099,856	4,230,695	4,394,703
付隨事業収入	147,550	924,945	941,737	997,762	950,479
雑収入	1,612,406	897,699	1,063,437	1,447,050	1,227,913
教育活動収入計	36,233,173	36,201,766	36,165,133	36,660,141	36,540,621

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
人件費	19,491,370	19,558,337	19,533,376	19,700,146	20,134,326
教育研究経費	11,482,828	11,556,035	11,155,589	11,526,956	12,653,266
管理経費	2,633,309	2,569,190	2,710,348	2,939,419	2,756,009
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	33,607,508	33,683,564	33,399,315	34,166,523	35,543,602
教育活動収支差額①	2,625,664	2,518,202	2,765,818	2,493,618	997,018
事業活動収支計算書、教育活動外					
受取利息・配当金	1,005,661	999,081	1,081,935	1,384,768	1,056,503
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	1,005,661	999,081	1,081,935	1,384,768	1,056,503
借入金等利息	74,317	68,032	53,044	40,542	27,436
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	74,317	68,032	53,044	40,542	27,436
教育活動外収支差額②	931,343	931,049	1,028,891	1,344,225	1,029,067
経常収支差額 (①+②)	3,557,008	3,449,251	3,794,709	3,837,844	2,026,385
事業活動収支計算書、特別					
資産売却差額	317,388	496,007	689,703	584,835	462,282
その他の特別収入	2,628,239	508,156	362,793	270,135	1,296,435
特別収入計	2,945,627	1,004,164	1,052,497	854,971	1,758,717
資産処分差額	81,411	87,130	226,950	168,833	145,220
その他の特別支出	0	0	0	80	0
特別支出計	81,411	87,130	226,950	168,913	145,220
特別収支差額③	2,864,215	917,033	825,546	686,057	1,613,497
基本金組入前当年度収支差額 (①+②+③)	6,421,224	4,366,284	4,620,256	4,523,902	3,639,583
基本金組入額合計	△11,005,059	△4,468,815	△2,980,947	△3,940,769	△ 4,147,943
当年度収支差額	△4,583,835	△ 102,531	1,639,308	583,133	△ 508,360
前年度繰越収支差額	△22,088,367	△26,672,202	△26,774,734	△25,135,425	△ 24,540,292
基本金取崩額	0	0	0	12,000	0
翌年度繰越収支差額	△26,672,202	△26,774,734	△25,135,425	△24,540,292	△ 25,048,652
事業活動収入計	40,184,461	38,205,012	38,299,566	38,899,882	39,355,842
事業活動支出計	33,763,237	33,838,727	33,679,310	34,375,979	35,716,259
貸借対照表					
有形固定資産	142,215,158	139,038,889	140,279,038	148,379,386	150,998,949
特定資産	48,600,679	54,750,403	55,990,067	59,129,974	52,205,681
その他の固定資産	1,055,354	888,594	2,212,701	8,045,692	16,085,409
流動資産	24,989,022	24,064,689	27,300,777	19,903,637	21,749,515
資産の部合計	216,860,215	218,742,577	225,782,584	235,458,691	241,039,555
固定負債	18,415,747	17,023,903	17,326,756	22,677,461	23,774,612
流動負債	9,608,134	8,516,056	10,632,954	10,434,453	11,278,582
負債の部合計	28,023,882	25,539,959	27,959,710	33,111,914	35,053,194
基本金	215,508,536	219,977,351	222,958,299	226,887,068	231,035,012
繰越収支差額	△26,672,202	△26,774,734	△25,135,425	△24,540,292	△ 25,048,652
純資産の部合計	188,836,333	193,202,617	197,822,874	202,346,776	205,986,360
財産目録					
基本財産	138,580,152	135,047,293	130,795,181	146,859,051	150,424,319
運用財産	78,280,063	83,695,283	94,987,403	88,599,639	90,615,235
資産の部	216,860,215	218,742,577	225,782,584	235,458,691	241,039,555
負債の部	28,023,882	25,539,959	27,959,710	33,111,914	35,053,194
正味財産	188,836,333	193,202,617	197,822,874	202,346,776	205,986,360

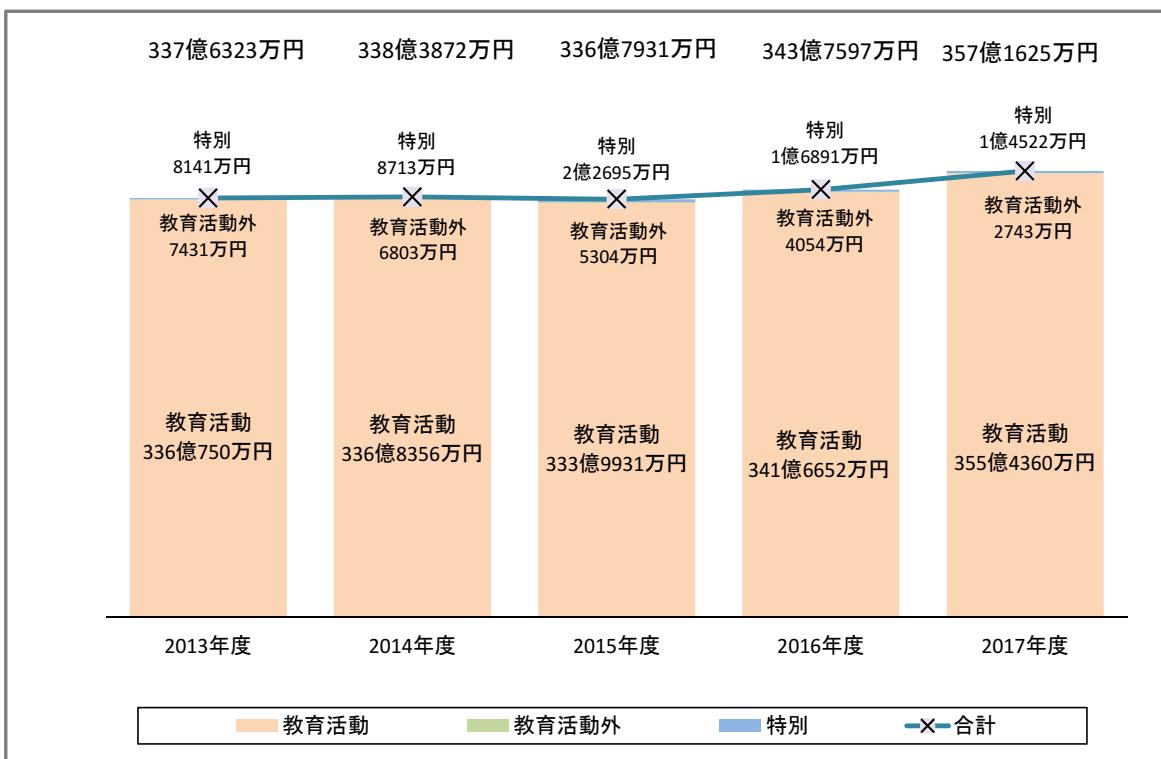
事業活動収支計算書等の5ヵ年推移

万円未満切り捨て

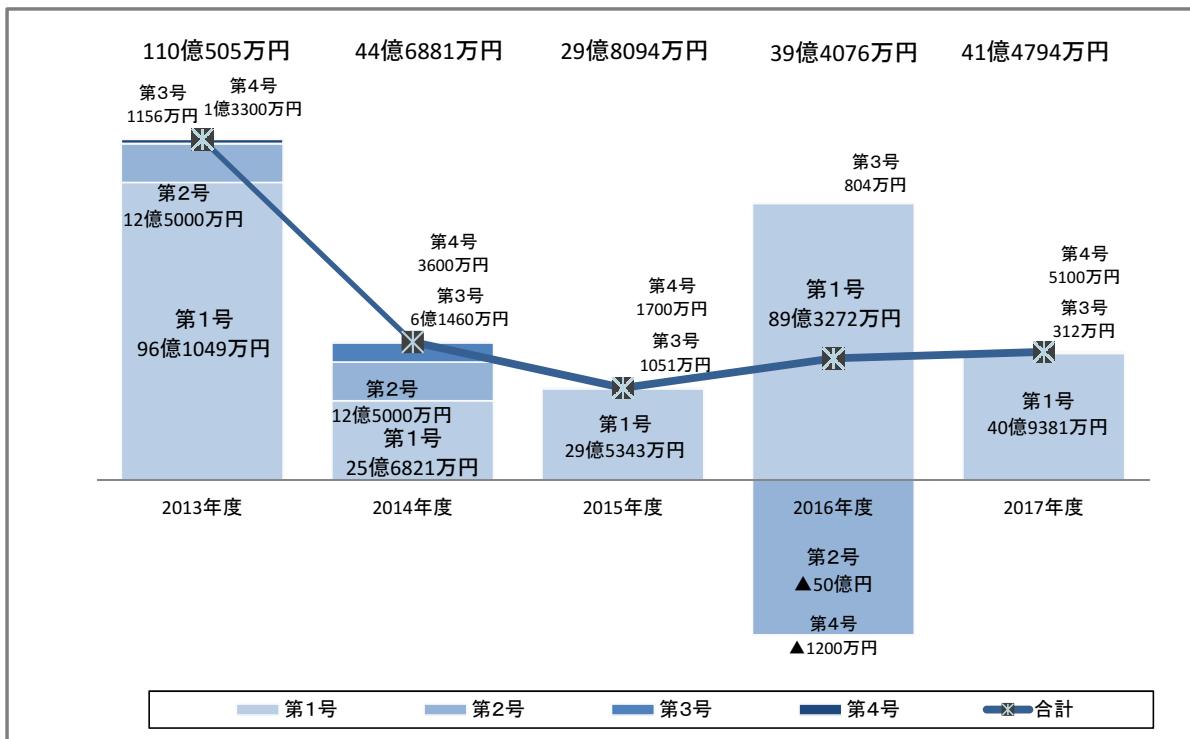
事業活動収入



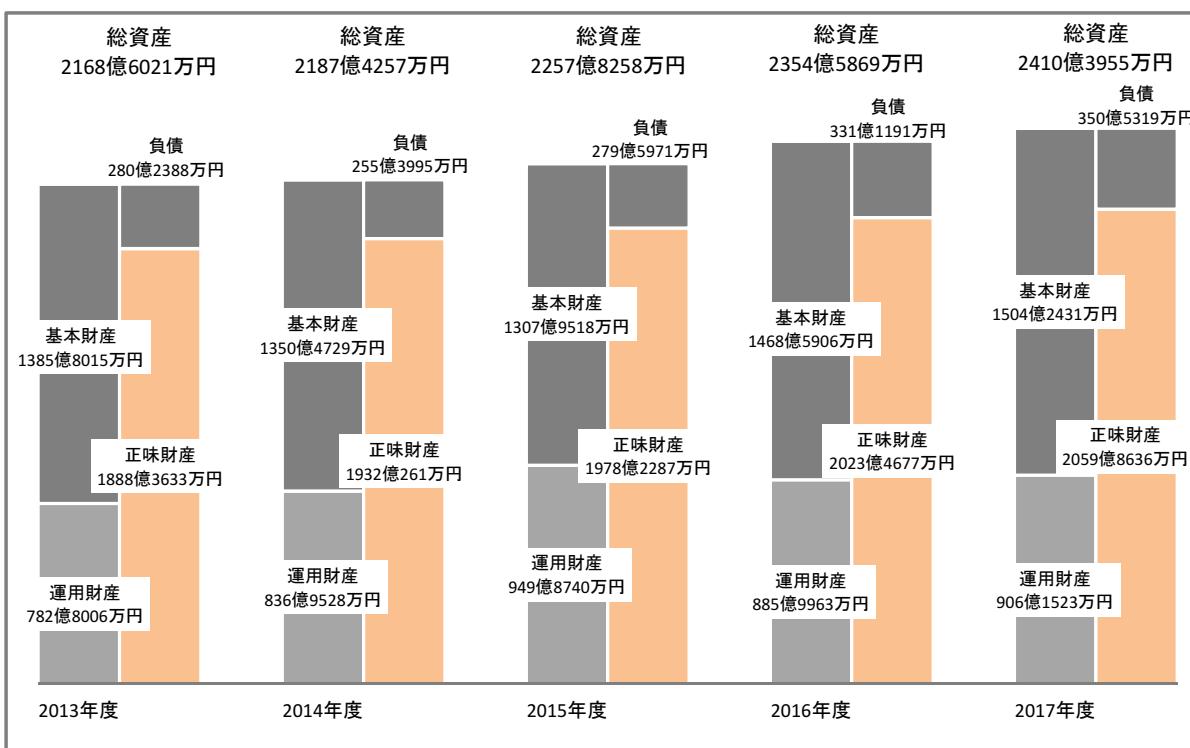
事業活動支出



基本金組入額



財産目録



「財務状況の5カ年推移」の説明

※〈 〉内の数字は2013年度決算額を現行の会計基準に組み替えて比較したもの。なお比較対象である2013年度は常翔啓光学園と合併した年度であり、正味財産 27億7372万667円を寄付金として処理しているため帰属収入が一時的に増加している。

学校法人の負債とならない収入である事業活動収入〈8億2861万円減／2.1%減〉は、外的要因の影響を受けやすい寄付金を除き安定して推移しています。

事業活動収入のうち、学生生徒等納付金、手数料、補助金は、資金収支計算書と同額です。寄付金は、資金収入に構築物、備品などの現物寄付を加えたものです。資産売却差額〈1億4489万円増／45.7%増〉は、例年、退職年金引当特定資産などの有価証券売却差額を計上していますが、2017年度はそれに加え、工大八幡工学実験場用地の一部を売却したことによる施設売却差額を計上しています。

事業活動支出〈19億5302万円増／5.8%増〉では、人件費〈6億4295万円増／3.3%増〉、教育研究経費〈11億7043万円増／10.2%増〉および管理経費〈1億2269万円増／4.7%増〉がそれぞれ増加しています。これらの増加については、学園規模の拡大に伴う教職員数の増加、新学部・学科設置に係る費用負担、新築校舎の償却費負担などが大きく影響しています。

なお、2016年度の管理経費の増額には、工大梅田キャンパス開設関連経費や広国大学生寮の修繕費等一時的な要因によるものも含まれています。

この5年間のうち、当年度収支差額（事業活動収入から事業活動支出を差し引いた額から基本金組入額を控除した額）は、2013年度は合併差益により帰属収入（現行・事業活動収入）が増加しつつも、取得した固定資産の基本金組入により支出超過となりました。2014年度は広国大呉キャンパス5号館耐震補強改修工事、常翔中高グラウンド等整備工事などを行い、支出超過となりました。2015年度は工大梅田キャンパス建設工事費の中間払い、摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る一部費用負担などがありましたが、借入金により取得した資産の基本金を未組入額として繰り延べたため、収入超過となりました。2016年度は工大梅田キャンパスが竣工しましたが、建設費用の一部を借入金で賄い、また過年度から組み入れてきた第2号基本金を第1号基本金に振替えたことにより同年度に係る基本金組入額が抑えられ、収入超過となりました。

2017年度は、2件の土地取得事業のうち、摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る残金支払を借入金で賄ったため、今年度の固定資産取得に係る基本金組入額は抑えられましたが、借入金返済等による過年度未組入額に係る組入れもあり、支出超過となりました。

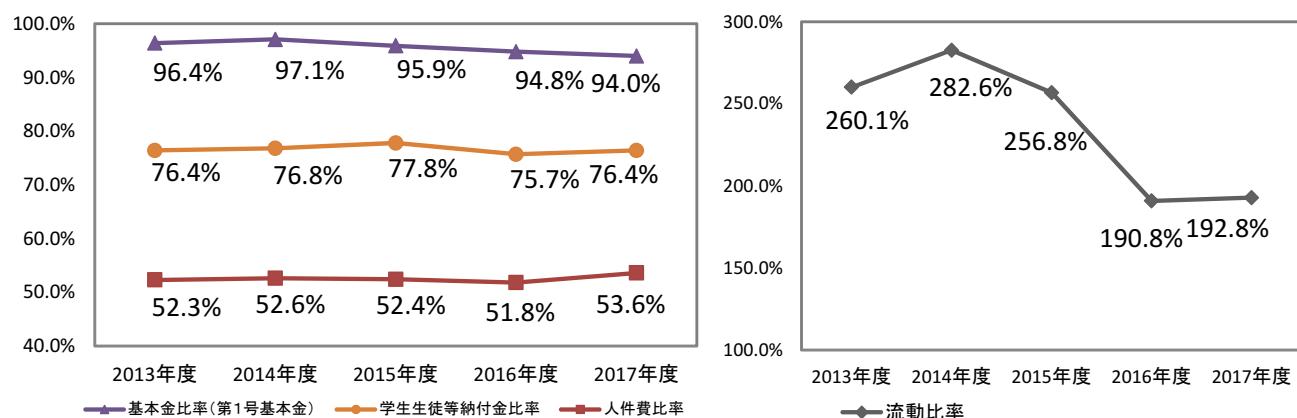
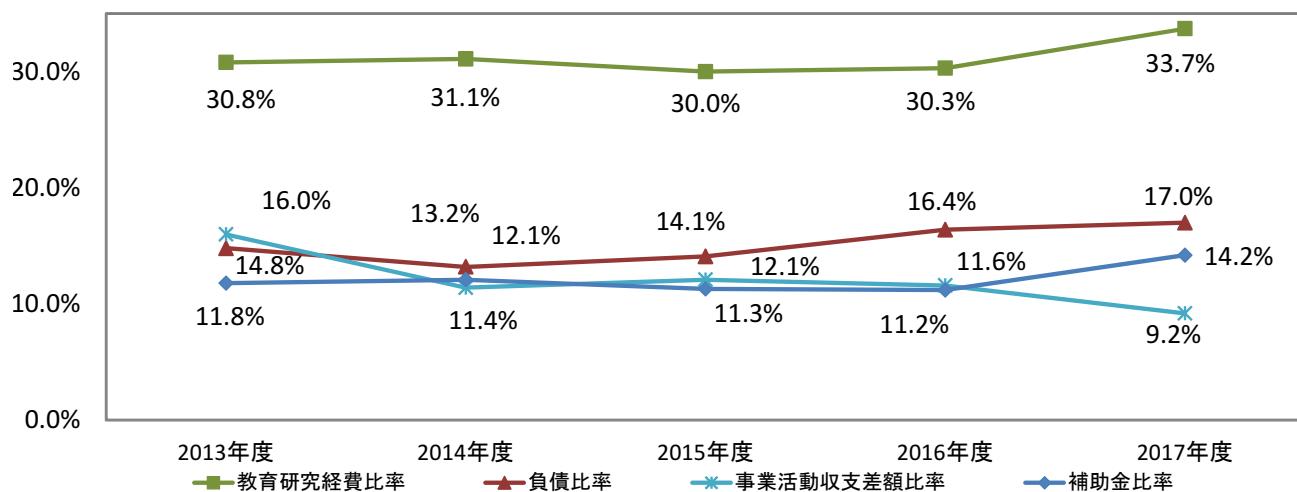
土地・建物や特定資産などの固定資産、現金預金などの流動資産を合わせた資産〈241億7933万円増／11.1%増〉は、土地・建物や有価証券などが増加しました。

学校法人が教育・研究活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして組み入れる基本金〈155億2647万円増／7.2%増〉に関しては、教育の用に供される固定資産の取得価額である第1号基本金が増加しています。2017年度にも土地の取得や前年度に取得した梅田キャンパス建物等固定資産の借入金の返済、未払金の支払いなどにより増加しました。

資産と負債の差額を示す正味財産（純資産）〈171億5003万円増／9.1%増〉は、学部等の新設による基本財産である校地・校舎などの取得により、右肩上がりで増加しています。

8. 財務比率の5カ年推移

比率名	算出方法	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
基本金比率（第1号基本金）	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.4%	97.1%	95.9%	94.8%	94.0%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	260.1%	282.6%	256.8%	190.7%	192.8%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	14.8%	13.2%	14.1%	16.4%	17.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度取支差額}}{\text{事業活動収入}}$	16.0%	11.4%	12.1%	11.6%	9.2%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	76.4%	76.8%	77.8%	75.7%	76.4%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	11.8%	12.1%	11.3%	11.2%	14.2%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	52.3%	52.6%	52.4%	51.8%	53.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	30.8%	31.1%	30.0%	30.3%	33.7%



「財務比率の5カ年推移」の説明

上記表の財務比率の5カ年推移に関して、日本私立学校振興・共済事業団発行の平成29年度版「今日の私学財政」における医歯系を除く私立大学法人の平均値と比較しながら、ここで説明します。

基本金比率とは、基本金要組入額に対する組入済基本金額の割合です。未組入額があるということは、借入金または未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するので、この比率は上限の100%に近づく方が望ましいと言えます。2017年度は、摂大寝屋川キャンパス用土地取得費用として資金を借入れたため、未組入額が増額となりました。このほか借入金による未組入額は、2007年度・2010年度の校舎建設資金の借入残、2013年度の大梅田キャンパス建設資金（中間払い）に対する借入残、および2015年度、2016年度の同建設資金（完成払い）に対するもので、これに2018年4月に支払う施設・設備関係支出の未払金を合わせた143億6096万761円が未組入額の合計となり、2017年度は94.0%と全国平均値（97.3%）を下回っています。

流動比率とは、流動負債に対する流動資産の割合で、1年内に償還または支払わなければならぬ流動負債に対し、現金預金および1年内に現金化が可能な流動資産がどれだけ用意されているか、すなわち短期的支払い能力を示す比率です。本法人の場合、2013年度以降に貸借対照表の表示を見直したことにより全国平均値を上回り推移していましたが、2016年度は190.7%、2017年度は192.8%と全国平均値を下回り推移しています。しかしながら、流動負債のうち約4割が返済義務の無い前受金（43.6%）であり、現金預金や短期有価証券に計上しなかった短期運用資金が固定資産である特定資産内に150億円以上計上されているため、支払能力に問題はありません。

負債比率は、総負債の純資産（基本金と繰越収支差額の合計）に対する割合であり、低い方が良いことになります。本法人は2007年度以降数年間にわたり校舎建設資金の借り入れを行っています。2017年度は摂大寝屋川キャンパス用土地取得に係る借り入れを行ったため17.0%と上昇し、全国平均値（14.2%）を上回っています。

事業活動収支差額比率とは、基本金組入前当年度収支差額の事業活動収入に対する割合です。この比率がプラスで大きくなるほど自己資金は充実されていることになり、マイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄えていないことになります。2013年度は常翔啓光学園との合併に伴う一般寄付金および現物寄付の受け入れという特殊要因により16.0%となりました。2014年度以降も全国平均値を上回り安定して推移しています。

学生生徒等納付金比率とは、学生生徒等納付金の経常収入（教育活動収入+教育活動外収入）に占める割合を指します。事業活動収入全体のうち最大の比重を占める学生生徒等納付金は、補助金や寄付金と比べて第三者の意向に左右されることの少ない重要な自己財源です。この比率が高ければ必ずしも良いというわけではありませんが、本法人の場合、2013年度の特殊要因を除けば、全国平均値を上回り安定して推移しています。

補助金比率とは、補助金の事業活動収入に占める割合で、私学にとって学生生徒等納付金に次ぐ大きな収入という点で高い方が良いといわれますが、国や地方公共団体の財政事情に左右され依存性の高い収入ですので、一概に高ければよいという訳ではありません。本法人の場合、学生生徒等納付金比率が高いので、その分低くなることもあります。2017年度は広国大呉キャンパス整備に係る施設設備補助金収入の計上により、14.2%と、全国平均値（12.3%）を上回っています。

人件費比率は、人件費の経常収入に占める割合です。人件費は事業活動支出の最も大きな項目であり、人件費比率の上昇は事業活動収支の悪化を招く要因となります。本法人の場合、事業活動収入（旧：帰属収入）を分母とする旧会計基準時の比率では、2015年度に全国平均値を僅かに上回るもの、その他の年度では全国平均を下回り安定して推移しています。経常収入を分母とする比率となってからも、2016年度は経常収入の増加により全国平均値を下回り、2017年度も、退職給与引当金繰入額が前期と比べて約2.8億円増となるものの、53.6%と全国平均値（53.6%）並みとなりました。

教育研究経費比率は教育研究経費の経常収入に対する割合です。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれています。これらの経費は教育研究活動の維持・発展のためには不可欠なものであり、この比率は収支均衡を失しない範囲内で高くなるほど望ましいと言えます。本法人の場合は、30%付近で安定的に推移しています。2017年度は、工大大宮キャンパス再開発事業に係る施設保守修繕費や前年度竣工の梅田キャンパスの減価償却額負担など教育研究経費の増額が影響し、33.7%と全国平均値（33.0%）を上回りました。